余市町

安　芸　遺　跡

余市町黒川第一土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２００２．９
余市町教育委員会

序

余市町は積丹半島の基部に位置し、北は日本海に面し、三方を緩やかな丘陵に囲まれた人口約24,000人の町です。

余市町は気候が比較的温暖なことから海の幸、山の幸にも恵まれて北海道では早くから人が定住し、生活を営んでいました。

このような歴史を物語るように文化財が多くあり、国指定史跡フゴッペ洞窟・大谷地貝塚、国指定重要文化財旧下ヨイチ運上家、国指定史跡旧福原漁場の４件の国指定文化財をはじめ、北海道指定文化財２件、余市町指定文化財３３件さらに埋蔵文化財包蔵地６３カ所が知られています。

安芸遺跡は黒川砂丘に立地する縄文時代後期の遺跡でありほとんど町内で知られていなかった遺構、遺物が発見されました。

縄文時代後期はストーンサークルが作られていた社会でこの遺跡は当時の生活を知る上で重要と言えます。

今回の発掘調査は試掘による範囲確認調査から緊急発掘調査に至るまでに北海道教育委員会には種々のご指導を頂きました。また黒川第一土地区画整理組合の方々には発掘の期間中多大なご協力を頂きました。ここに感謝申し上げ、安芸遺跡発掘調査報告書刊行の挨拶とさせて頂きます。

平成14年９月

余市町教育委員会
教育長　利　輝夫

例　　言

1，本書は、平成12年度余市町黒川第一土地区画整理事業に伴う安芸遺跡の緊急発掘調査の報告書である。

2，本遺跡は北海道余市町黒川町367-3, 370, 371番地にあり遺跡の登載番号はD-19-19である。

3，本書の執筆、編集は乾芳宏が行った。

4，発掘調査および整理体制

・発掘調査体制　教　育　長　　利　輝夫
　　教育次長　　江戸栄男
　　文化財課長　　盛　昭史

・調査担当者　文化財課文化財係長　乾　芳宏

・発掘調査　1,764㎡

・発掘期間　平成12年８月13日～10月20日

・整理期間　平成12年10月23日～平成13年３月30日

・発掘及び整理作業員　阿部政武・新谷大輔・北山嘉壽夫・工藤忠幸・菅原勇悦　寺岡重幸・新谷美香・大森朋恵・仲鉢悦子・野田真紀子

5，遺物の保管

遺跡から出土した遺物については、余市町教育委員会が保管管理する。

6，発掘調査及び整理作業には住宅建設課土門仁課長、土地区画整理推進室山本正行室長、亀尾次雄係長、笹山浩一係長、飯島利明主査の現地協力をはじめ下記の方々の指導、助言および協力を頂いた。

北海道教育委員会　大沼忠春・千葉英一・田才雅彦・工藤研治、北海道埋蔵文化財センター　畑　宏明、小樽市教育委員会　石川直章・石神　敏・青木　誠、青木延広、仲鉢　浩

（敬　称　略）

凡　　例

1，本書は、遺構・遺物の略号及び記号を次のように用いている。

（1）遺構　住居跡　H（House）　土　坑　P（Pit）
　　墓　坑　GP（Grave　Pit）　炉　跡　F（Fire　Place）
　　フレイク集中　FC（Flake　Chip）

2，本書は基本的に次のような縮尺としている。

遺構関係　1/40　遺物関係　土器1/3　土製品　1/2　剥片石器　1/2
礫石器1/3　なお、それ以外については縮尺を入れて示した。

3，写真図版の縮尺は任意である。

本文目次

第１章　発掘調査の経緯と調査方法……1
第２章　遺構と遺物……6
第３章　遺構外出土の遺物……24
第４章　ま　と　め……66

図版目次

第１図　遺跡の位置……1
第２図　土地区画整理事業区域と発掘調査場所……2
第３図　遺構平面図……4
第４図　遺跡の層序……5
第５図　H－１平面図……11
第６図　H－２平面図……12
第７図　H－２出土遺物……13
第８図　P－１平面図と出土遺物……14
第９図　P－２平面図と出土遺物……15
第10図　P－３平面図と出土遺物……16
第11図　P－３出土遺物……17
第12図　P－４・５・７平面図とP－７出土遺物……18
第13図　P－６平面図と出土遺物……19
第14図　P－８平面図と出土遺物……20
第15図　P－９～13平面図とP－12・13出土遺物……21
第16図　F－１～19平面図とF－７・18出土遺物……22
第17図　遺構外出土の土器（１）……27
第18図　遺構外出土の土器（２）……28
第19図　遺構外出土の土器（３）……29
第20図　遺構外出土の土器（４）……30
第21図　遺構外出土の土器（５）……31
第22図　遺構外出土の土器（６）……32
第23図　遺構外出土の土器（７）……33
第24図　遺構外出土の土器（８）……34
第25図　遺構外出土の土器（９）……35
第26図　遺構外出土の土器（10）……36
第27図　遺構外出土の土器（11）……37
第28図　遺構外出土の土器（12）……38
第29図　遺構外出土の土器（13）……39
第30図　遺構外出土の土器（14）……40
第31図　遺構外出土の土器（15）……41
第32図　遺構外出土の土器と土製品……42
第33図　遺構外出土の石器（１）……43
第34図　遺構外出土の石器（２）……44
第35図　遺構外出土の石器（３）……45
第36図　遺構外出土の石器（４）……46
第37図　遺構外出土の石器（５）……47
第38図　遺構外出土の石器（６）……48
第39図　遺構外出土の石器（７）……49
第40図　遺構外出土の石器（８）……50
第41図　遺構外出土の石器（９）……51
第42図　遺構外出土の石器（10）……52
第43図　遺構外出土の石器（11）……53
第44図　遺構外出土の石器（12）……54
第45図　遺構外出土の石器（13）……55
第46図　遺構外出土の石器（14）……56
第47図　遺構外出土の石器（15）……57
第48図　遺構外出土の石器、石製品、自然礫……58
第49図　遺物出土状況（B-12グリッド）……59
第50図　遺物出土状況（B-13・14グリッド）……60
第51図　遺物出土状況（B-15グリッド）……61
第52図　遺物出土状況（C-12・13グリッド）……62
第53図　遺物出土状況（C-14・15グリッド）……63
第54図　遺物出土状況（C-18・19グリッド）……64
第55図　遺物出土状況
（D-13・14・16・17・18・19グリッド）……65

写真図版目次

写真１　発掘風景・完掘状況・遺構遺物出土状況
（P－２・７・８，H－１）……79
写真２　遺構（P-13）・遺物出土状況……80
写真３　遺構出土遺物（P－１・２・３・７）……81
写真４　遺構出土遺物（P－６・８，H－２）……82
写真５　遺構外出土の土器（１）第Ⅲ・Ⅳ群土器……83
写真６　遺構外出土の土器（２）第Ⅳ群土器……84
写真７　遺構外出土の土器（３）第Ⅳ群土器……85
写真８　遺構外出土の土器（４）第Ⅳ群土器……86
写真９　遺構外出土の土器（５）第Ⅳ群土器……87
写真10　遺構外出土の土器（６）第Ⅳ群土器……88
写真11　遺構外出土の土器（７）第Ⅳ群土器……89
写真12　土製品と石製品……90
写真13　遺構外出土の石器（１）……91
写真14　遺構外出土の石器（２）……92
写真15　遺構外出土の石器（３）……93
写真16　遺構外出土の石器（４）……94

第１章　発掘調査の経緯と調査方法

発掘調査の経緯

安芸遺跡は余市市街地から東方約1.5km に位置し、黒川砂丘上に存在する（第１図）。この地域一帯は湿地であり、水田経営地帯であったが、減反政策や宅地化が進むようになった。余市町ではこのような状況を鑑み、地区の過半を占めている農地を、核家族化による分離家族等を受け入れる良好な住宅化、及び田園環境の調和のとれた広面積の住宅地として整備して住宅地への変換を図ることを目的に都市計画道路決定をし、これらの幹線道路を軸として道路、公園等の公共施設の整備計画するために余市町黒川第一土地区画整理組合が施工者となって569haを平成７年度から16年度を期間として着工することとなった。

しかし、範囲内には安芸遺跡が登載されていることから、平成12年４月27日に埋蔵文化財保護のための事前協議書が余市町黒川第一土地区画整理組合から余市町教育委員会に提出された。すでに遺跡の周辺まで工事が進んできているため一時工事を中断し、道教育委員会と協議をし、文化課調査班による道路部分の範囲確認調査が実施することとなった。砂丘部分をはじめ、泥炭地においても多量の遺物が確認されたことから、その状況をもと

第１図　遺跡の位置図（１：50000）

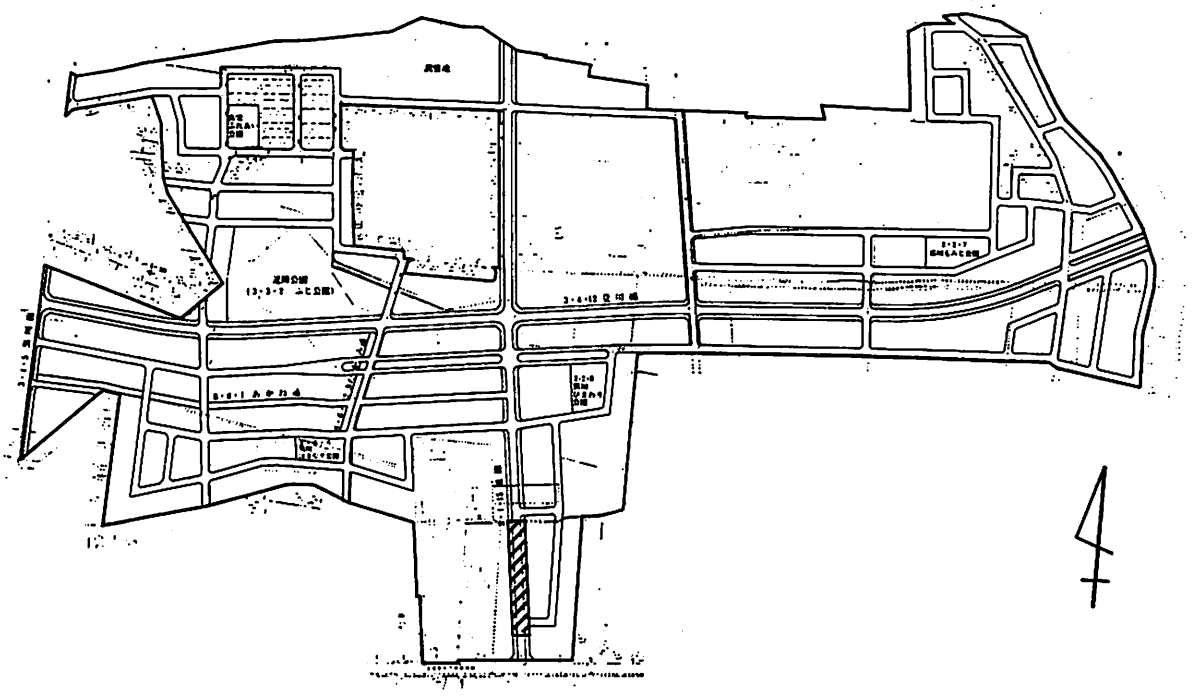
に文化課調査班と再協議をしたところ、遺跡全体の広がりの把握が必要とのことから区画整理面積の全体について再度範囲確認調査をする事となり６月19～30日の３週間に渡る調査を実施した。その期間中思いもよらず迷鳥アネハヅルが飛来し調査に一部支障がでることもあった。調査により縄文時代中期から後期にかけての遺跡で砂丘台地に分布し、北側は湿地または海岸の浅瀬となり遺跡のないことが判明した。その結果、道教育委員会、土土地区画整理組合、町教育委員会との三者で協議を行い、遺跡の重要性を認識した上で、泥炭地部分は３ｍもの深さと多量の遺物が包含されていることから発掘調査の困難性を考慮して道路の工事設計を変更し橋脚工法として保存を図ることで協議する進め、他については発掘調査をすることで話し合いが解決した。

組合と町教育委員会は道教育委員会の回答を受けて、発掘調査の方法を検討し８月13日～10月20日の期間に発掘調査を実施することになった。

調査の方法

発掘調査区は車道部分と歩道部分に分かれている。車道部分は工事の際に掘削が及ぶために全面発掘とし、歩道部分は盛土であるが上下水道管の埋設のために掘削の及ぶ幅２ｍ部分のみを発掘することにした（第２図）。

調査の方法は車道のセンターラインと道路起点600ｍを５ｍグリットのＣ３として両側に10ｍ、２グリットとした。センターラインはＣ３グリット（X-90719.006 Y46011.197）とＣ24グリット（X-90829.825 Y46016464）の直線となり全体で南北に１～25、東西に



第２図　土地区画整理事業区域と発掘調査場所

A～Dグリットを設定した。表土は重機で除去した後にⅡ・Ⅲ層はスコップと移植ゴテで掘り下げた。

遺物の取り上げはグリット別、層位の記入を行い、遺物が密集している場合にはグリットごとに20分の１図で実測をして一括または主要な遺物については番号をつけて取り上げた。

写真は遺物の出土状況と一括遺物を対象とし、35㎜リバーサルフィルムを主体として、補助的にカラーフィルムで撮影をした。

接合では土器破片周縁の摩滅が激しく、胎土がもろいことから接着剤のみでは難しいために石膏による接合強化、復元に多くの時間を費やすこととした。

整理作業は発掘時において雨天のときは遺物洗浄を行い、発掘終了後も引き続き遺物洗浄、注記、接合を主体としながら実測・拓本を行った。

遺跡の層序

余市湾は砂丘列が発達しており、現在の海岸近くは大川砂丘と呼ばれ、縄文時代後期～擦文時代の道路が分布している。また、海岸線から約１ｋｍほど内陸には黒川砂丘が形成され、安芸遺跡はこの砂丘上に立地している。

遺跡の現況は畑地、果樹栽培に利用されており、遺跡の発見は昭和38年に土地改良の際に円礫の配石が出土したことによる。早速、峰山巌氏を中心として調査をしているが報告書の刊行が無いために詳細については不明である。

遺跡の基本層序は４層に分けられ、以下のとおりである（第４図）。

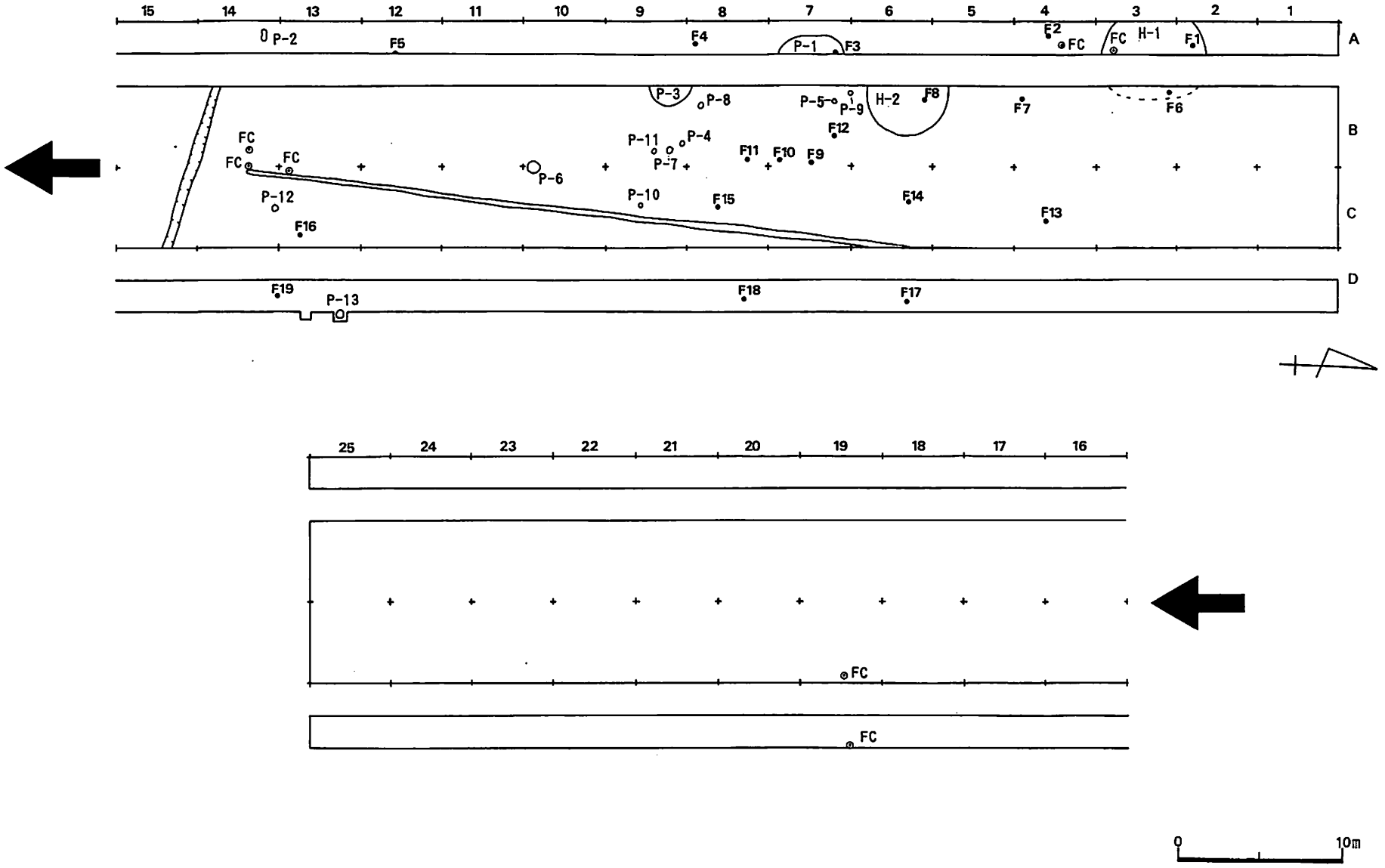
Ⅰ層　黒色土　　表土及び耕作で厚さ約20ｃｍを測る。

Ⅱ層　黒色土　　縄文時代の遺物包含層で厚さ約20ｃｍを測る。

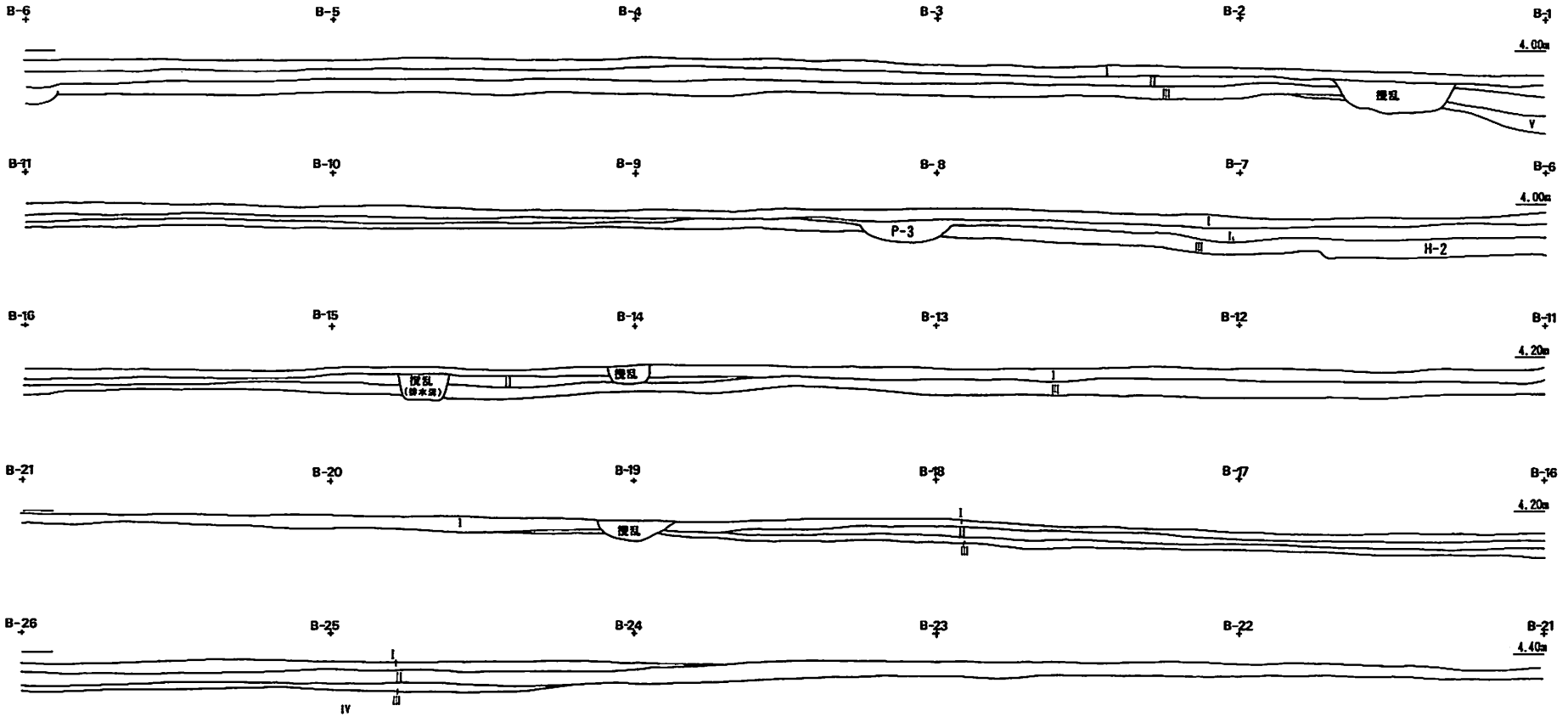
Ⅲ層　暗褐色土　縄文時代の遺物包含層で厚さ約10ｃｍを測る。

Ⅳ層　黄褐色砂　黒川砂丘であり固くしまり上面から縄文時代中期末の遺物が若干出土する。約20ｃｍほど掘り下げると浸水する。

遺物包含層はⅡ・Ⅲ層・Ⅳ層上面であり、縄文時代中期末から後期後半の遺物が出土している。層序による土器型式の差については把握することは困難であったが、Ⅲ層に縄文時代中期、Ⅱ層に後期の遺物が多い傾向がある。


15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
A
B
C
D
P-2
F5
F4
P-1
F3
F2
FC
FC
H-1
F1
P-3
P-8
P-5
P-9
H-2
F8
F7
F6
F12
P-11
P-4
P-7
F11
F10
F9
FC
FC
FC
P-6
P-12
P-10
F15
F14
F13
F16
F19
P-13
F18
F17
25 24 23 22 21 20 19 18 17 16
FC
FC
0
10m

第３図　遺構平面図


B-6
B-5
B-4
B-3
B-2
B-1
4.00m
撹乱
B-11
B-10
B-9
B-8
B-7
B-6
4.00m
P-3
H-2
B-16
B-15
B-14
B-13
B-12
B-11
4.20m
撹乱
(排水溝)
撹乱
B-21
B-20
B-19
B-18
B-17
B-16
4.20m
撹乱
B-26
B-25
B-24
B-23
B-22
B-21
4.40m

第４図　遺跡の層序

第２章　遺構と遺物

今回の発掘調査により竪穴住居跡２軒、土坑13基、焼土19ヵ所の遺構が発見され、Ⅲ層上面～Ⅳ層において確認された。

便宜的に住居跡としたのは５m以上とし、それ以下については土坑としたが、個々の遺構で説明しているように仮小屋的なもの、墓坑、貯蔵坑と思われるものも含まれている。

遺構の分布は住居跡と土坑との切り合いはなく、東側と西側に生活空間が分かれている状況である（第３図）。

● 竪穴住居跡（H）が２軒確認され、径約６mの円形を呈するもので、縄文時代後期前半から中頃のものと思われる。

・H－１（第５図）

A－２・３グリッドのトレンチで確認されたために一部の調査であるが、形態は円形を呈するものと思われ、直径約6.8m、深さ0.2mを測る。Ⅲ層を浅く掘り込んだ竪穴で中央に炉跡が見られる。覆土は暗褐砂で、壁際は白色砂が見られた。遺物は南壁際に剥片の集中があるが、床面からの出土遺物はなく覆土から縄文時代後期と思われる土器の小破片が見られる程度であった。

・H－２（第６～７図）

B－５・６グリッドで確認された。一部は調査区外のために一部の調査であるが、形態は円形を呈し、直径約5.2m、深さ0.4mを計る。Ⅲ層を掘り込んだ竪穴で中央に炉跡が見られる。壁は砂地のために若干のくずれがあるが、柱穴と思われる直径約18cmで深さ約15cmの柱穴と思われるものが検出された。遺物は床面直上から縄文時代後期前半と思われる粘土の貼付や曲線上の沈線を有する大形の土器破片が２個体、わずかに離れてスタンプ状土製品の一部が出土し、いずれも伴出するものと思われる。覆土をみると粘性を有する黒色土がレンズ状に堆積しており、恐らく水害などによる氾濫した泥土と思われ、さらにその上部に焼土が見られ、縄文時代後期中葉から後半のものと推定される。

● 土坑（P）については13基が確認された。P－１・３は小竪穴と言えるもので仮小屋として使用されていた可能性もある。P－２・６・７は完形に近い土器も見られ、ベンガラの痕跡も一部で見られるために遺体の痕跡は無いが墓の可能性がある。P－12・13は炭化した植物遺体が検出されており、貯蔵坑として利用していたと考えられる。

・P－１（第８図）

A－７グリットのトレンチⅣ層で確認されたために。一部は調査区外のために半分のみの調査である。円形を呈し、直径3.65m、深さ0.3mを測る。浅い竪穴で中央の炉跡が見られることから小形の住居跡、作業場の可能性がある。また覆土の暗褐色砂上部には焼土が見られ２段階の文化層が看取される。土器破片やスタンプ形土製品が坑底から出土してい

る。土製品は底面が緩やかな凸形をしており、何かをすりつぶすために使用していたものであろう。時期については縄文時代中期末葉から後期前半に相当すると思われる。

・Ｐ－２（第９図）

Ａ－14・16グリッドのⅣ層で確認された。楕円形を呈し、長軸1.6m、短軸1.3m、深さ0.4mを測る。覆土は暗褐色砂で、坑底からほぼ完形のものと半分だけの北筒式土器が出土している。両者ともに口縁部に押引文と刺突文を施している。遺体は検出されていないが墓坑の可能性も考えられる。時期については中期後半の北筒式に相当する。

・Ｐ－３（第10～11図）

Ｂ－８・９トレンチのⅣ層で確認された。一部は調査区外のために部分的調査であるが、円形を呈し、直径2.93m、0.3mを計る。壁は緩やかな曲線を描き、坑底より完形に近い余市式土器が１個体出土している。覆土は暗褐色砂、茶褐色の互層をなす自然堆積となっており、作業場などの仮小屋の可能性もある。土器は焼成がよく縄文原体はＲＬとＬＲを交互に施文しており粘土紐を口縁に対して並行に貼付けている。

時期については縄文時代中期末葉から後期初頭に相当すると思われる。

・Ｐ－４（第12図）

Ｂ－８グリッドのⅣ層で確認された。楕円形を呈し、長軸0.9m、短軸0.74m、0.3mを測る土坑である。覆土からは土器小片や剥片類が出土している。時期について判然としないが縄文時代中期後半から後期のものと思われる。

・Ｐ－５（第12図）

Ｂ－７グリッドのⅣ層で確認された。円形を呈し、直径0.6m、深さ0.1mを測る土坑である。坑底は平らで浅いものである。時期については判然としないが縄文時代中期後半から後期のもと思われる。

・Ｐ－６（第13図）

Ｂ－10・Ｃ－10グリッドのⅣ層で確認された。楕円形を呈し、長軸1.86m、短軸0.7m、深さ0.3mを測る。覆土上部からは倒立した状態の完形の土器とともに、ベンガラと思われる赤色顔料が散布されていることから墓坑の可能性がある。

時期については縄文時代後期の手稲・ホッケマ式に相当するものと考えられる。

・Ｐ－７（第12図）

Ｂ－９グリッドのⅣ層で確認された。楕円形を呈し、長軸１m、短軸0.9m、深さ0.4mを測る。覆土上部からは標識のように板状の擦石が見られ、土器破片が出土していることから墓坑の可能性もある。時期については縄文時代後期後半と思われる。

・Ｐ－８（第14図）

Ｂ－８グリッドのⅣ層で確認された。円形を呈し、直径0.9m、深さ0.3mを測る。覆土上部からはほぼ完形のホッケマ式土器とフレイクが坑底から出土しているおり墓坑の可能性も考えられる。時期は判然としないが縄文時代中期から後期後半のものと思われる。

・Ｐ－９（第15図）

Ｂ－７グリッドのⅣ層で確認された。楕円形を呈し、長軸0.68m、短軸0.67m、深さ0.1mを測る小形の土坑である。坑底は平らであり、浅いものでＰ－５・８と類似する。時期は判然としないが縄文時代中期から後期後半のものと思われる。

・Ｐ－10（第15図）

Ｃ－９グリッドのⅣ層で確認された。円形を呈し、直径0.55m、深さ0.2mを測る小形の土坑である。坑底は丸みを持っている。時期については縄文時代後期後半のものと思われる。時期は判然としないが縄文時代中期から後期後半のものと思われる。

・Ｐ－11（第15図）

Ｂ－９グリッドのⅣ層で確認された。楕円形を呈し、長軸0.96m、短軸0.85m、深さ0.4mを測る小形の土坑である。坑底は平らである。時期は判然としないが縄文時代中期から後期後半のものと思われる

・Ｐ－12（第15図）

Ｃ－14グリッドのⅣ層で確認された。楕円形を呈し、長軸0.8m、短軸0.7m、深さ0.2mを測る土坑である。坑底は丸みをもち、覆土からは炭化したドングリ67ｇ、クリ0.3ｇなどが土器破片とともに出土したため貯蔵穴として使用していたと考えられる。
時期については縄文時代後期後半のホッケマ式に相当すると思われる。

・Ｐ－13（第15図）

Ｄ－13グリッドのⅣ層で確認された。円形を呈し、直径0.9m、深さ0.3mを測る。坑底はわずかに広い袋状を呈している。この土坑にはクルミ34.7ｇ、ドングリ6.740ｇ、クリ0.2ｇが炭化した状態で詰まっていたために貯蔵坑として使用していたと考えられる。土層からⅡ層上面から掘り込まれていることからＰ－12と同様に時期については縄文時代後期後半のホッケマ式に相当すると思われる。

● 炉跡（Ｆ）については19ヵ所が確認されすべて地床炉で地表面をわずかに掘り込む程のもので伴出遺物はほとんど無いが、Ⅲ層の遺物関係から縄文時代後期中期末から後期中頃のものと考えられる。

・Ｆ－１（第16図）

Ａ－２グリッドで確認された。Ｈ－１の覆土上面にあり、楕円形を呈し長軸0.6m、短軸0.64mを測る。炉底は固くしまっている。

・Ｆ－２（第16図）

Ａ－４グリッドのⅢ層上面で確認された。ほぼ円形を呈し直径0.37mを測る。炉底は固くしまっている。

・Ｆ－３（第16図）

Ａ－７グリッドのⅢ層上面で確認された。ほぼ円形を呈し直径0.55mを測る。炉底は固くしまっている。

・F－4（第16図）

A－8グリッドのⅢ層上面で確認された。楕円形を呈し長軸0.42m、短軸0.34mを測る。炉底は固くしまっている。

・F－5（第16図）

A－12グリッドのⅢ層上面で確認された。ほぼ円形を呈し直径0.35mを測る。炉底は固くしまっている。

・F－6（第16図）

B－3グリッドのⅢ層上面で確認された。瓢箪形を呈し長軸0.42m、短軸0.34mを測る。炉底は固くしまっている。

・F－7（第16図）

B－4グリッドのⅢ層上面で確認された。楕円形を呈し長軸0.5m、短軸0.4mを測る。炉底は固くしまっている。

・F－8（第16図）

B－4グリッドのH－2の覆土上面で確認された。楕円形を呈し長軸0.45m、短軸0.2mを測る。炉底はやや固い程度であった。

・F－9（第16図）

B－7グリッドのⅢ層上面で確認された。一部撹乱があるが、楕円形を呈し長軸1.3m、軸1.05mを測る。炉跡付近から台石が検出されており、調理などに関係するものと思われる。炉底は固くしまっている。

・F－10（第16図）

D－7グリッドのⅢ層上面で確認された。ほぼ円形を呈し直径0.6mを測る。炉底は固くしまっている。

・F－11（第16図）

B－8グリッドのⅢ層上面で確認された。不定円形を呈し長軸1.04m、短軸0.86mを測る。炉内部から焼けている礫が2点検出した。炉底は固くしまっている。

・F－12（第16図）

B－7グリッドのⅢ層上面で確認された。ほぼ円形を呈し直径0.45mを測る。炉底は固くしまっている。

・F－13（第16図）

C－4グリッドのⅢ層上面で確認された。楕円形を呈し長軸0.4m、短軸0.25mを測る。炉底は固くしまっている。

・F－14（第16図）

C－6グリッドのⅢ層上面で確認された。楕円形を呈し長軸0.53m、短軸0.4mを測る。土層上部は橙色の焼土、下部には炭化物が多く含まれていた。炉底は固くしまっている。

・F－15（第16図）

C－8グリッドのⅢ層上面で確認された。楕円形を呈し長軸0.66m、短軸0.4mを測る。炉底は固くしまっている

・F－16（第16図）

C－13グリッドのⅣ層上面で確認された。楕円形を呈し長軸0.8m、短軸0.5mを測り、焼土の周縁に炭化物が広く見られた。焼土内には焼けた礫が1点見られ、炉底は固くしまっている

・F－17（第16図）

D－6グリッドのトレンチ内のⅣ層上面で確認された。楕円形を呈し長軸0.65m、短軸0.5mを測る。炉底は固くしまっている

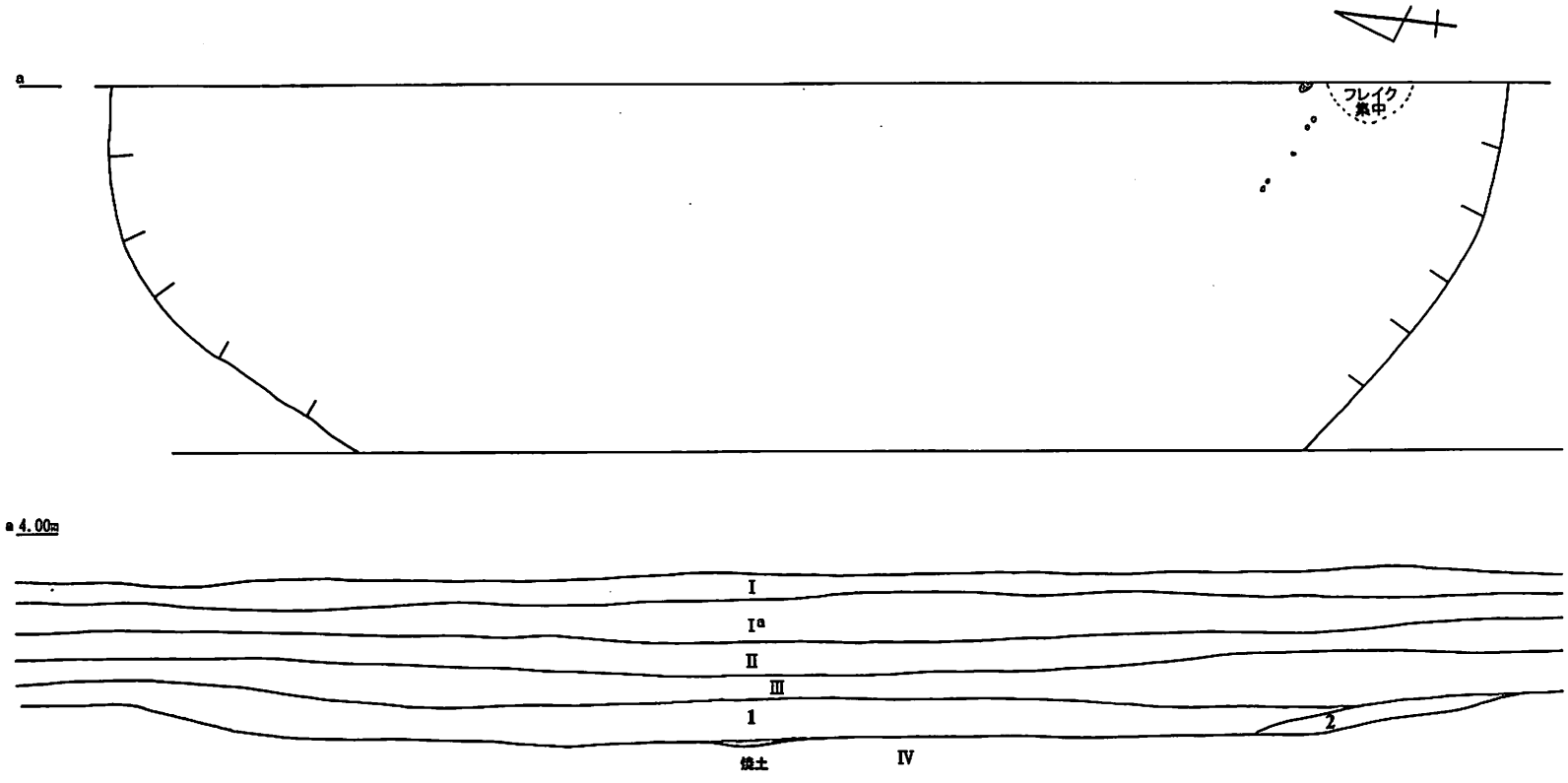
・F－18（第16図）

D－8グリッドのトレンチ内のⅣ層上面で確認された。楕円形を呈し長軸0.6m、短軸0.45mを測る。炉底は固くしまっている。焼土内から中期と思われる土器破片が出土しており縄文時代中期後半の可能性がある。

・F－19（第16図）

D－14グリッドのトレンチ内のⅢ層上面で確認された。楕円形を呈し長軸0.6m、短軸0.45mを測る。土層上部は橙色の焼土、下部には炭化物が多く含まれていた。炉底は固くしまっている。

H-1

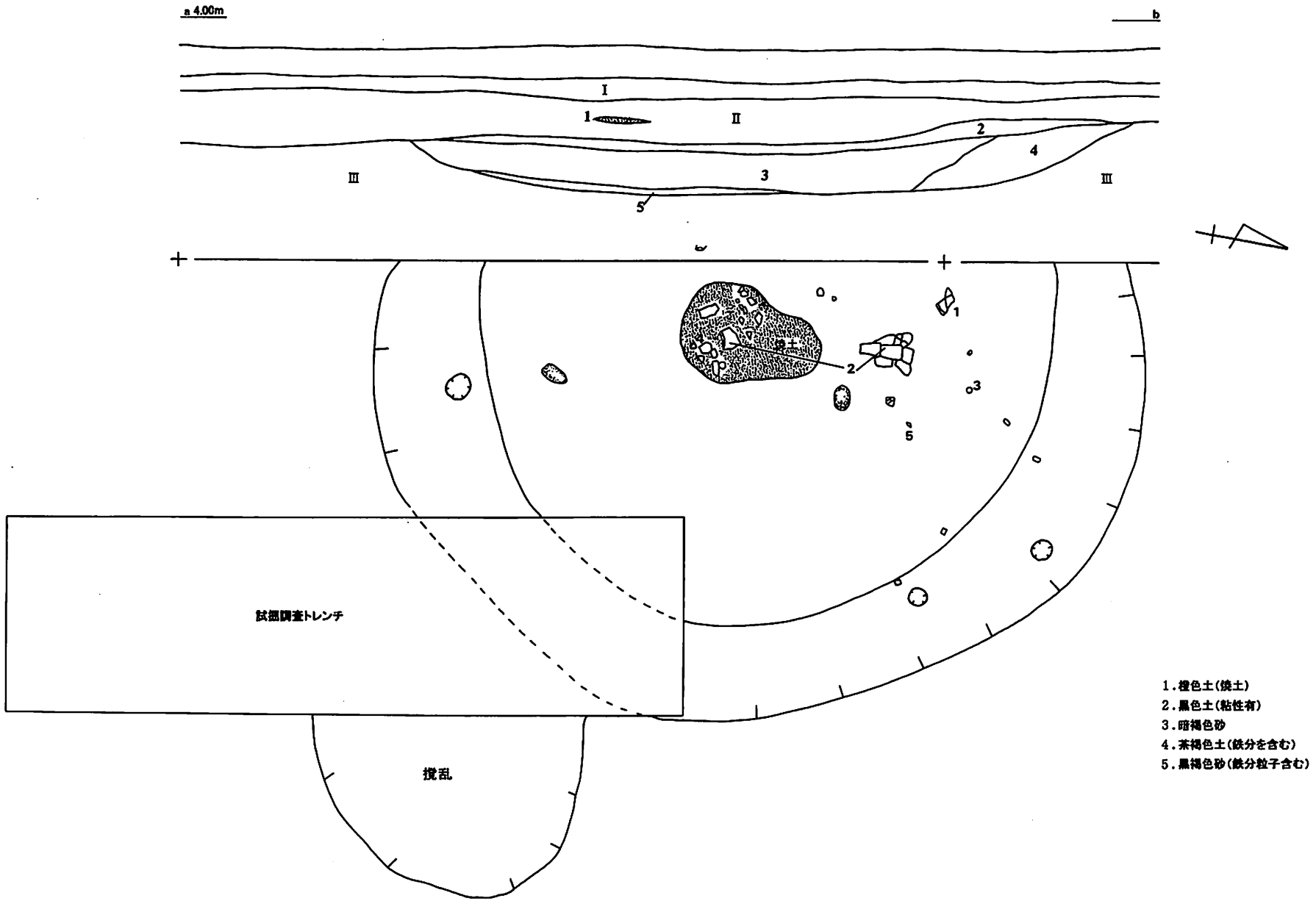


1. 暗褐色砂
2. 白色砂(火山灰?)

I 黒色土(ロームブロックを含む)
Ia 黒色土(耕作土)
II 黒色土(粘性有)
III 暗褐色土(鉄分ブロックを含む)
IV 黄褐色砂

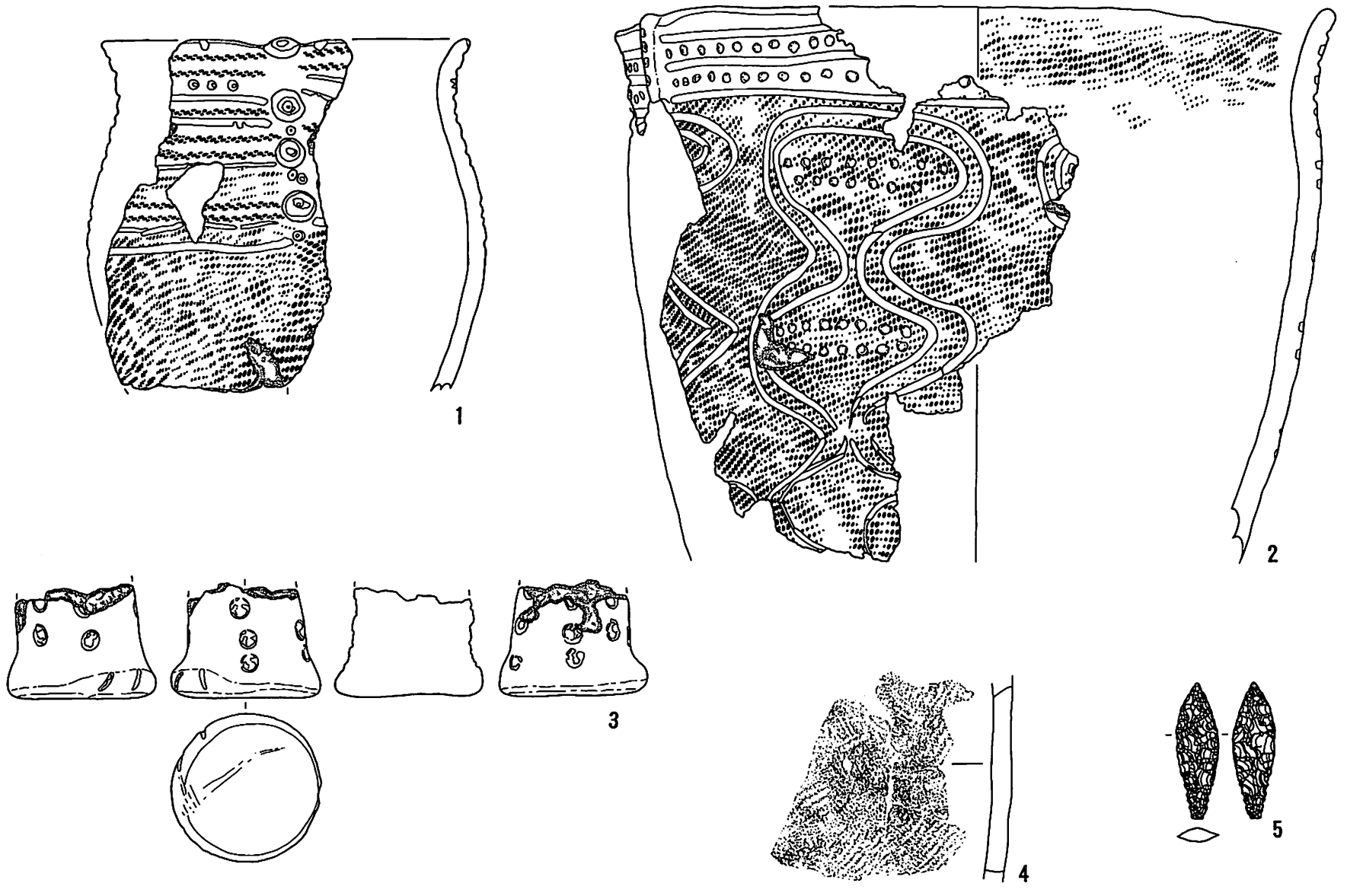
第5図　H-1 平面図

H-2

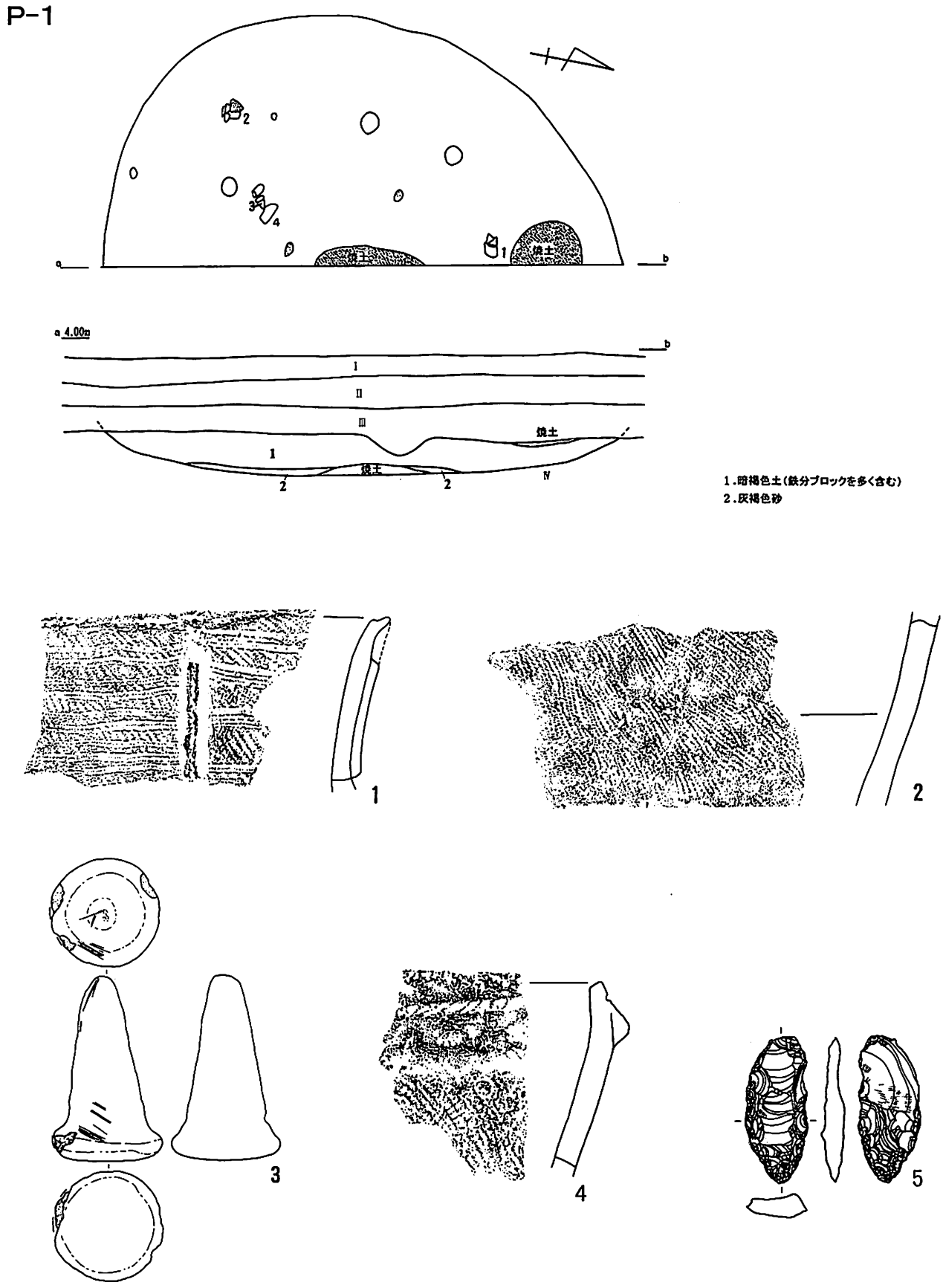

a 4.00m
b
I
II
III
1
2
3
4
5
焼土
試掘調査トレンチ
撹乱
1.橙色土(焼土)
2.黒色土(粘性有)
3.暗褐色砂
4.茶褐色土(鉄分を含む)
5.黒褐色砂(鉄分粒子含む)

第6図　H-2 平面図

H-2

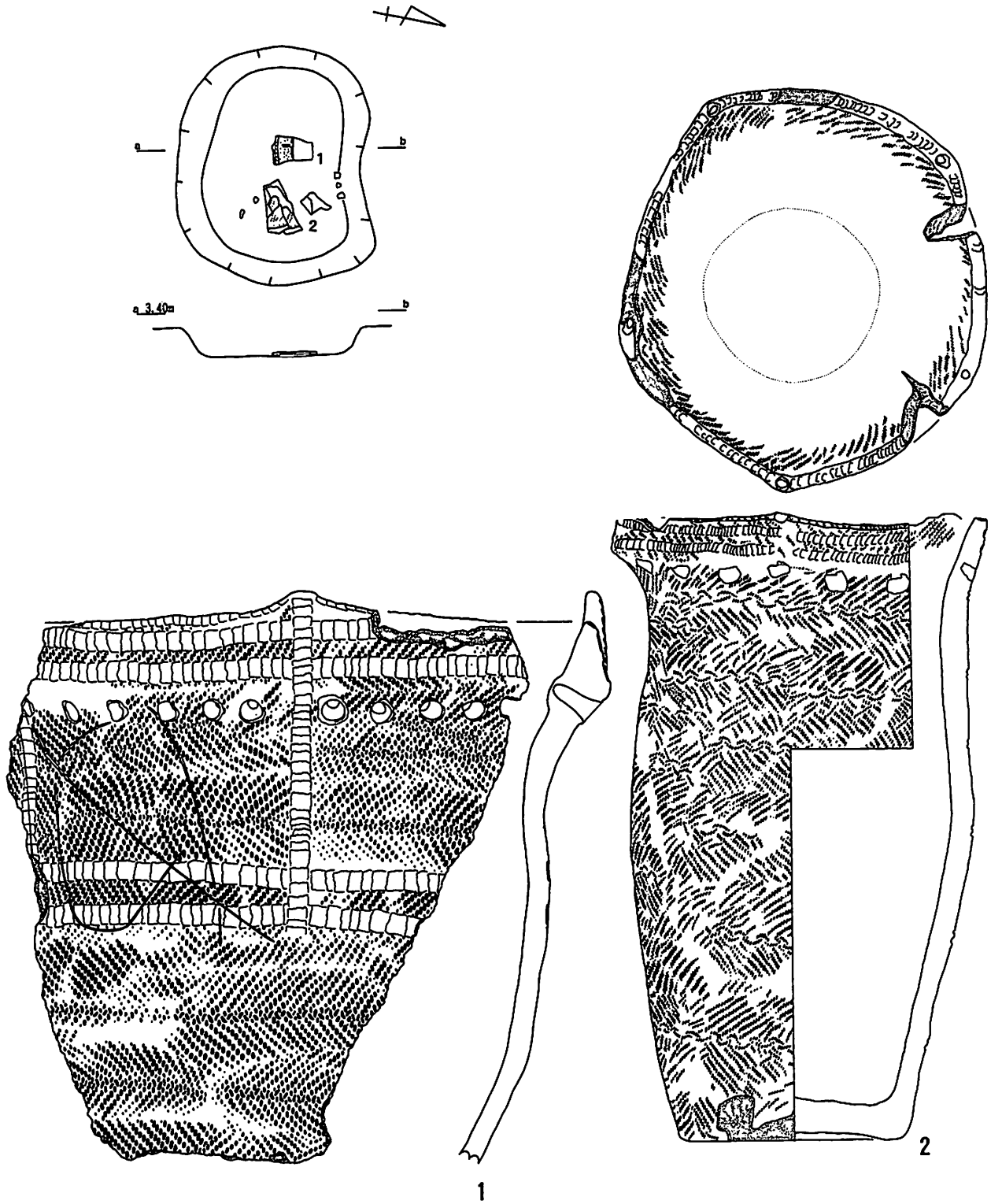


第7図　H-2 出土遺物



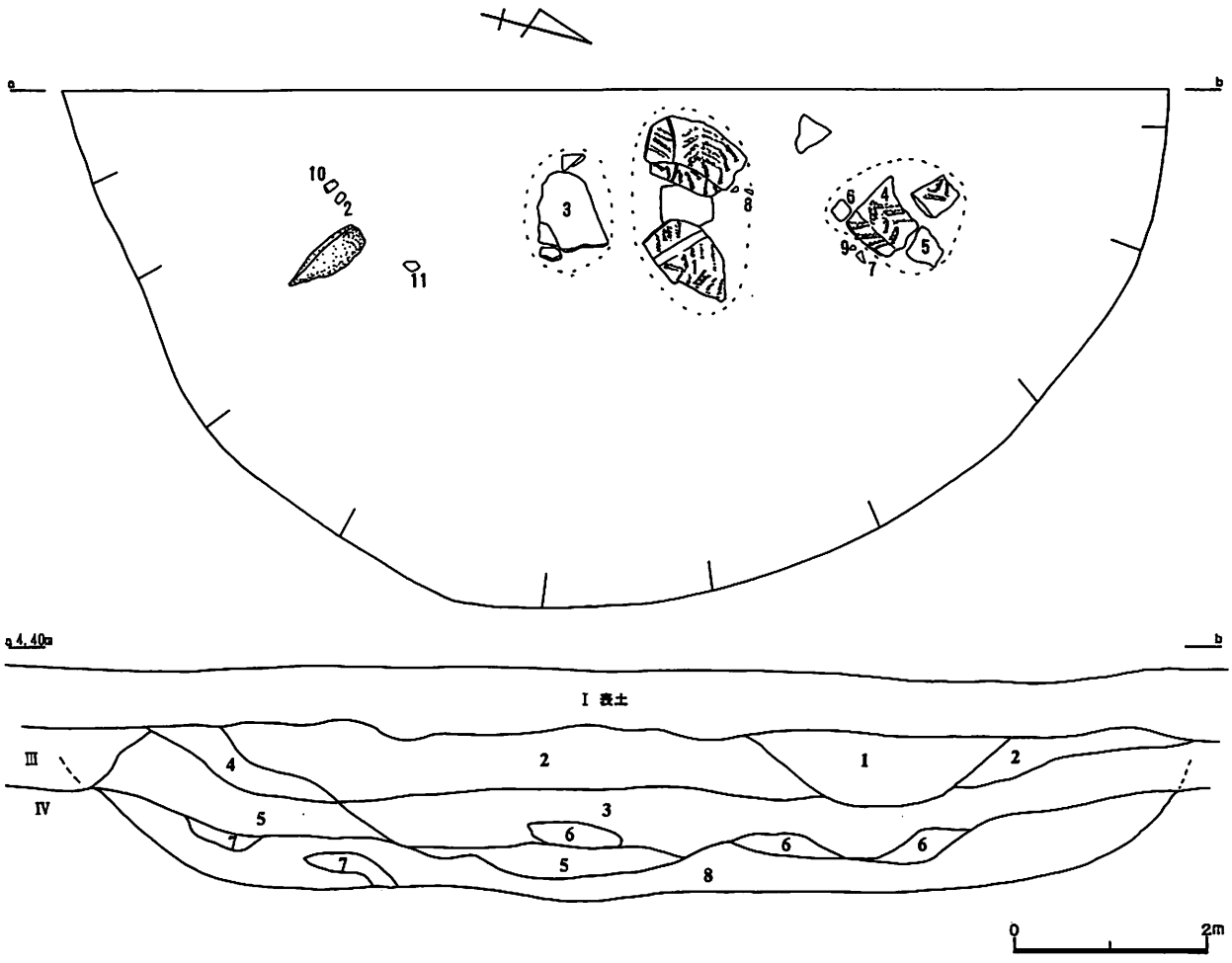
第８図　P－1　平面図と出土遺物

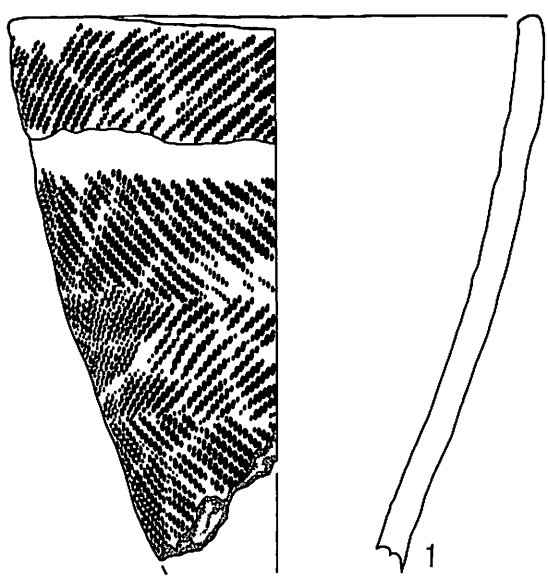
P-2



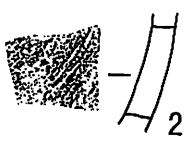
第９図　P－2 平面図と出土遺物

P-3



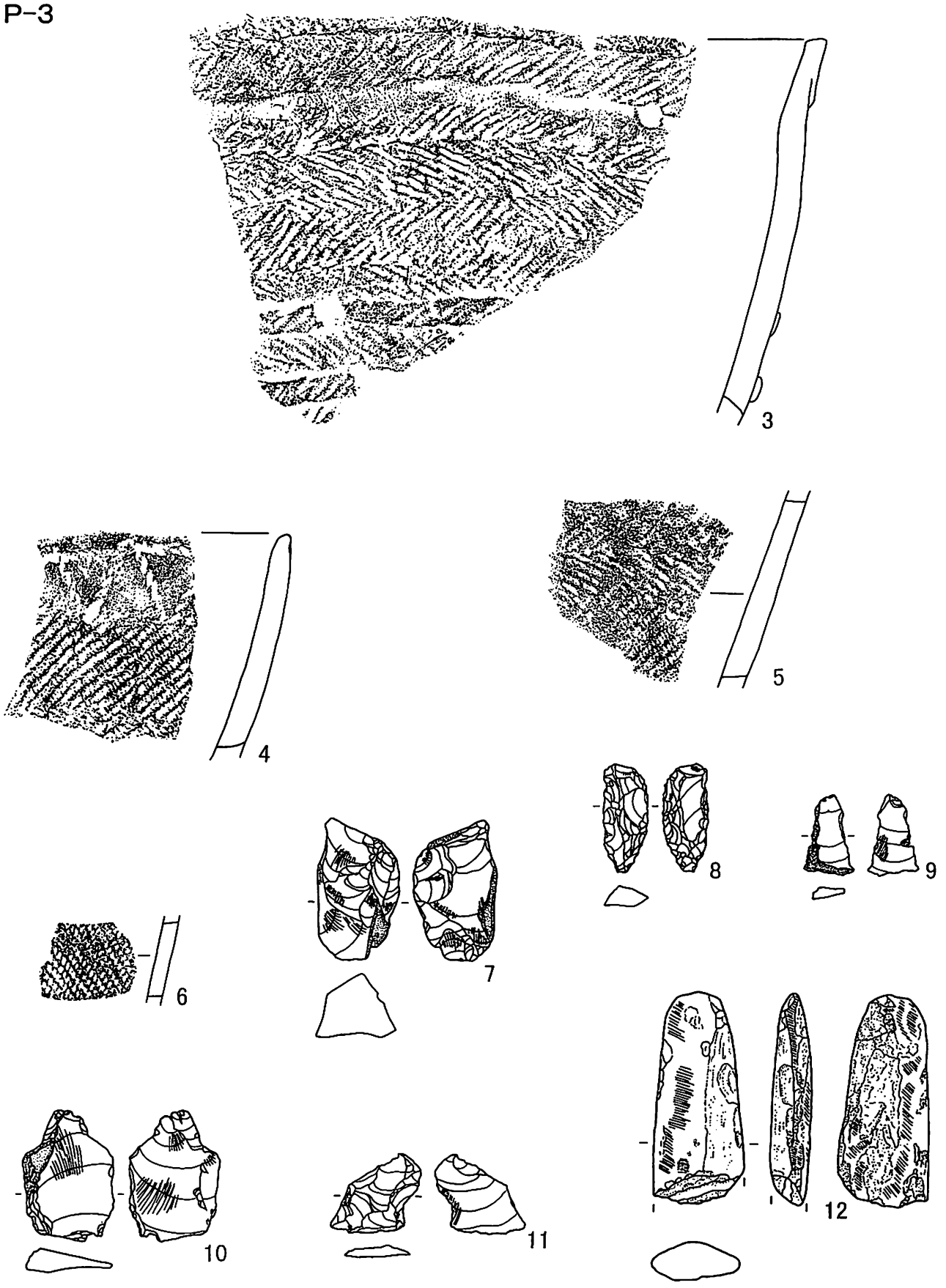


1．黒色土（粘性有 鉄分が含まれる）
2．黒褐色土（やや粘性有）
3．黒色土（やや粘性有 わずかに鉄分）
4．茶褐色土（やや粘性）
5．黒色土（やや粘性）
6．茶褐色土（やや砂まじり）
7．暗褐色土（砂まじり）
8．暗茶褐色土

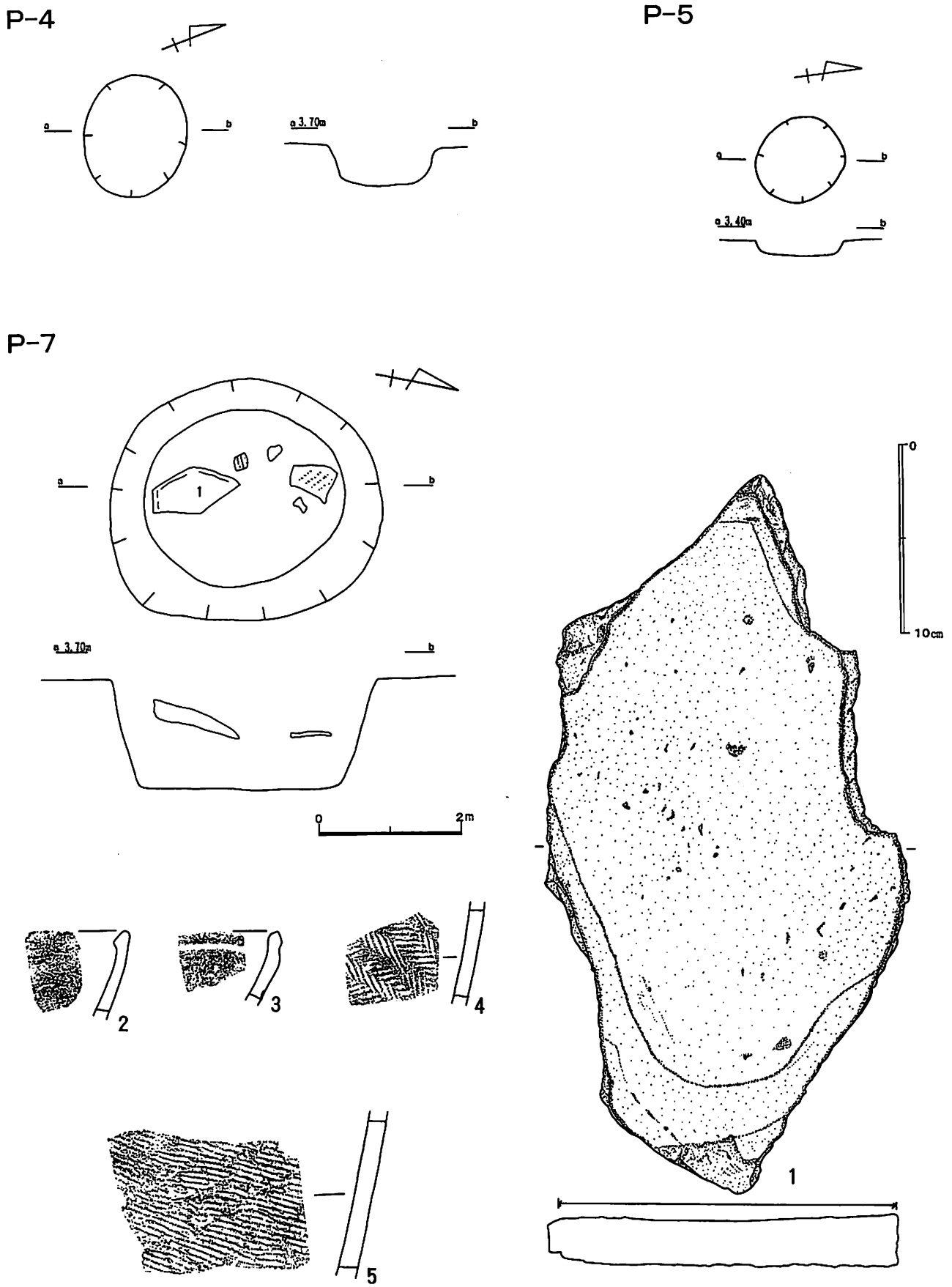


第10図　P－3 平面図と出土遺物

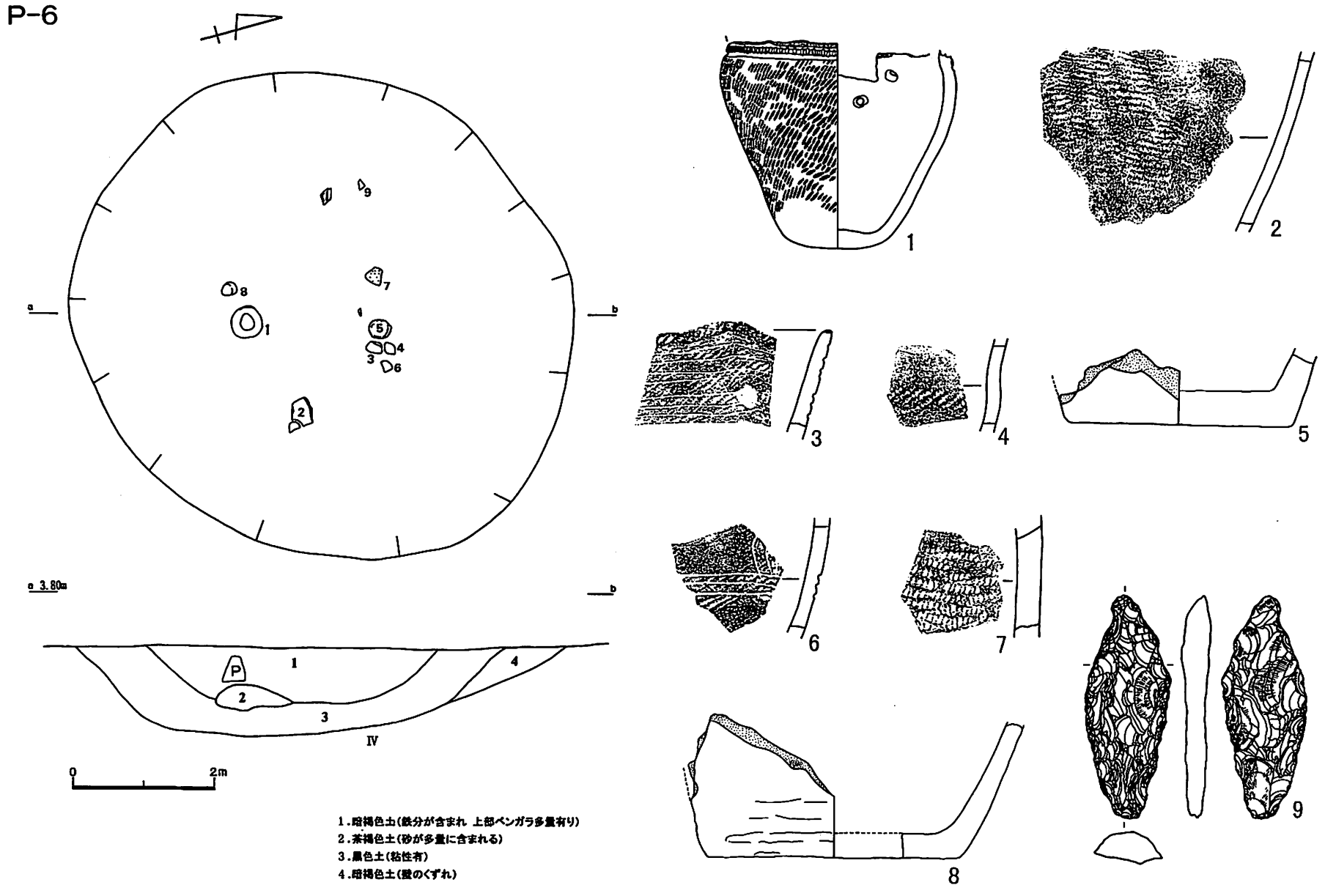
P-3



第11図　P-3 出土遺物

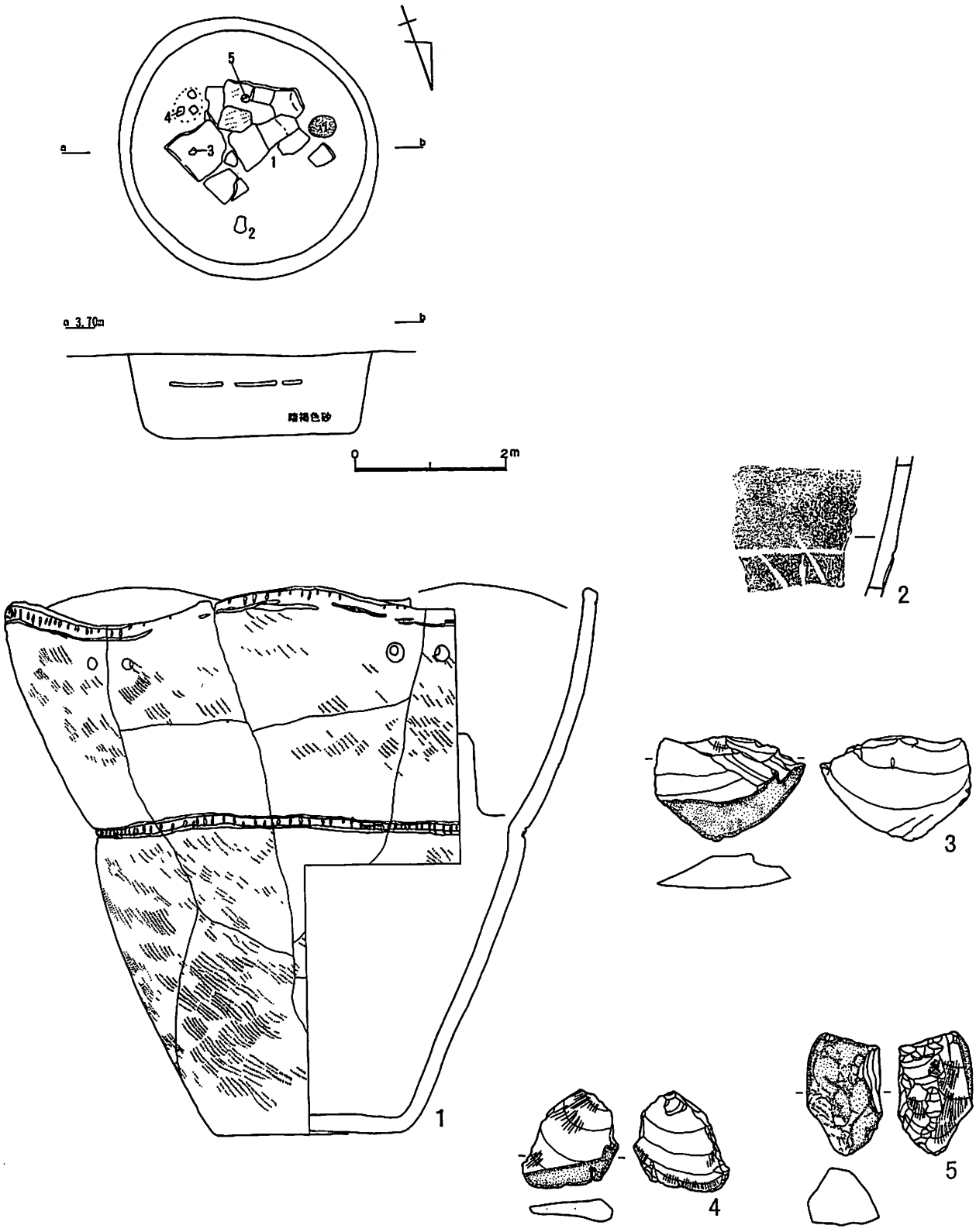


第12図　P-4・5・7平面図とP-7出土遺物

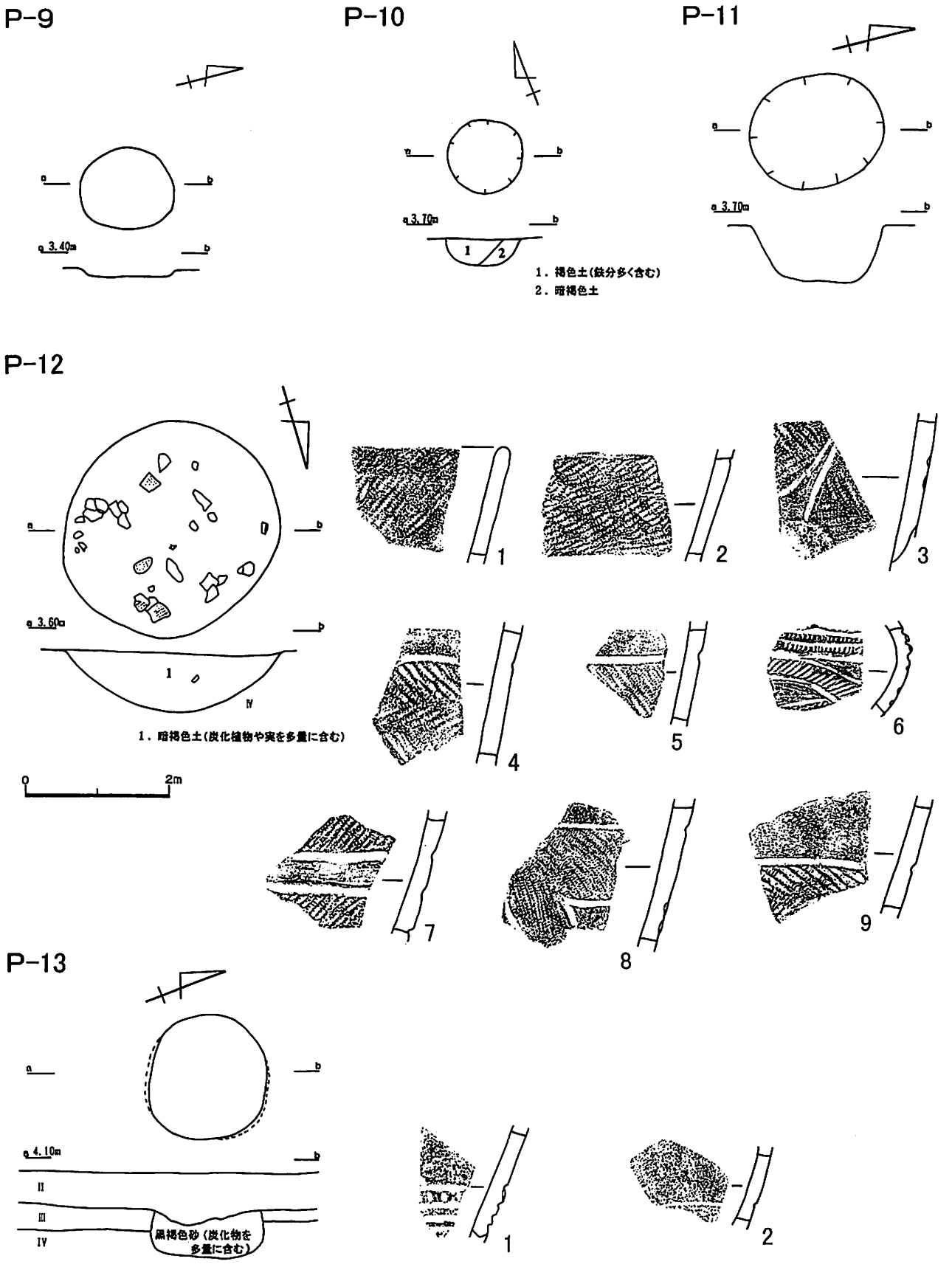


第13図　P-6平面図と出土遺物

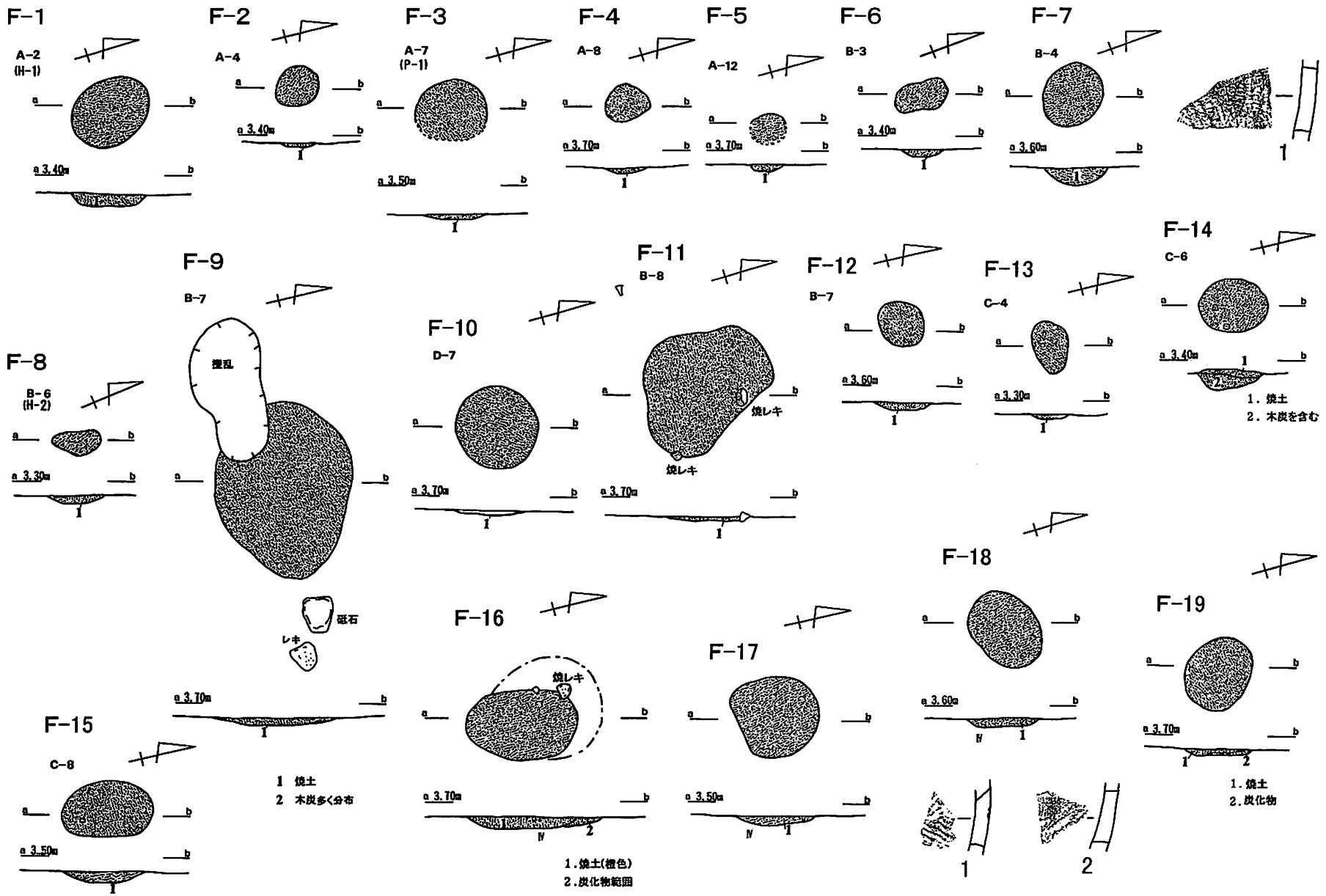
P-8



第14図　P－8平面図と出土遺物



第15図　P-9～13平面図とP-12･13出土遺物



第16図　F－1～19平面図とF－7・18出土遺物

2000年安芸遺跡　遺構出土遺物計測表

図版No.・遺物No.	出土遺構	層位	計測値	(cm)			分類	備考
7－1	H－2	壙底	口径 (19.4)	胴径 (20.95)		器高 (18.55)	Ⅲ群	口縁部
7－2	H－2	壙底	口径 (38.0)			器高 (29.1)	Ⅲ群	口縁部
7－3	H－2	壙底	長さ (7.3)	幅 5.2	厚さ 5.15		土製品	
7－4	H－2	壙底					Ⅲ群	胴部
7－5	H－2	壙底	長さ 4.7	幅 1.45	厚さ 0.5	重さ 2.7g	石鏃	黒曜石
8－1	P－1	壙底					Ⅲ群	口縁部
8－2	P－1	壙底					Ⅲ群	胴部
8－3	P－1	壙底	長さ 9.9	幅 (5.8)	厚さ 5.9		土製品	口縁部
8－4	P－1	壙底					Ⅲ群	口縁部
8－5	P－1	フク土	長さ 5.25	幅 2.25	厚さ 1.0	重さ 9.0g	スクレイパー	黒曜石
9－1	P－2	壙底				器高 (29.0)	Ⅰ群	口縁部
9－2	P－2	壙底	口径 11.3		底径 18.0	器高 32.4	Ⅰ群	完形
10－1	P－3	壙底	口径 21.25			器高 (21.85)	Ⅰ群	ほぼ完形
10－2	P－3	壙底					Ⅱ群	胴部
11－3	P－3	壙底					Ⅱ群	口縁部＋胴部
11－4	P－3	壙底					Ⅱ群	口縁部＋胴部
11－5	P－3	壙底					Ⅱ群	胴部
11－6	P－3	壙底					Ⅱ群	胴部
11－7	P－3	壙底	長さ 5.1	幅 2.9	厚さ 2.8	重さ 27.2g	コア	黒曜石
11－8	P－3	壙底	長さ 3.8	幅 1.6	厚さ 0.75	重さ 4.7g	スクレイパー	黒曜石
11－9	P－3	壙底	長さ 2.85	幅 1.75	厚さ 0.4	重さ 1.6g	フレイク	黒曜石
11－10	P－3	壙底	長さ 4.65	幅 3.3	厚さ 0.9	重さ 11.6g	フレイク	黒曜石
11－11	P－3	壙底	長さ 2.8	幅 2.65	厚さ 0.4	重さ 2.5g	フレイク	黒曜石
11－12	P－3	フク土	長さ (7.3)	幅 3.2	厚さ 1.4	重さ 51.5g	石斧	緑色片岩
12－1	P－7	フク土	長さ 39.0	幅 20.0	厚さ 3.0	重さ 2680g	石皿	
12－2	P－7	フク土					Ⅳ群c	口縁部
12－3	P－7	フク土					Ⅳ群c	口縁部
12－4	P－7	フク土					Ⅳ群c	胴部
12－5	P－7	フク土					Ⅳ群c	胴部
13－1	P－6	壙底		胴径 12.85	底径 4.8	器高 4.8	Ⅳ群c	胴部
13－2	P－6	壙底					Ⅳ群c	胴部
13－3	P－6	壙底					Ⅳ群c	口縁部
13－4	P－6	壙底					Ⅳ群c	胴部
13－5	P－6	壙底			底径 8.4	器高 2.7	Ⅳ群c	底部
13－6	P－6	壙底					Ⅳ群c	胴部
13－7	P－6	壙底					Ⅳ群c	胴部
13－8	P－6	壙底			底径 9.2	器高 5.2	土器	底部
13－9	P－6	フク土					スクレイパー	黒曜石
14－1	P－8	フク土	口径 30.5		底径 96.0	器高 28.1	Ⅳ群c	ほぼ完形
14－2	P－8	フク土					Ⅳ群c	胴部
14－3	P－8	フク土	長さ 3.0	幅 5.05	厚さ 1.1	重さ 21.8g	フレイク	黒曜石
14－4	P－8	フク土	長さ 3.9	幅 3.3	厚さ 0.75	重さ 5.5g	フレイク	黒曜石
14－5	P－8	フク土	長さ 4.15	幅 2.5	厚さ 2.0	重さ 19.6g	フレイク	黒曜石
15－1	P－12	フク土					Ⅳ群e	口縁部
15－2	P－12	フク土					Ⅳ群e	口縁部
15－3	P－12	フク土					Ⅳ群c	口縁部
15－4	P－12	フク土					Ⅳ群c	口縁部
15－5	P－12	フク土					Ⅳ群c	口縁部
15－6	P－12	フク土					Ⅳ群c	口縁部
15－7	P－12	フク土					Ⅳ群c	口縁部
15－8	P－12	フク土					Ⅳ群c	口縁部
15－9	P－12	フク土					Ⅳ群c	口縁部
15－1	P－13	フク土					Ⅳ群c	胴部
15－2	P－13	フク土					Ⅳ群c	胴部
16－1	F－7	焼土内					Ⅳ群c	胴部
16－1	F－18	焼土内					Ⅳ群c	胴部
16－2	F－18	焼土内					Ⅳ群c	胴部

第３章　遺構外出土の遺物

遺構外出土の遺物点数は46,224点を数えⅡ～Ⅳ層上面にかけて出土している。
遺物の出土状況については密集している場合が多く土器は廃棄しているようで復元しても完形となる個体は少なく縄文時代後期のものが大半を占めている。石器については生活の全般に使用される器種が揃っており、遺構の関係から長期にわたり生活していたことが窺える。土製品としては後期に流行したと思われるスタンプ状土製品、オロシガネ状土製品が出土している。

遺物の出土状況についてはグリッドごとに平面実測を行ない、主要な遺物については遺物番号をつけて取り上げており、実測遺物の番号と照合できる図面を掲載しているため参考となると思う。

なお、以下に遺物の説明を加えるが個々の計測については一覧表を参照していただきたい。

（１）土　器（第17～31図）

・**第Ⅰ群土器**（No63～68）

縄文時代中期後半の所産で押引文、突瘤文（O→I）、貼付文を有するもので北筒式系に属するものである。器厚は厚く平底で筒形を呈している。口縁部は肥厚し断面三角形をし、押引文、突瘤文（O→I）を施すことが多い。地文は斜行縄文であり、胴部に結節縄文も見られる。

・**第Ⅱ群土器**（No1～5・69～78）

縄文時代中期後半から後期初頭の所産と思われ、粘土紐を口縁部に対して平行に貼付文を有するもので余市式に属するものである。器厚は厚く平底で筒形を呈している。口縁部は折り返し口縁が多いため肥厚し、縄文を施している。少ないが突瘤文（O→Ⅰ）の見られるものもある。

・**第Ⅲ群土器**（No66・79）

縄文時代中期末から後期初頭所産と思われ、粘土紐を口縁部に貼付に刺突を施し、沈線による波形文を施すものである。この土器はＨ－２出土の土器と並行するものと考える。

・**第Ⅳ群土器**

縄文時代後期前半から後半の所産のもので磨消縄文を多用するもので船泊上層式、手稲式、ホッケマ式に属するものである。

ａ類（No4・6～19・22・37～41・80～98）

口縁は平、波状で深鉢（朝顔形）、浅鉢などがあり、口唇断面は丸･角形を呈し太い平行沈線に縦の曲線で繋ぐものが見られる。地文の縄文は原体ＬＲの場合が多い。

ｂ類（No99～105）

口縁は平、波状で屈曲をもつ深鉢が特徴的となり、浅鉢は直線的なものである。

口唇断面は角形となり、屈曲部分に刻状の列点を一周させている。太い沈線による曲線を描くもので地文の縄文は原体はＲＬとＬＲの場合が見られる。
多い。

ｃ類（No25・26・28～32・36・106～108・110～115）

口縁は平、波状で屈曲をもつ深鉢が特徴的となり、浅鉢は直線的なものである。口唇断面は角形となり、屈曲部分に刻状の細長の列点を一周させている。太い沈線による曲線を描くもので地文の縄文原体はＲＬとＬＲを組み合わせて羽状風に見せる場合が多い。口唇断面は丸形、角形、やや内切の尖り気味のものがあり、頸部から口縁にかけてわずかに内湾する傾向がある。

ｄ類（No33～35）

壷、注口形などの特定の器種で時々粘土による貼瘤が見られるもの。

ｅ類（No13・14・17・19・36・37・123～137）

口縁は平、波状で深鉢、浅鉢などがあり、口唇断面は丸・角形を呈し、地文の斜行縄文だけにものである。原体ＬＲとＲＬの組み合わせがあり、ａ～ｄ類に伴うものである。

（２）土製品（第32図）

・スタンプ状土製品（No139～141）

長さは３ｃｍ前後で底面に沈線により文様が施されている。つまみ部分には貫通孔があり紐などを通していたと思われる。縄文時代後期のものと思われる。

・オロシガネ状土製品（No142）

円盤形の偏平な土製品である。平行沈線を数状配し列点文を全面に施している。縄文時代後期のものと思われる。

（３）石　器（第33～47図）

・石　鏃（No143～167）

５ｃｍ未満で有茎のものと無茎のものがある。石質として黒曜石、頁岩を素材することが多い。

・石　槍（No168～182）

便宜的に５ｃｍ以上のもので柳葉形、舌状の茎を持つものがある。石質として黒曜石、頁岩を素材とすることが多い。

・ドリル（石　錐）（No183～184）

先端に厚みを持つもので棒状のもの、つまみをもつものがある。石質として黒曜石、頁岩を素材とすることが多い。

・異形石器（No186）

十字形をしているもので黒曜石製である。

・スクレイパー（削掻器）（No187～191）

剥片の縁辺に鈍角な刃部を作り出しているものである。黒曜石、頁岩を素材とし

ていることが多い。

・**つまみ付きナイフ**（No192～204）

石匙とも呼ばれているもので縦長剥片を利用し刃部を作り出しているものである。石質として黒曜石、頁岩を素材とすることが多い。

・**石　斧**（No205～252）

磨製、打製（252）のものがあり、刃部は両刃のものである。製作として自然礫の研磨、敲打の後の研磨があり一部には擦り切り痕を残すものがある（220）。中には楔として使用したと思われるものもある（210）。石質として泥岩、片岩を使用することが多い。

・**オロシガネ状石製品**（No254～255）

擦石の一種であり、特殊な形態のものである。小形のものでわずかに凹みを呈している。

・**擦　石**（No256～278）

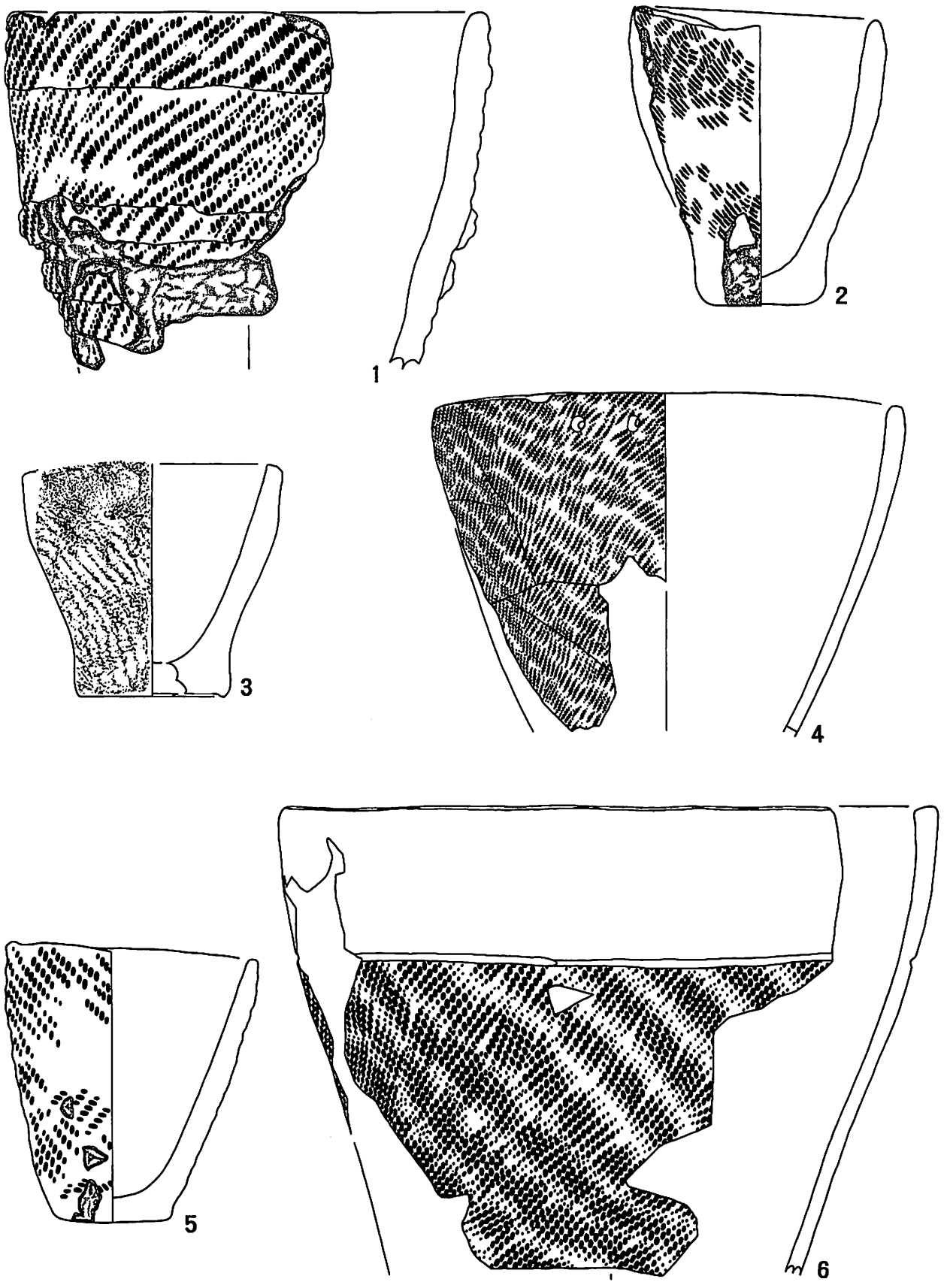
自然礫の一部や全体、多面体的に擦っているものである。前者では球形のものが多く遺跡全体にみられ使用頻度が高かったと思われる。後者は砥石として使用したものと思われる。軽石を加工した用途不明の石冠形のもの（278）もあり側面に溝を付けている。

・**玉類・垂飾具**（No280～281）

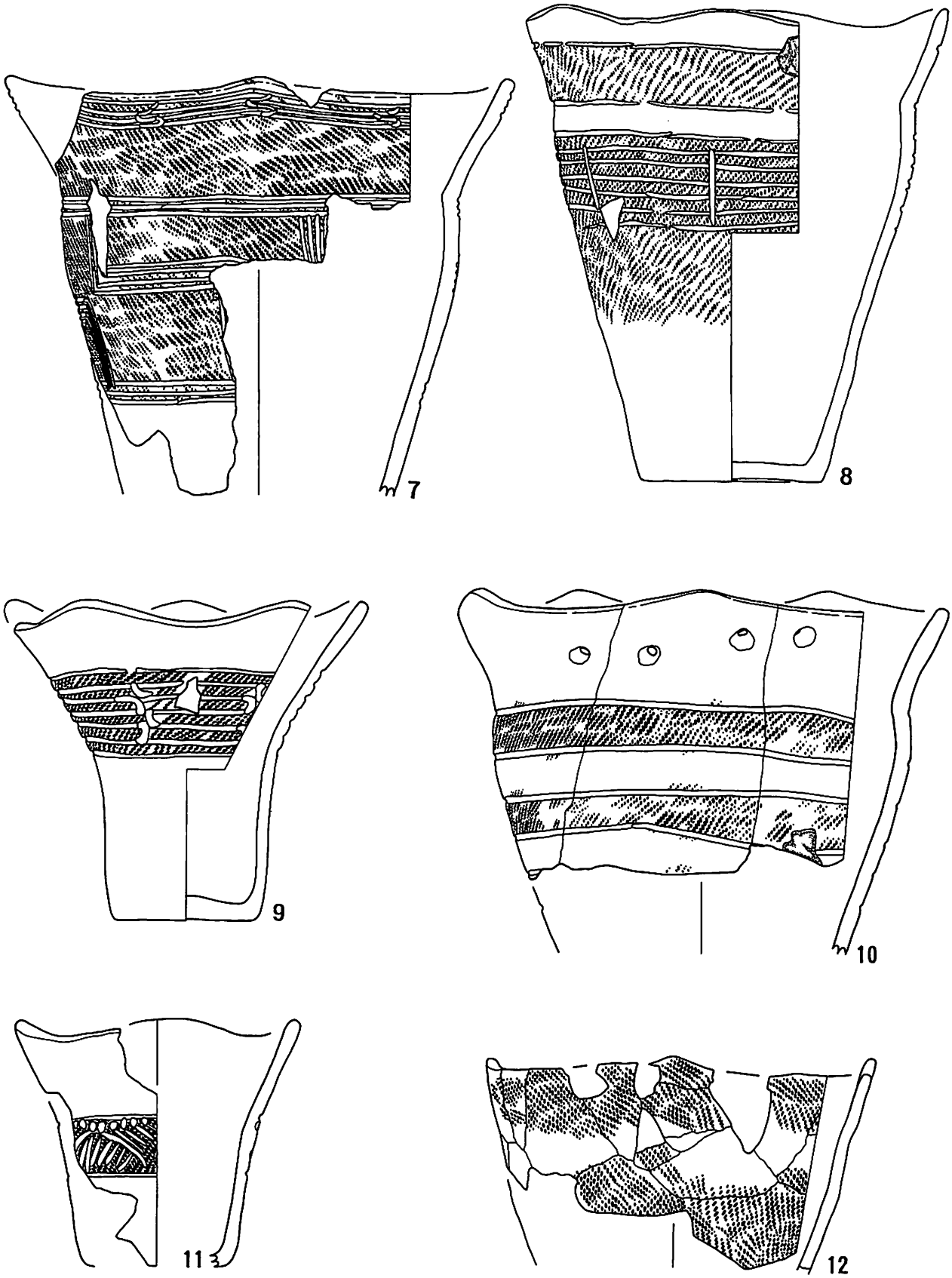
丸玉は半分かけている。他は蛇紋岩を材としており、接合して完形品となったものである。

・**その他**（No282～291）

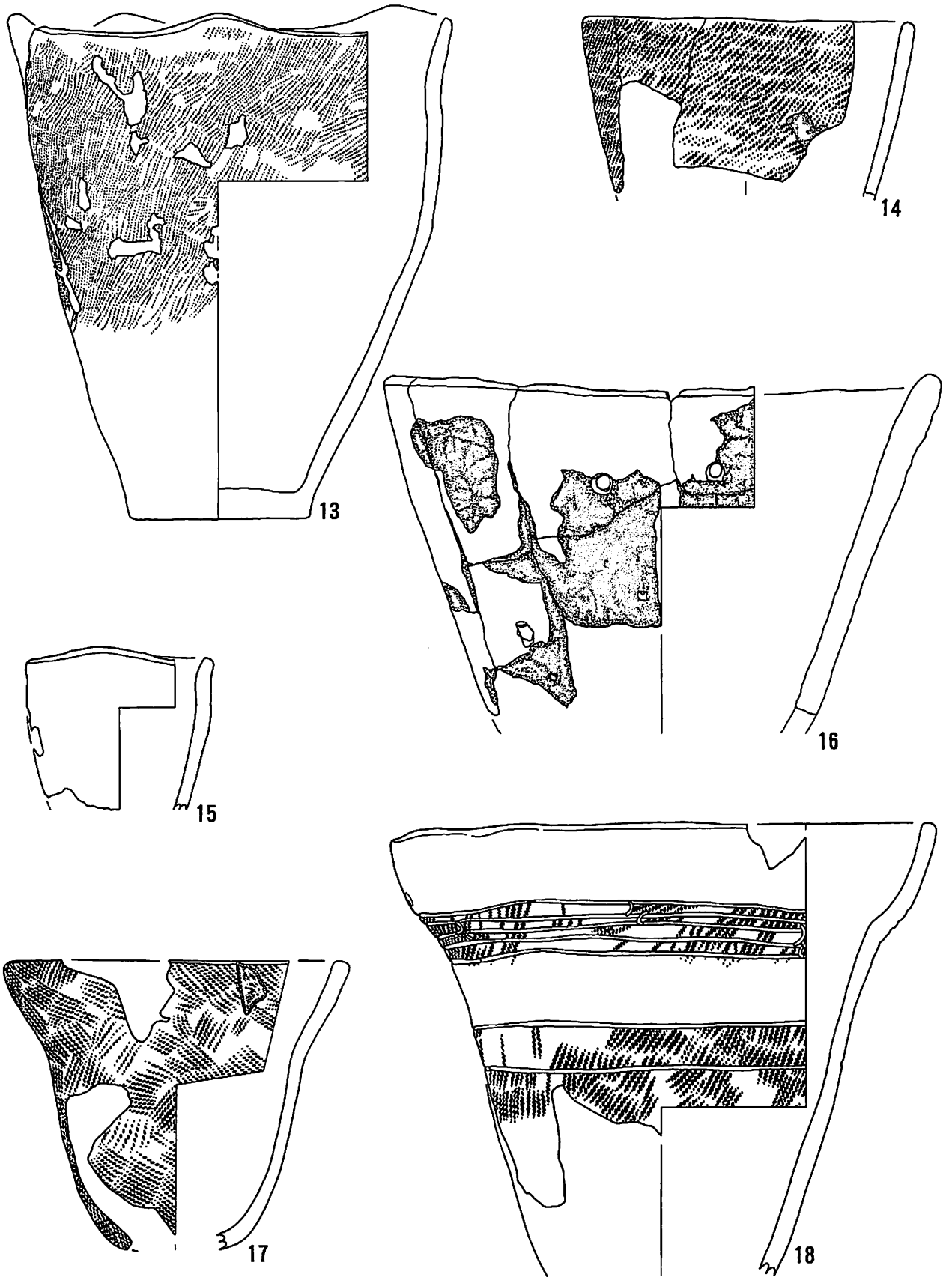
石英質の小礫類がまとまって出土している。加工の痕跡はないため、これらを単に集めていたものか、何かに使用しようとしていたかは定かではない。



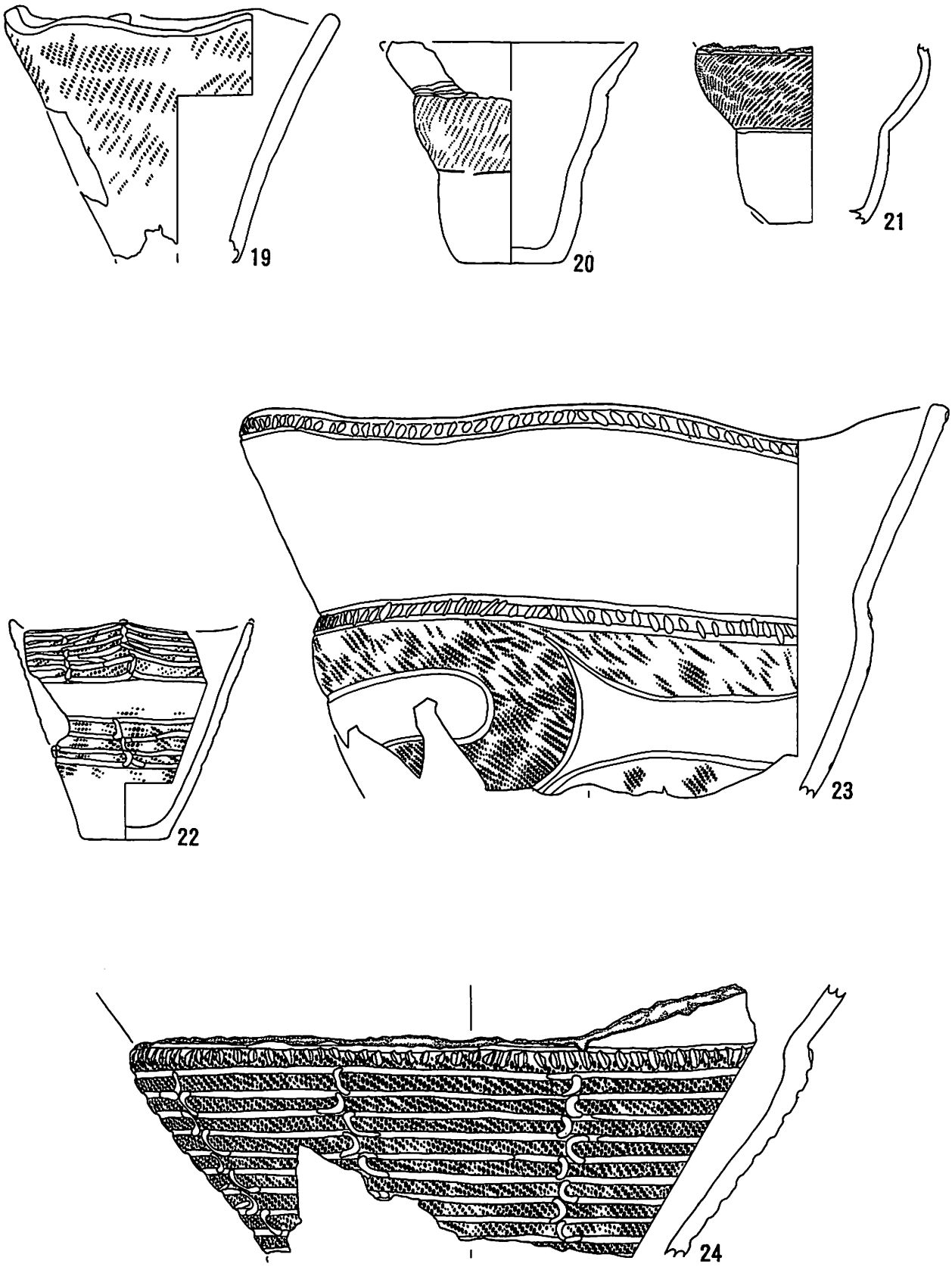
第17図　遺構外出土の土器（1）



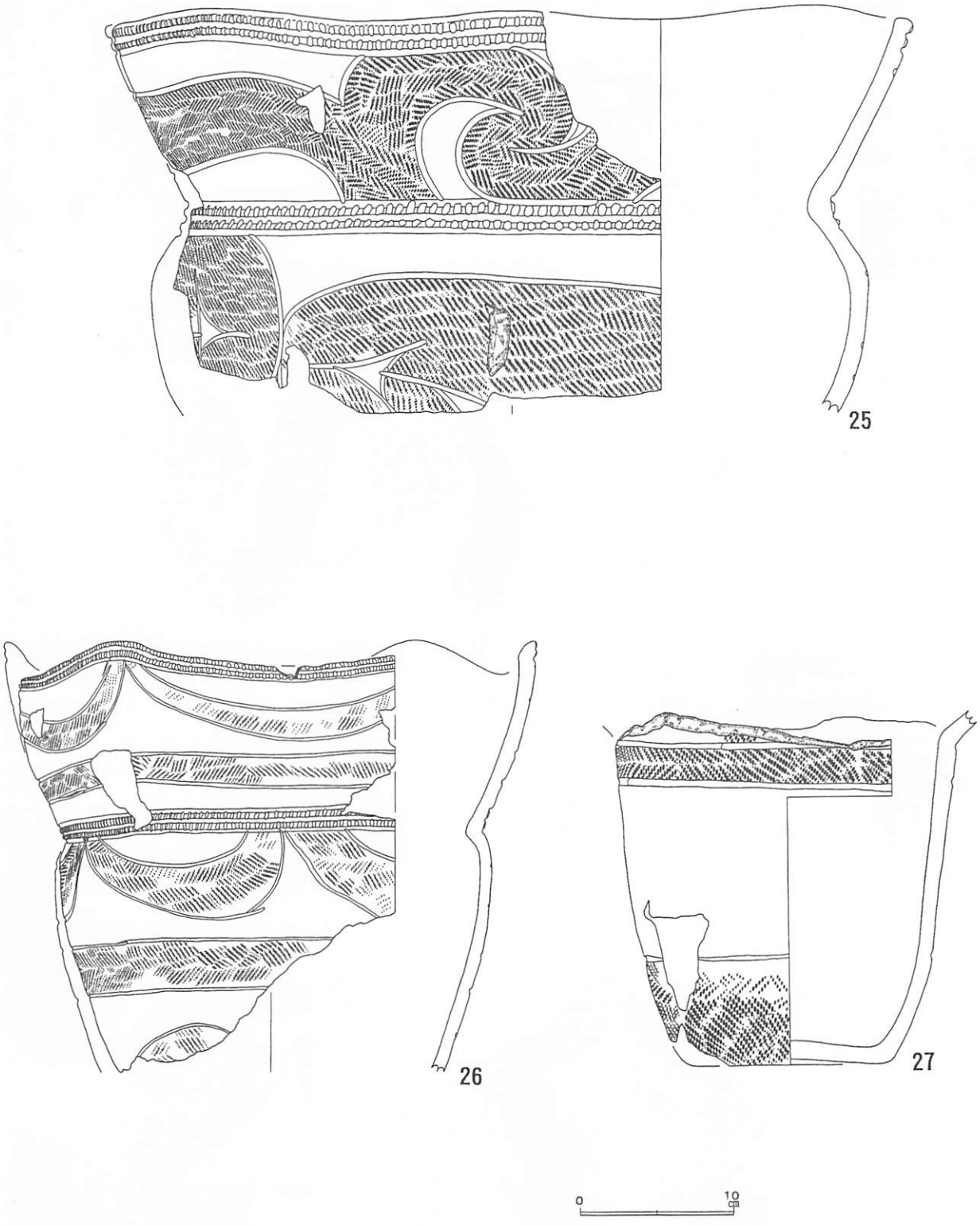
第18図　遺構外出土の土器（2）



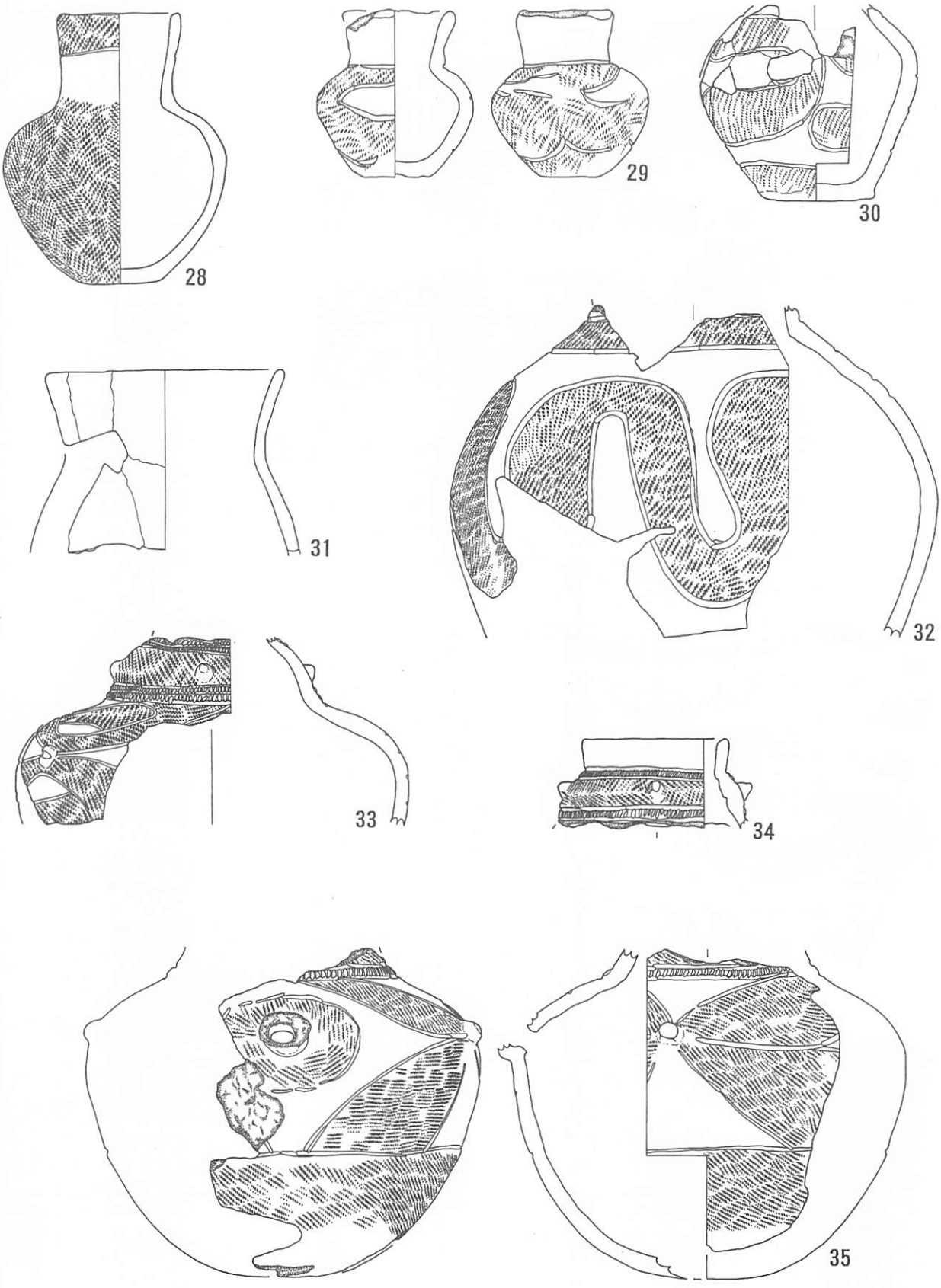
第19図　遺構外出土の土器（3）



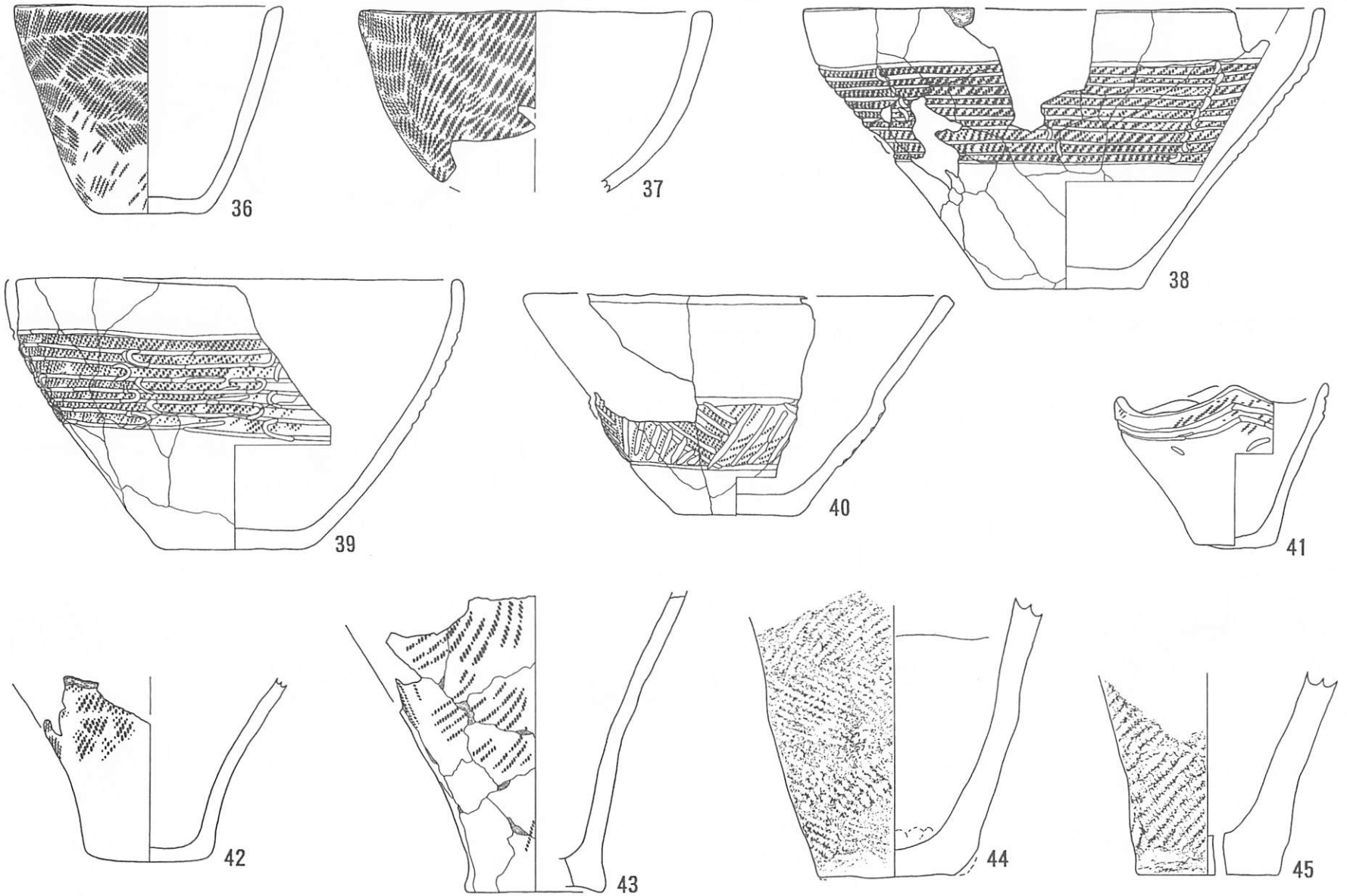
第20図　遺構外出土の土器（4）



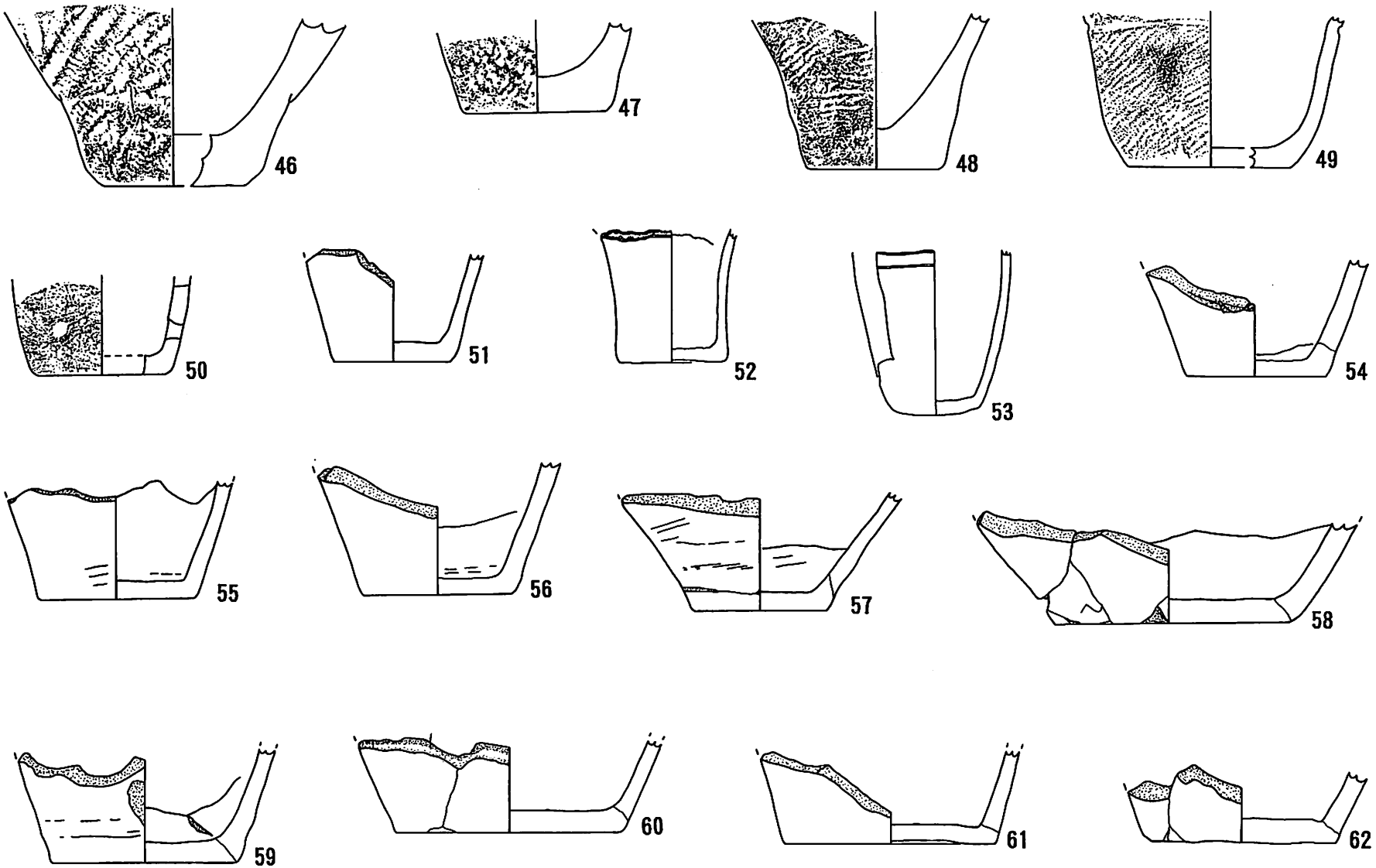
第21図　遺構外出土の土器（5）



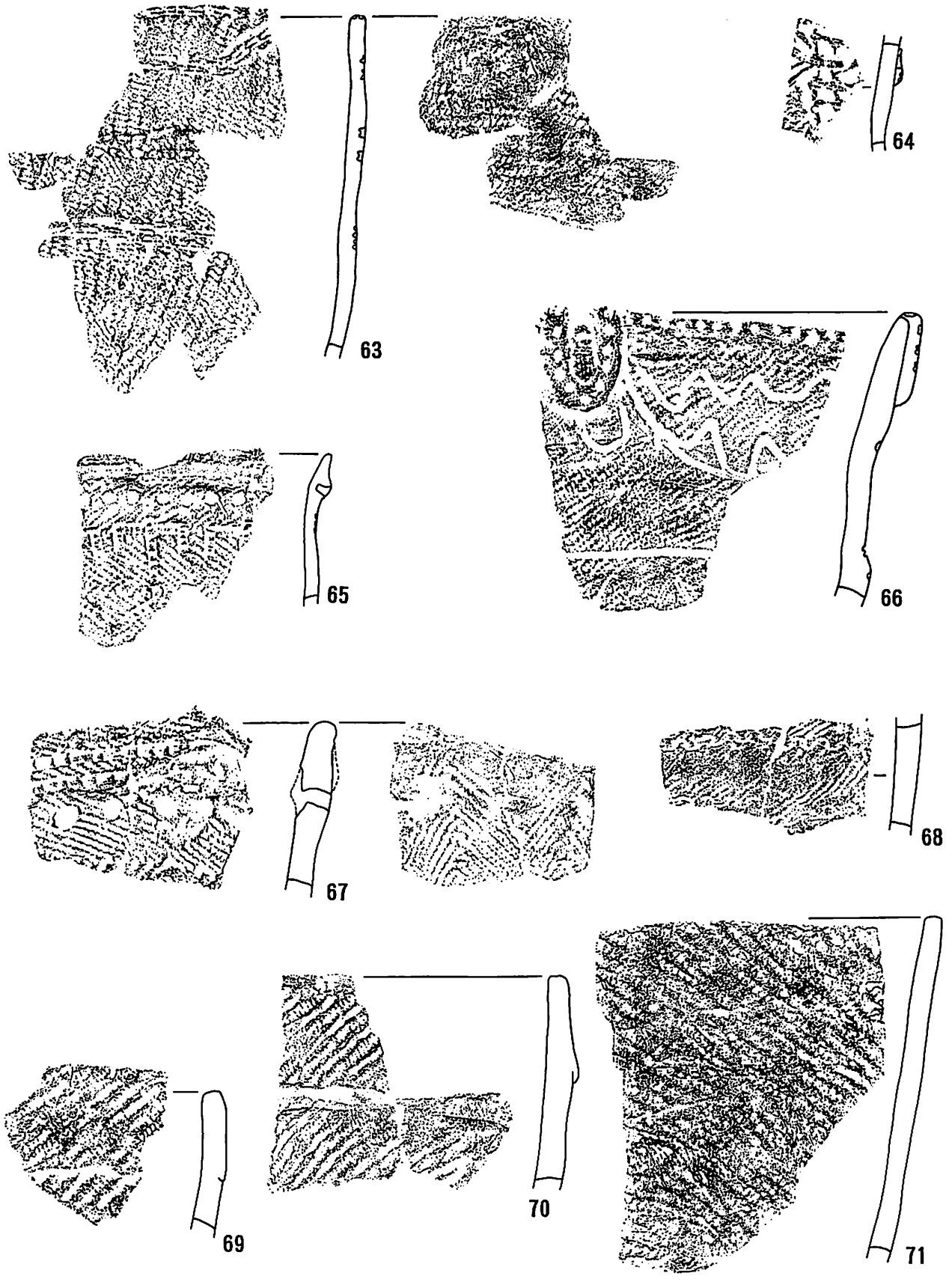
第22図　遺構外出土の土器（6）



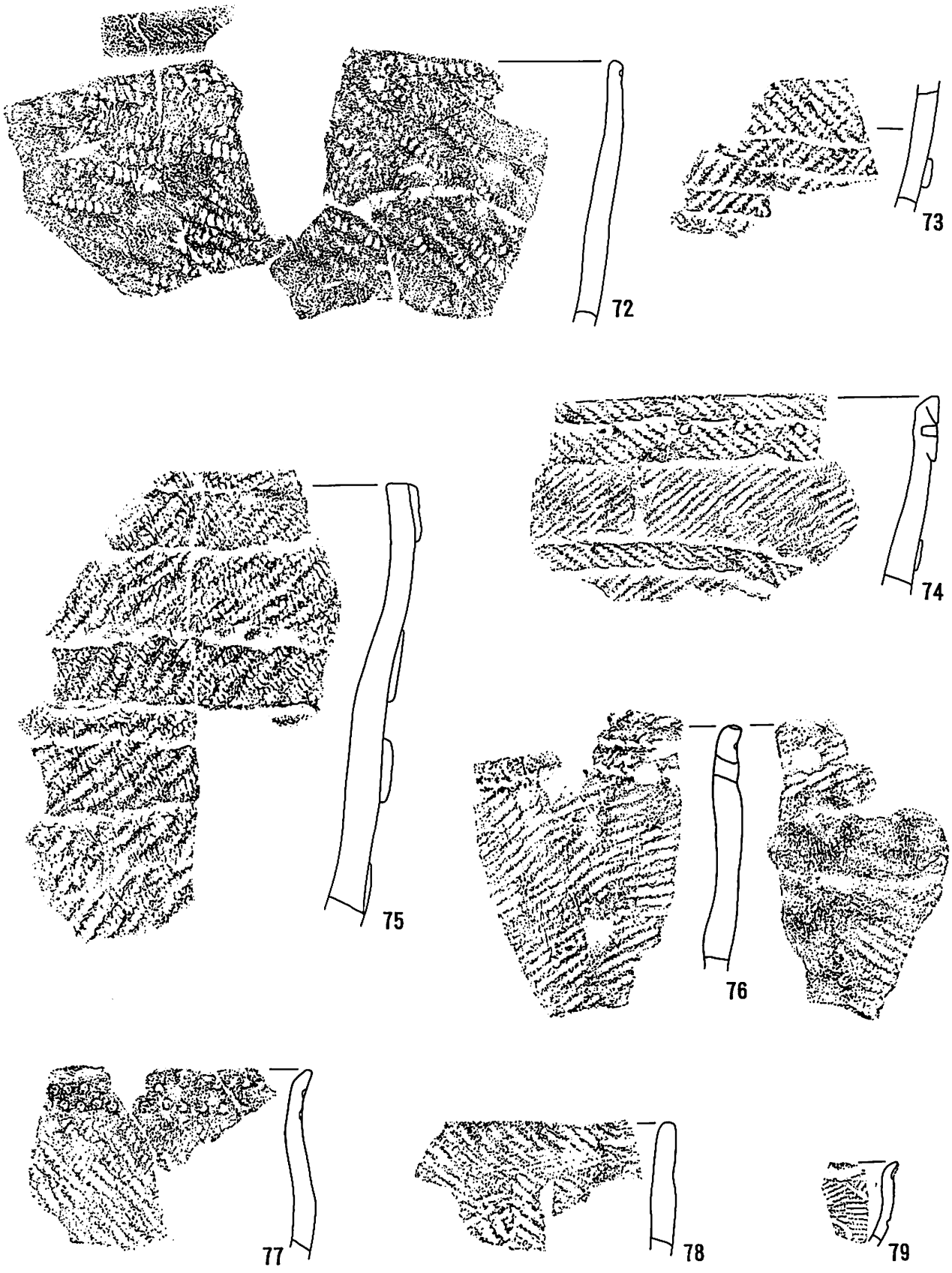
第23図　遺構外出土の土器（7）



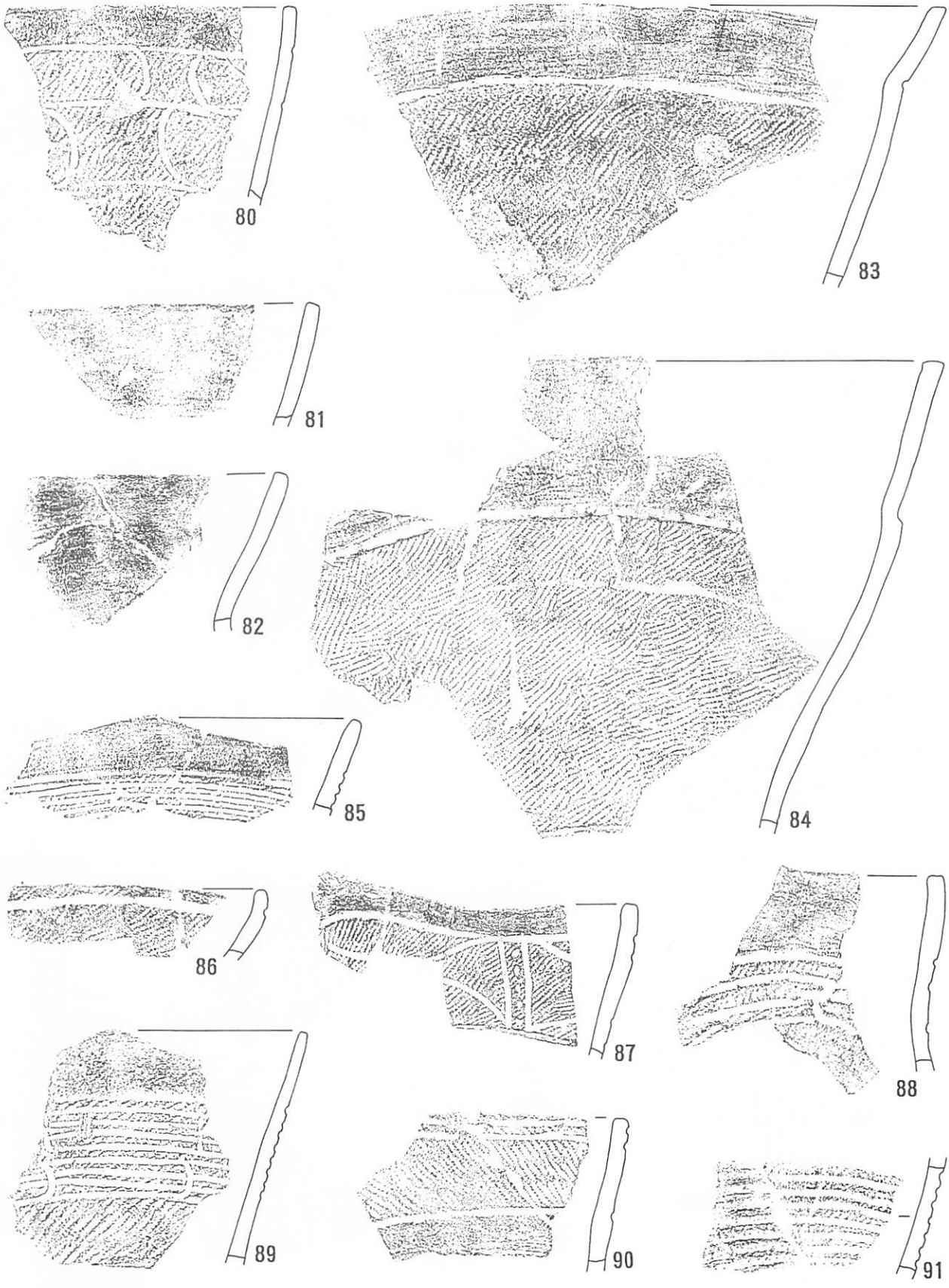
第24図　遺構外出土の土器（8）



第25図　遺構外出土の土器（9）

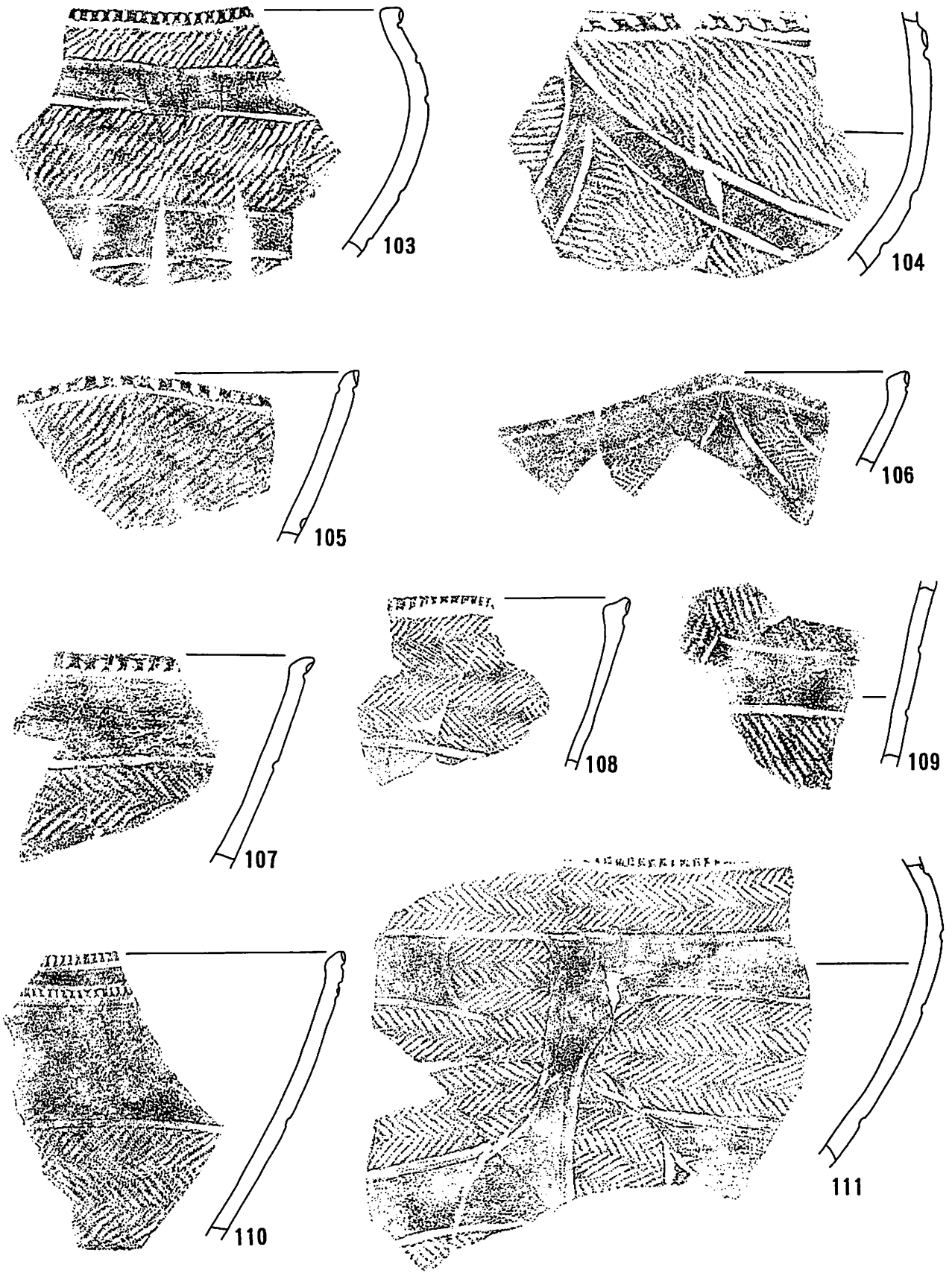


第26図　遺構外出土の土器（10）

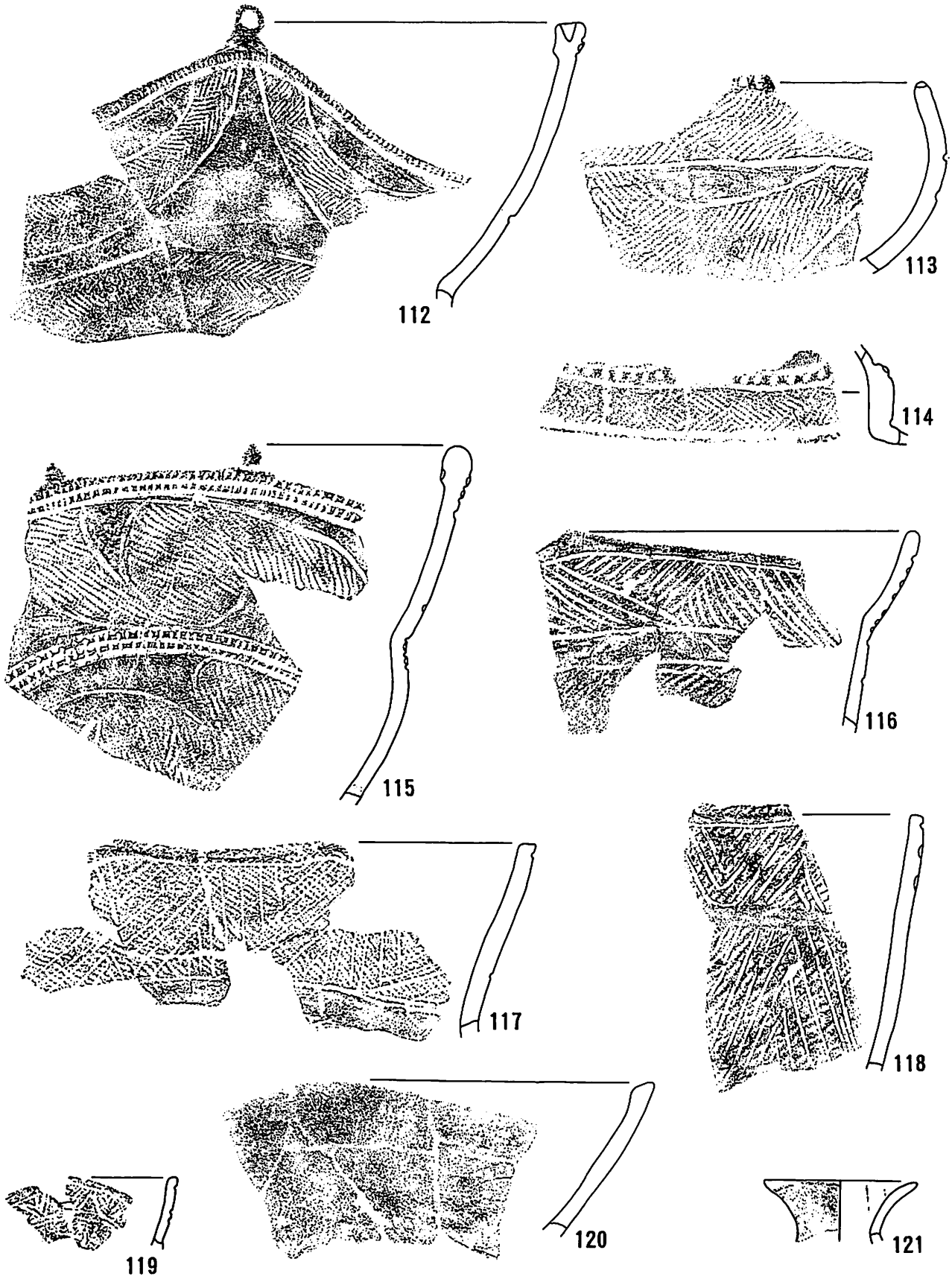


第27図　遺構外出土の土器（11）

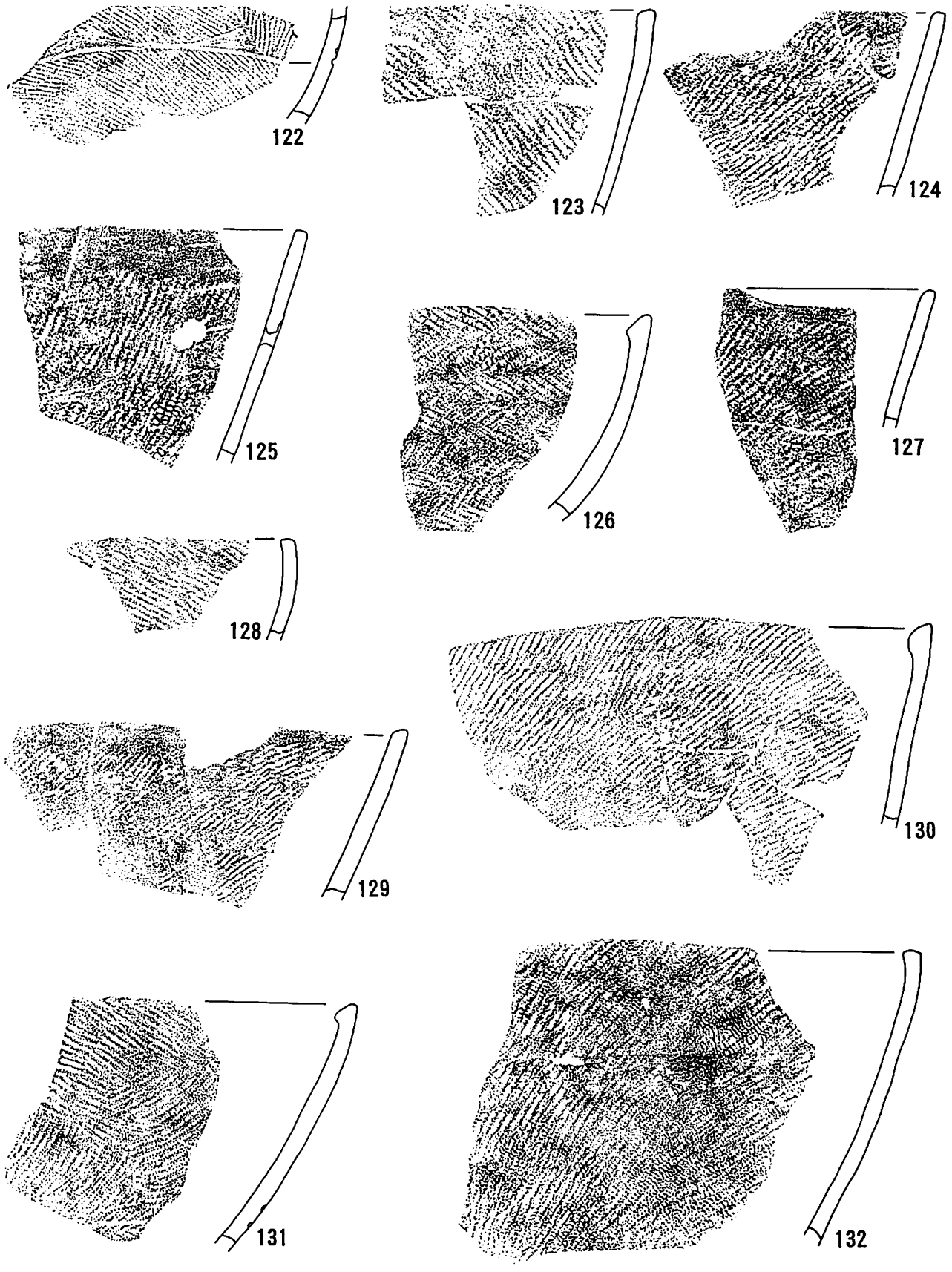
第28図　遺構外出土の土器（12）



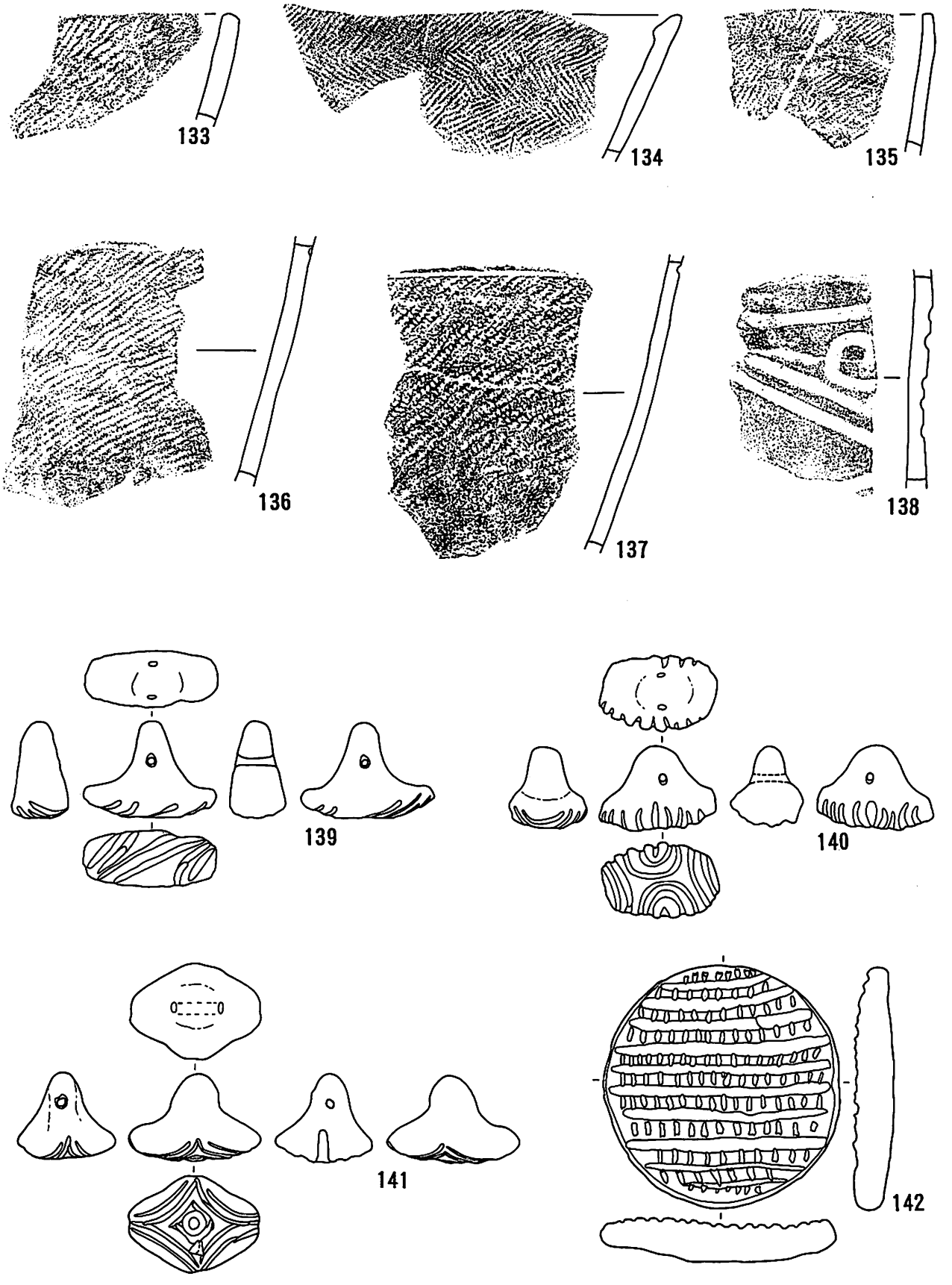
第29図　遺構外出土の土器（13）



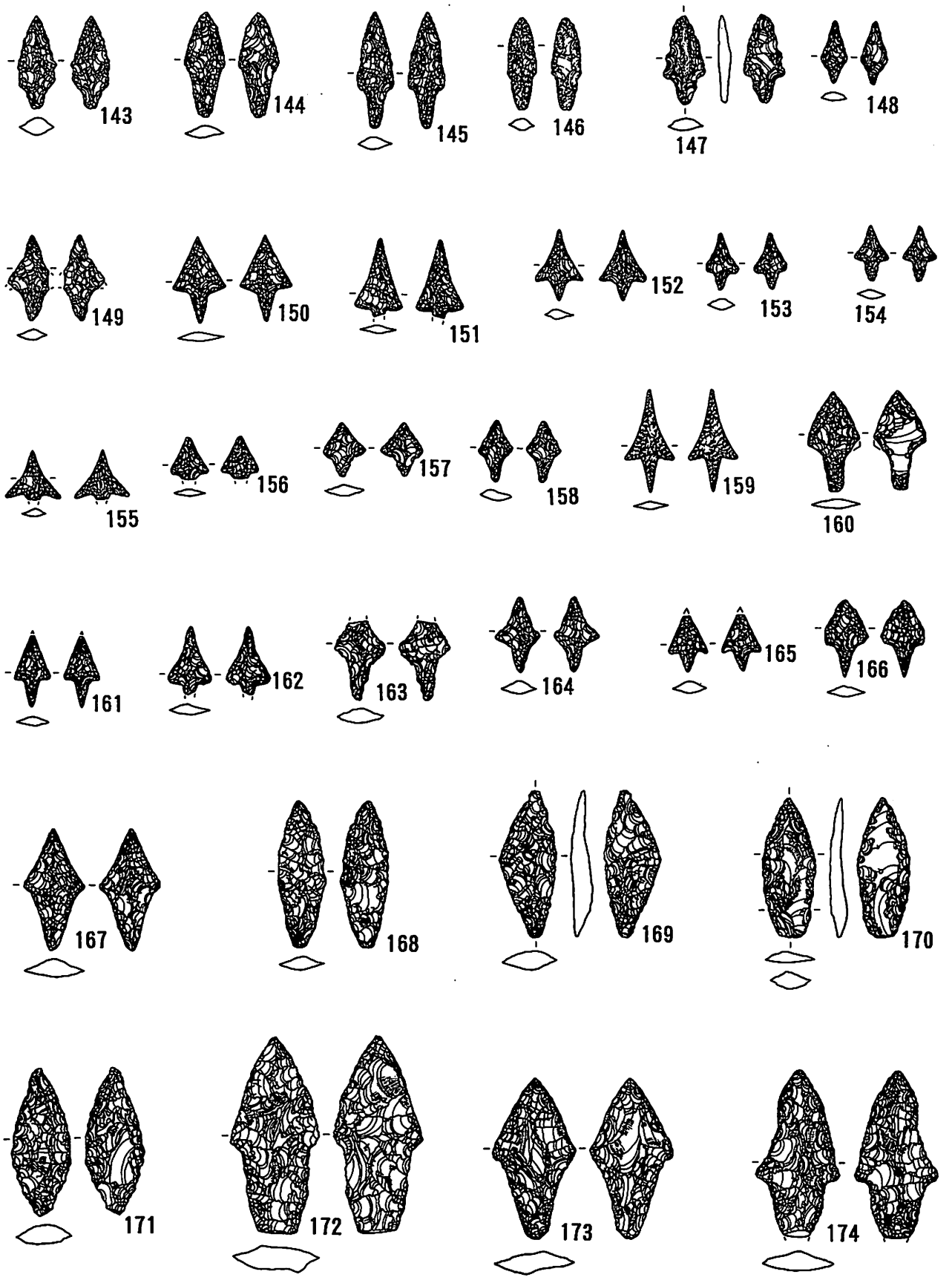
第30図　遺構外出土の土器（14）



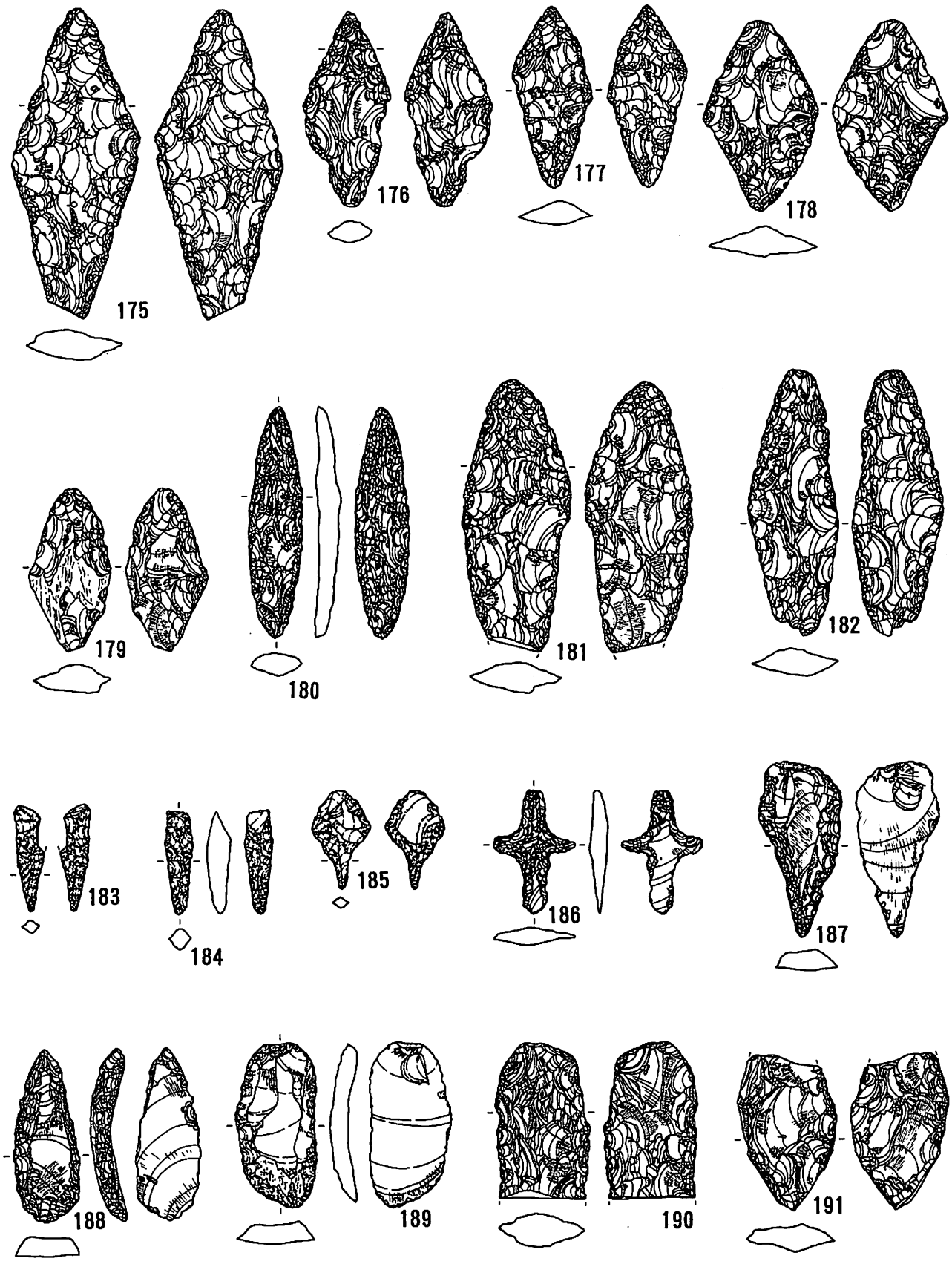
第31図　遺構外出土の土器（15）



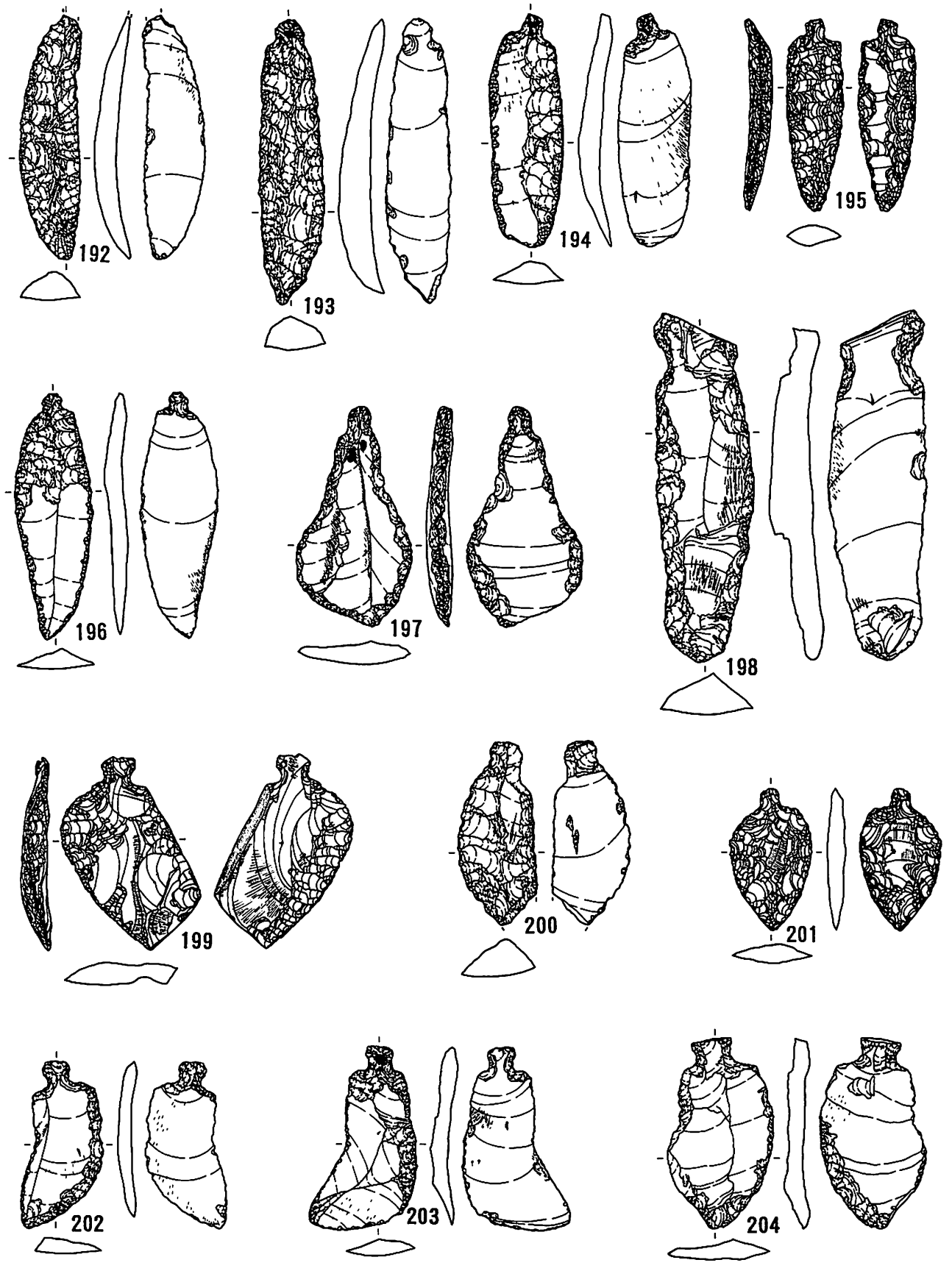
第32図　遺構外出土の土器と土製品



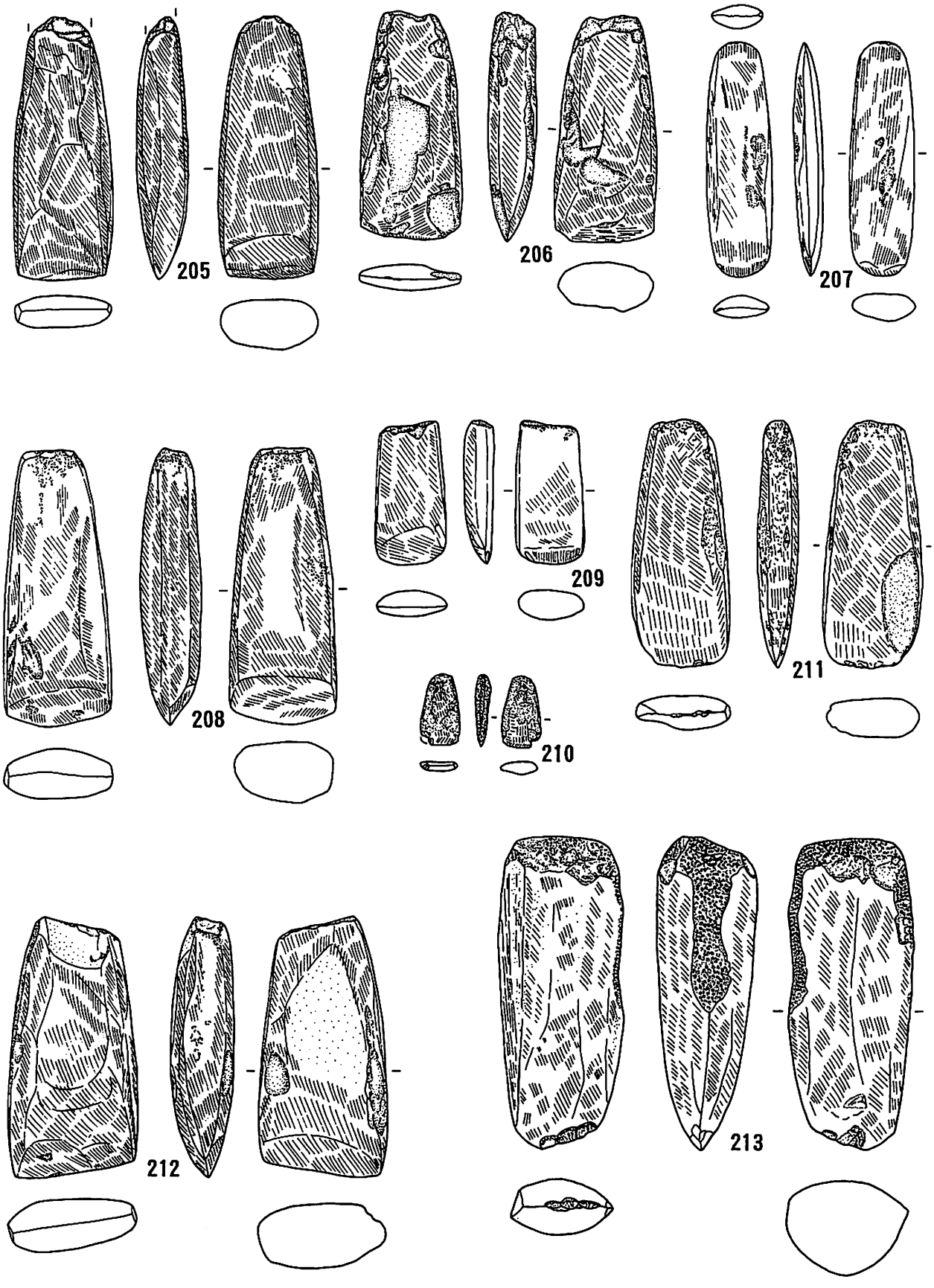
第33図　遺構外出土の石器（1）



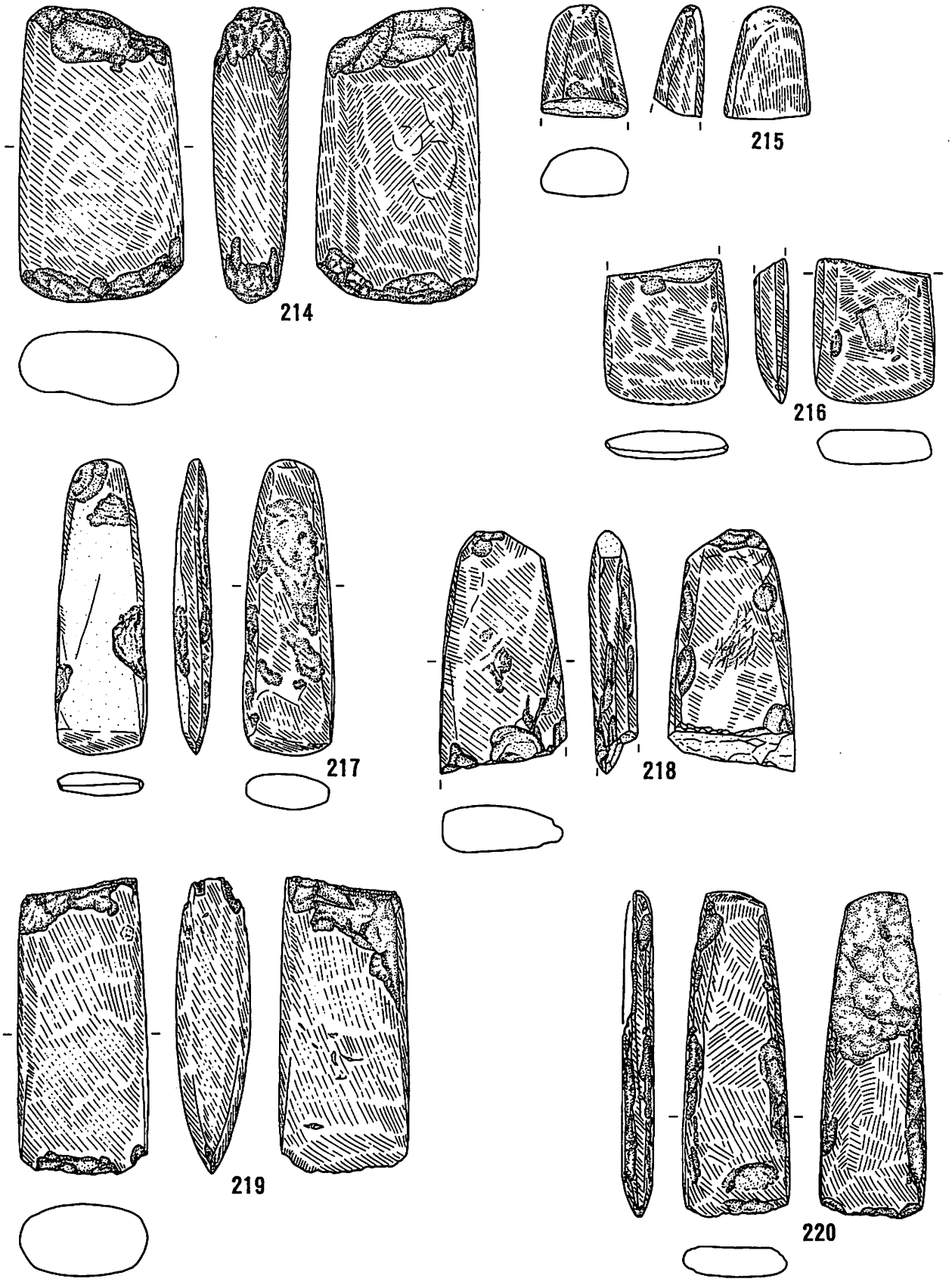
第34図　遺構外出土の石器（2）



第35図　遺構外出土の石器（3）

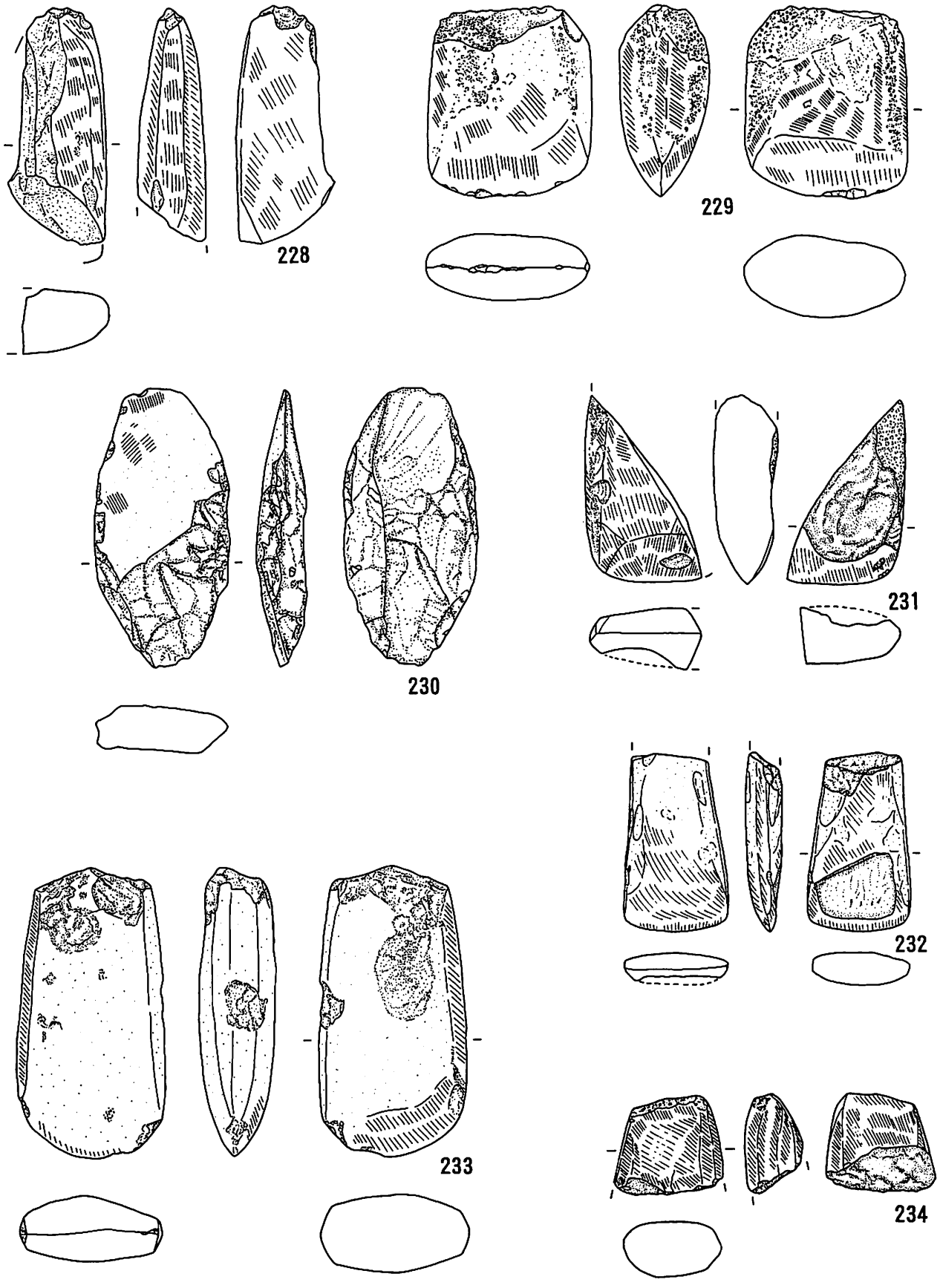


第36図　遺構外出土の石器（4）

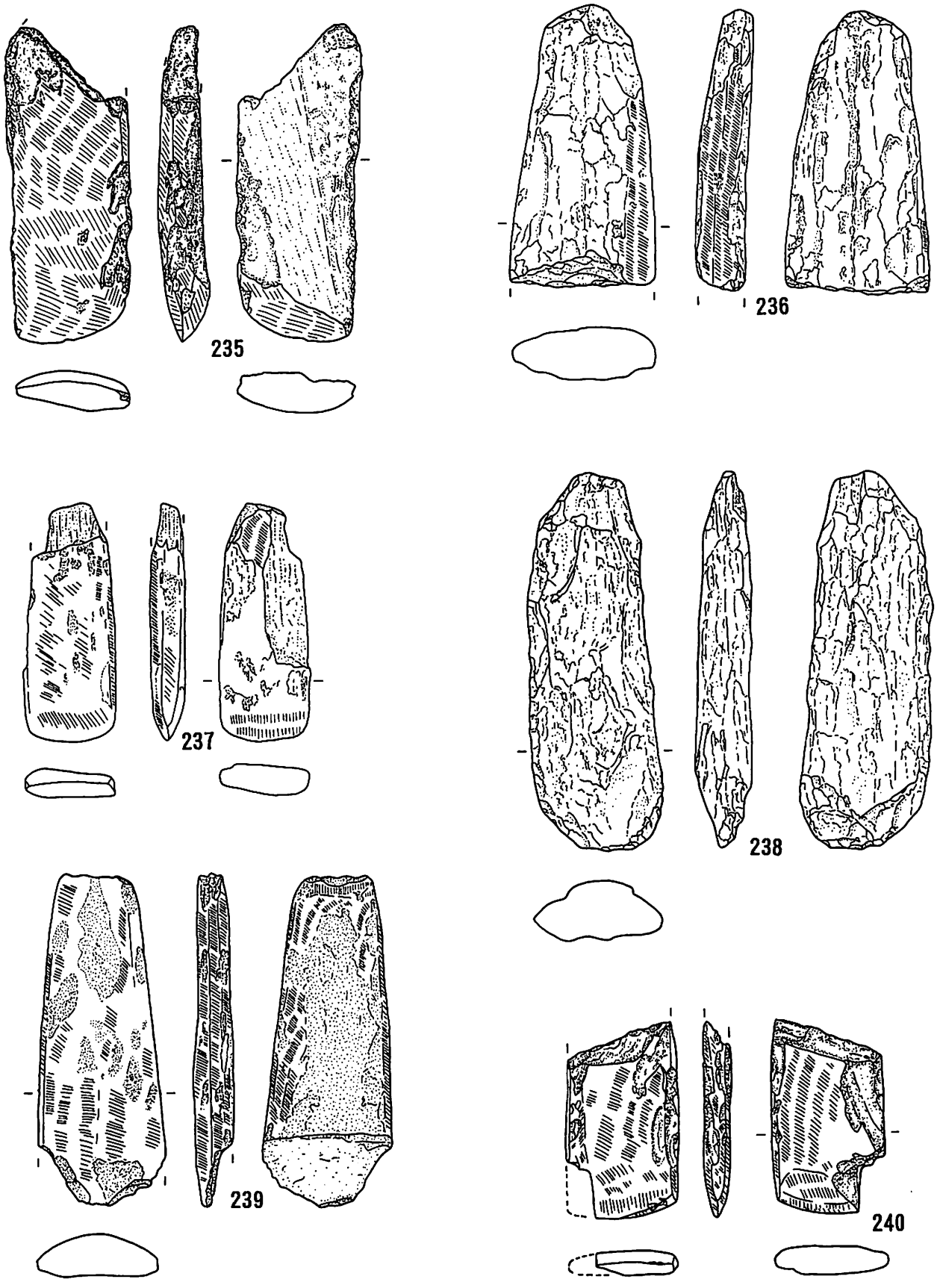


第37図　遺構外出土の石器（5）

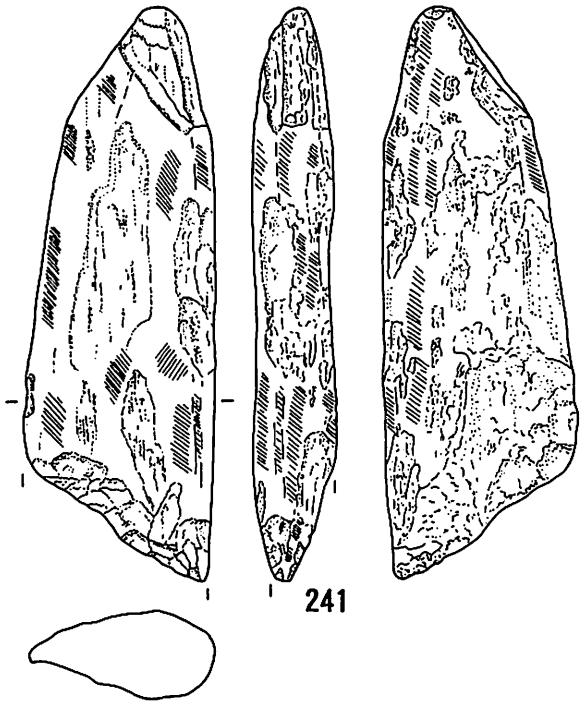
第38図　遺構外出土の石器（6）

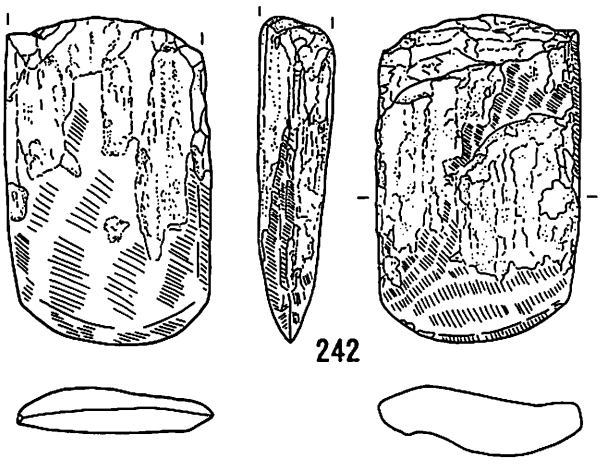


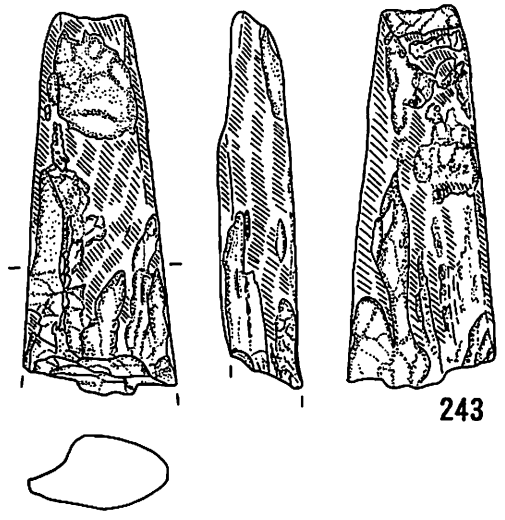
第39図　遺構外出土の石器（7）

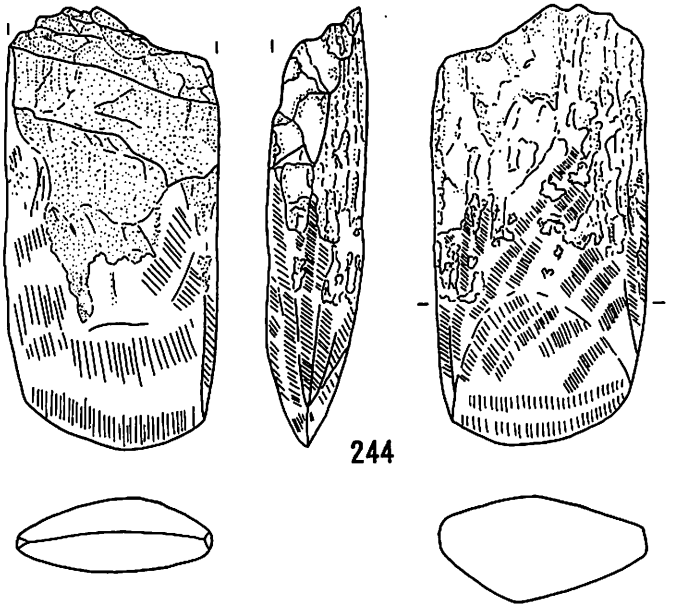


第40図　遺構外出土の石器（8）

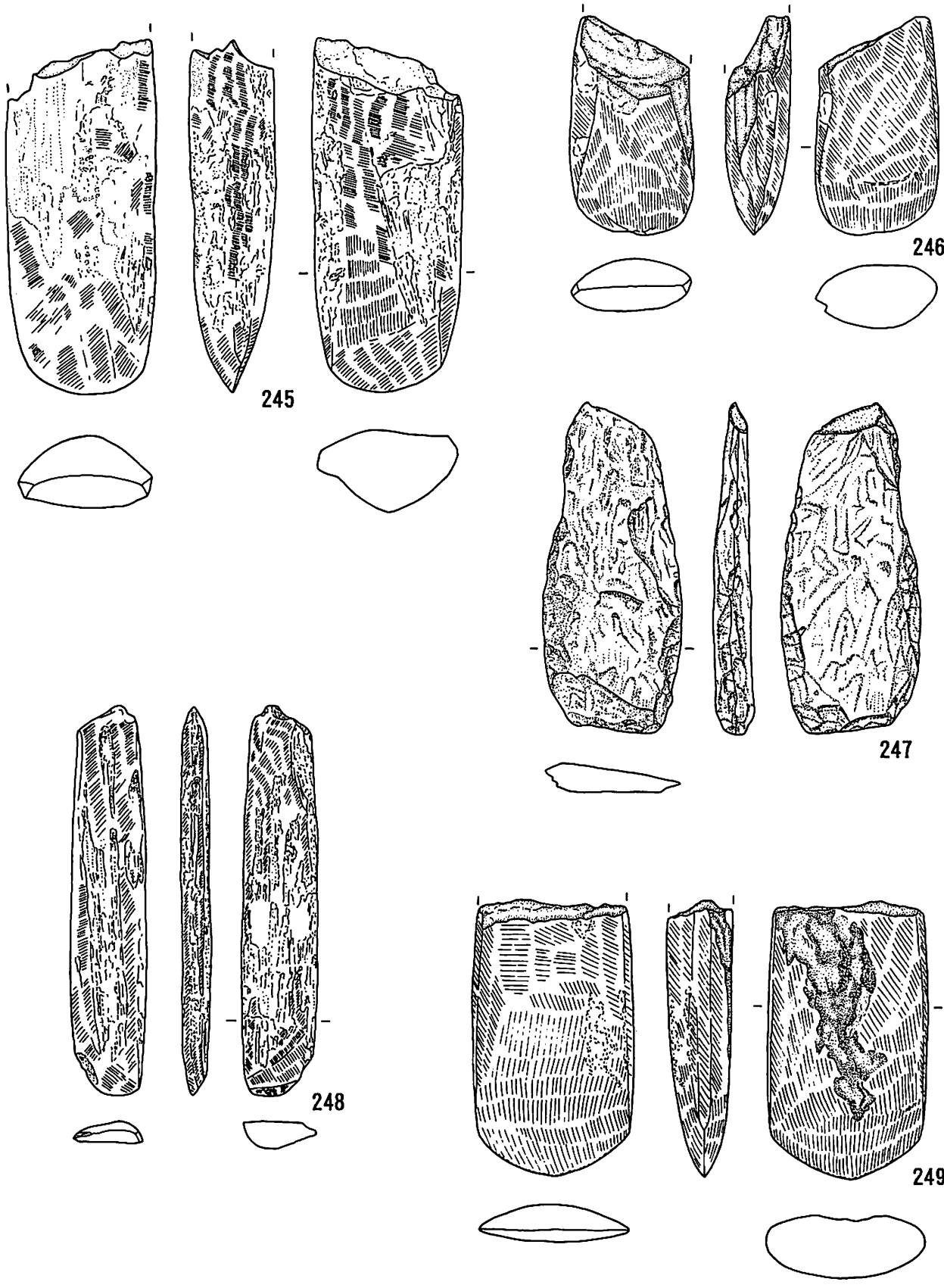




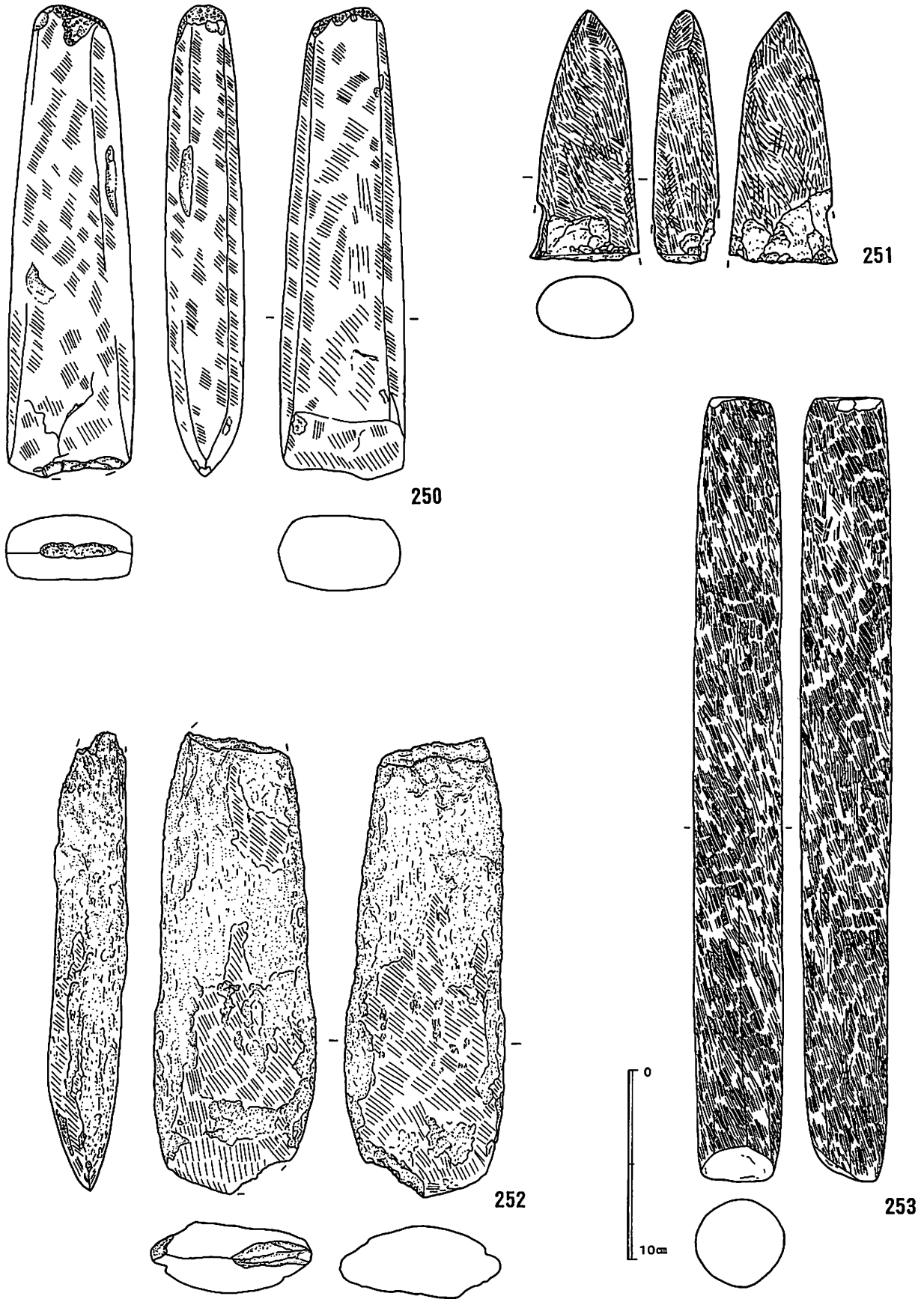




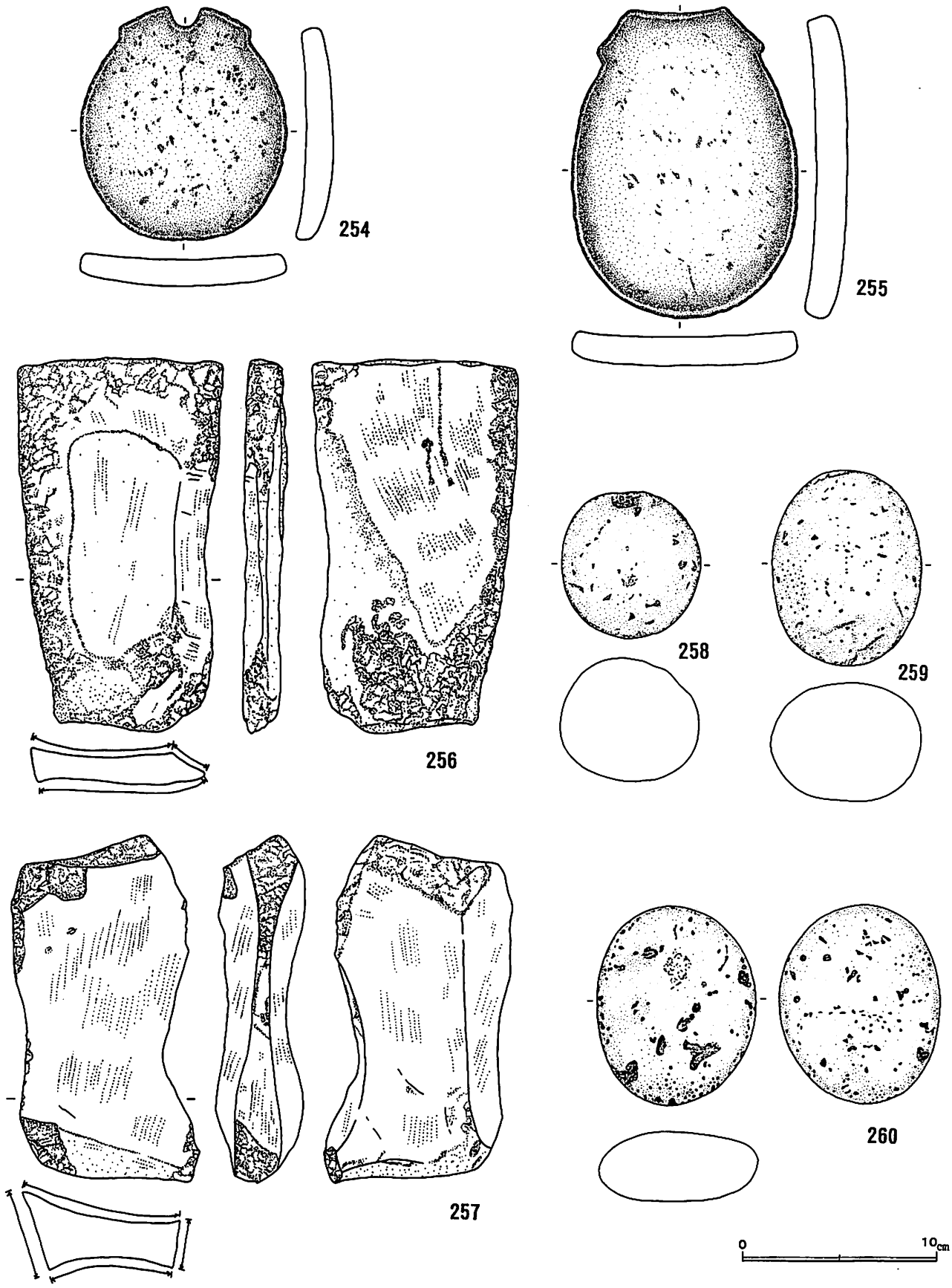
第41図　遺構外出土の石器（9）



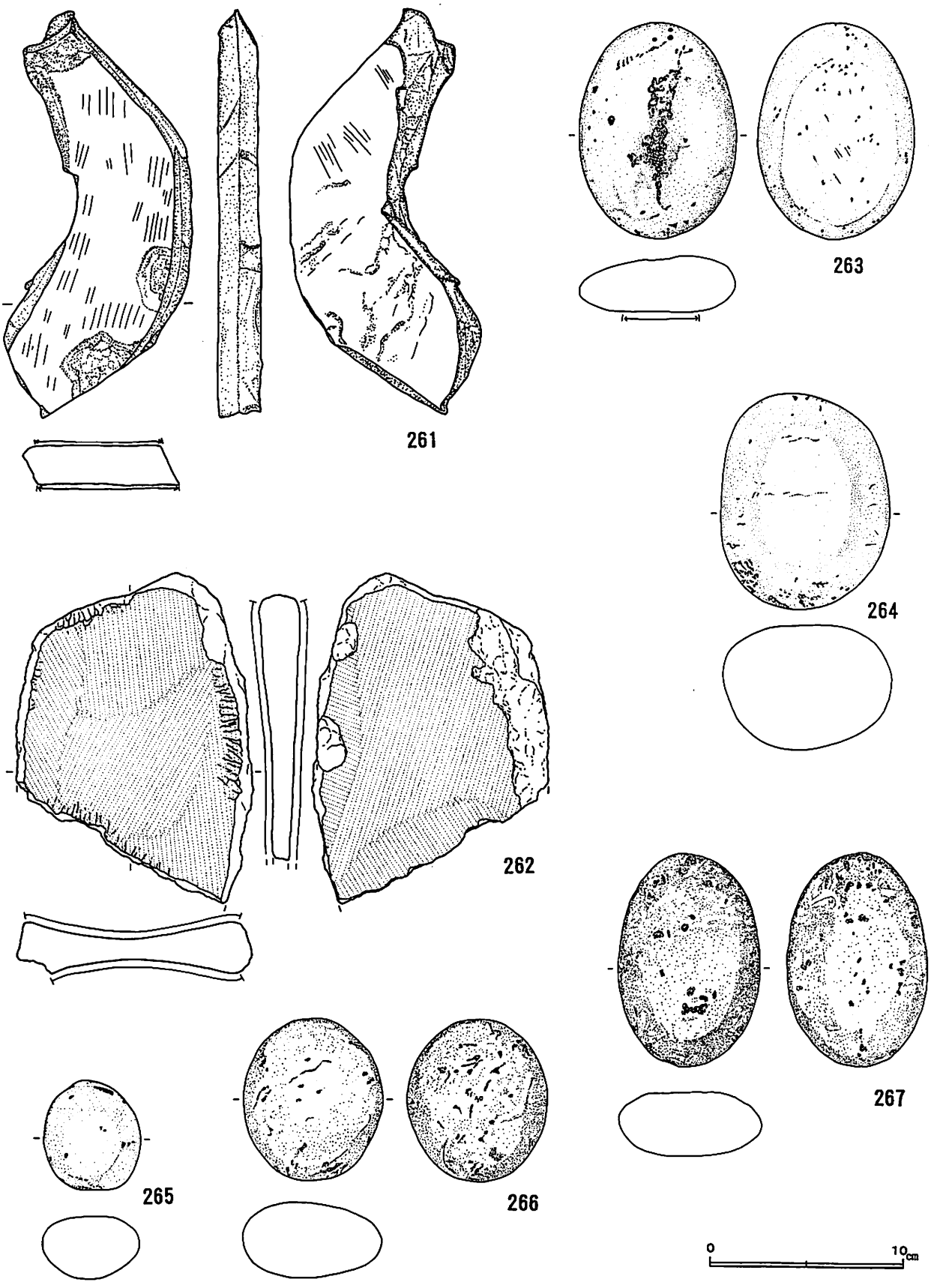
第42図　遺構外出土の石器（10）



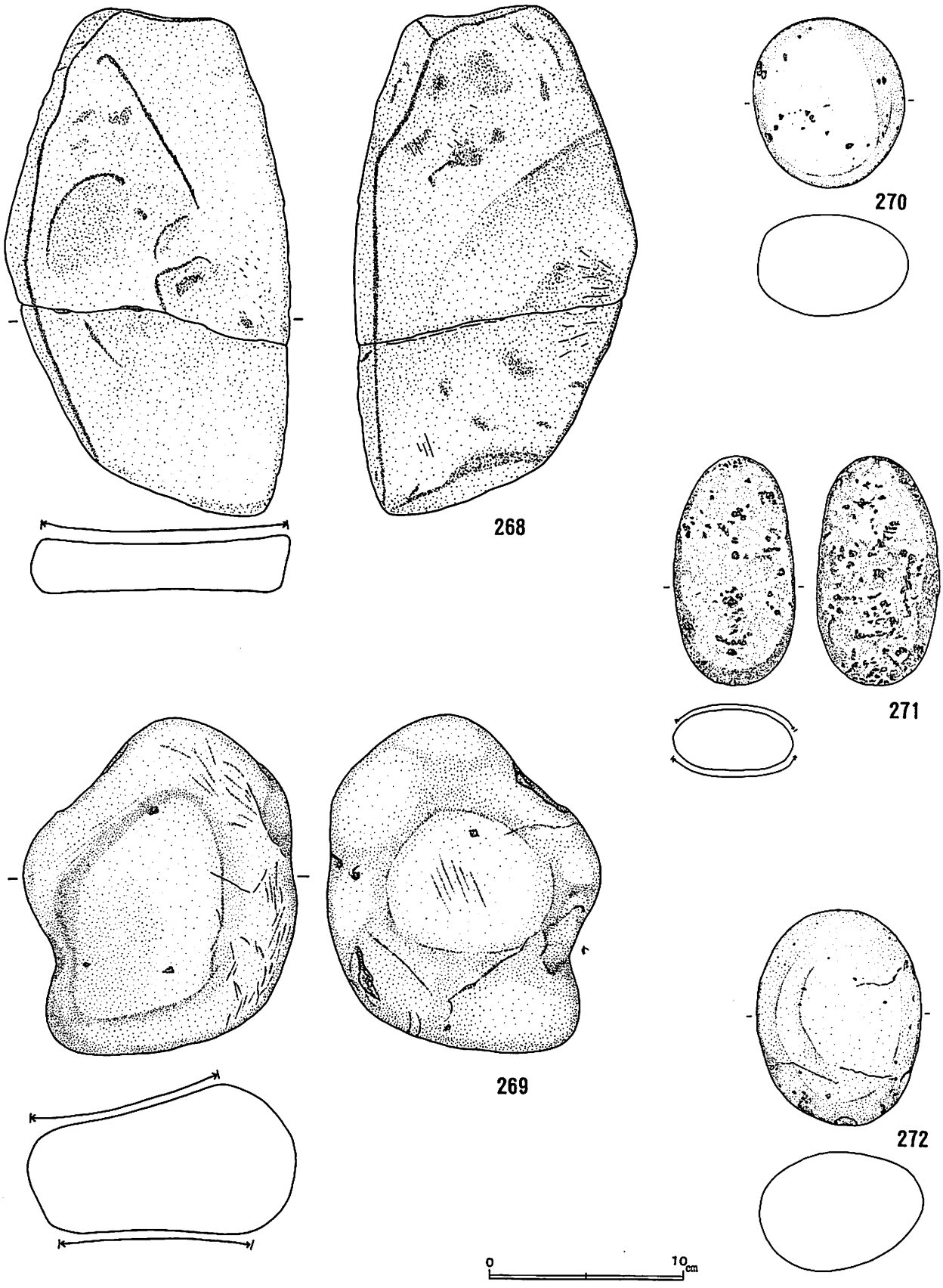
第43図　遺構外出土の石器（11）



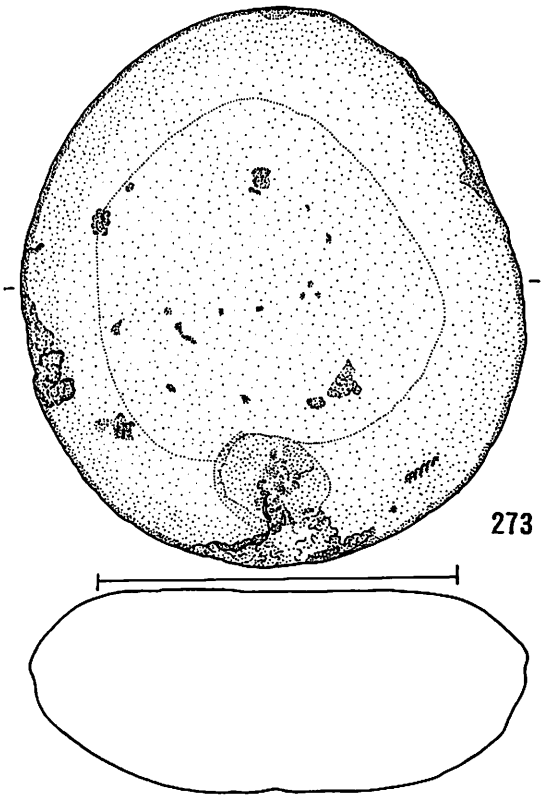
第44図　遺構外出土の石器（12）

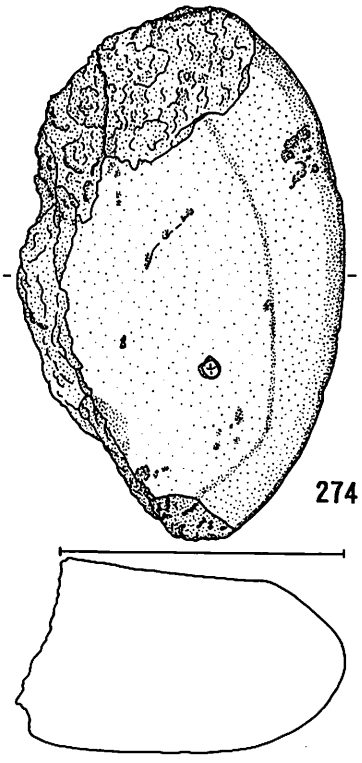


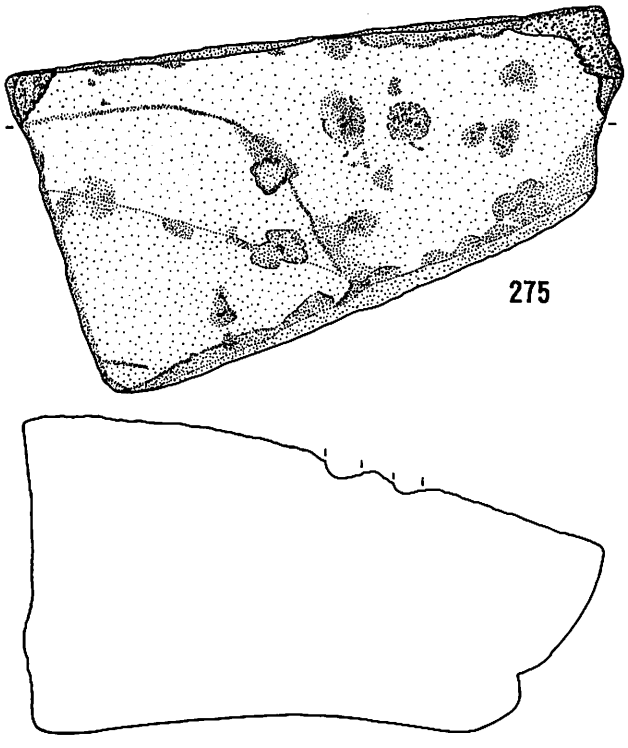
第45図　遺構外出土の石器（13）

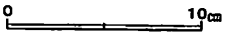


第46図　遺構外出土の石器（14）

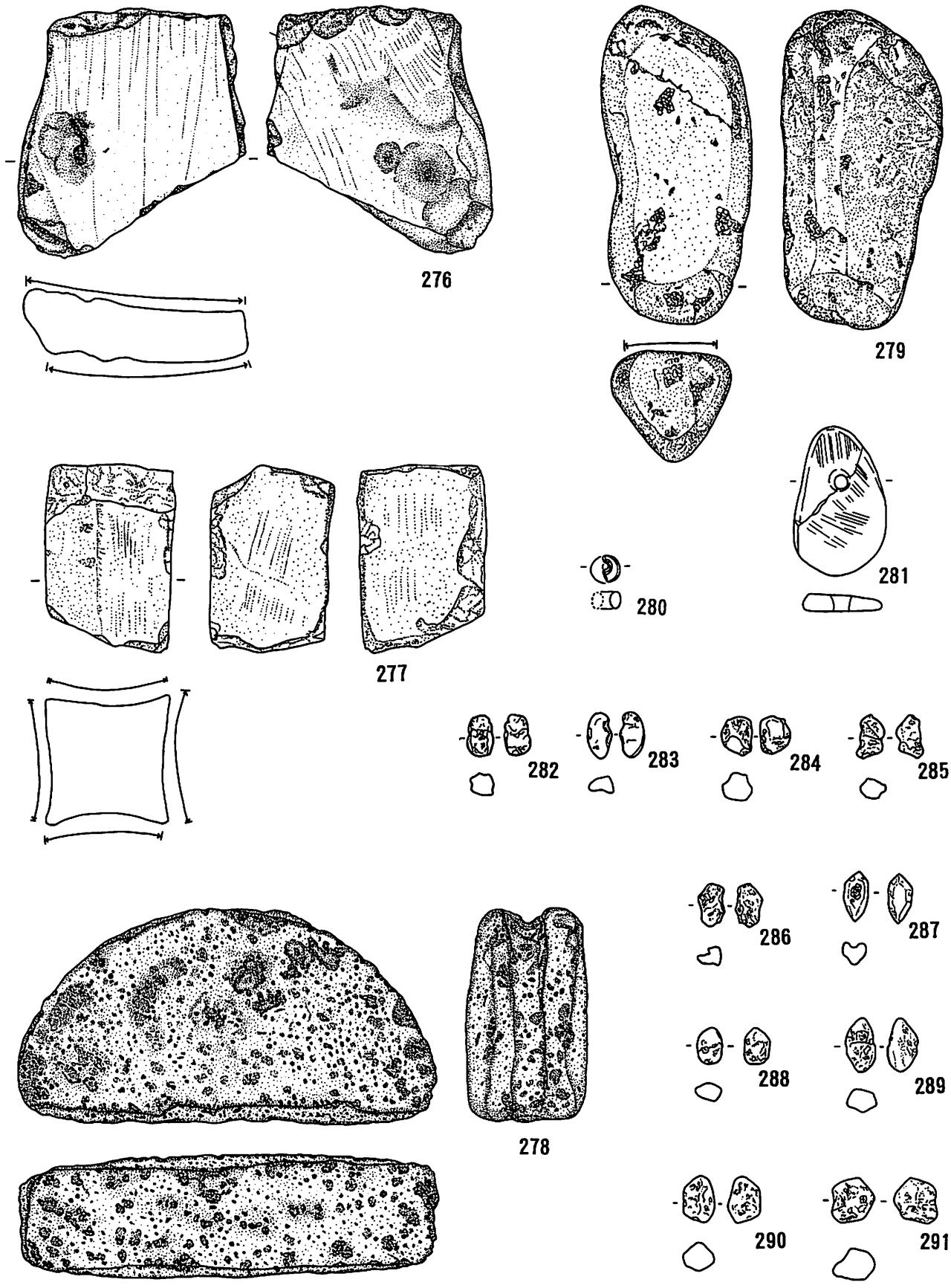




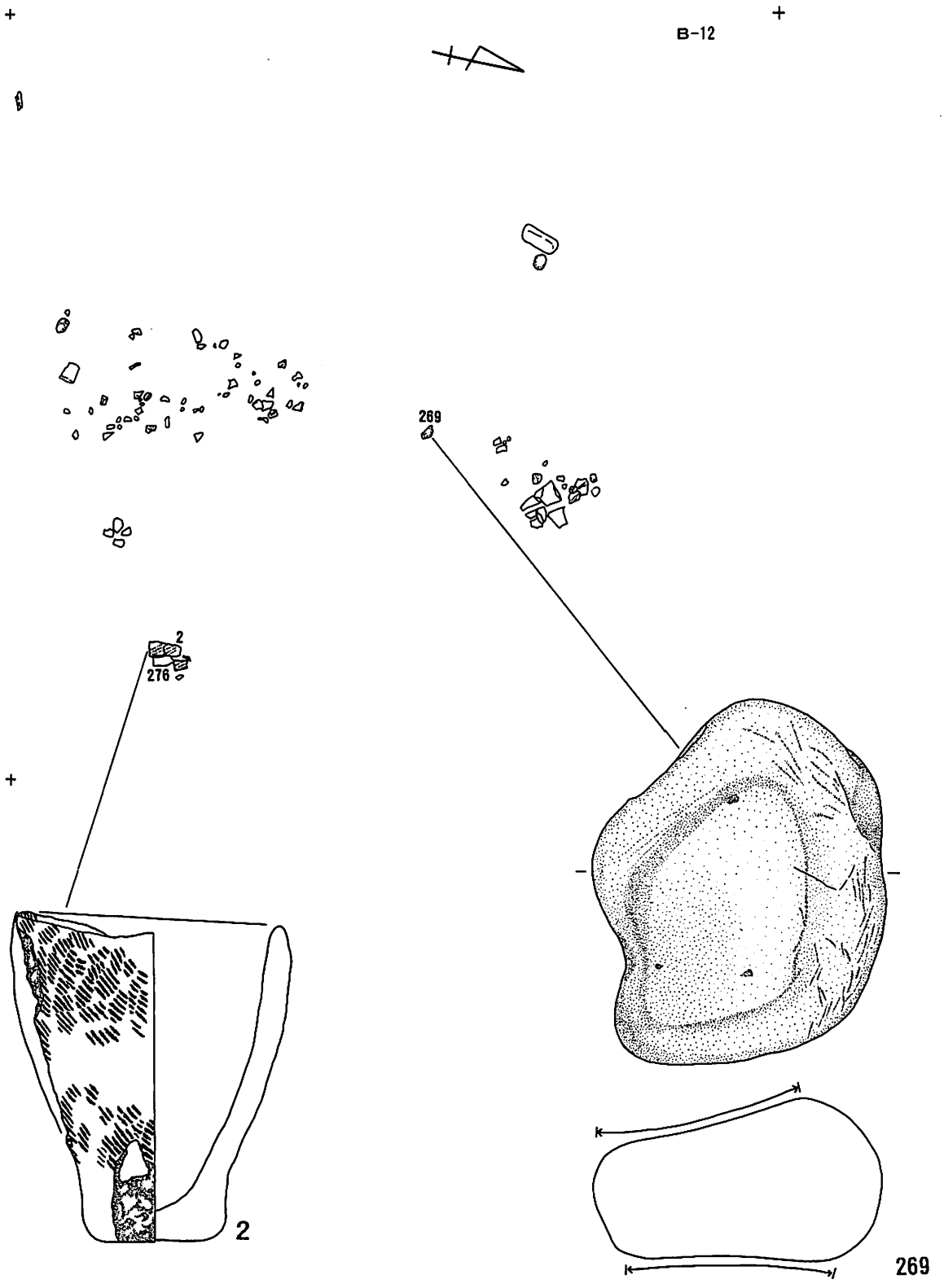




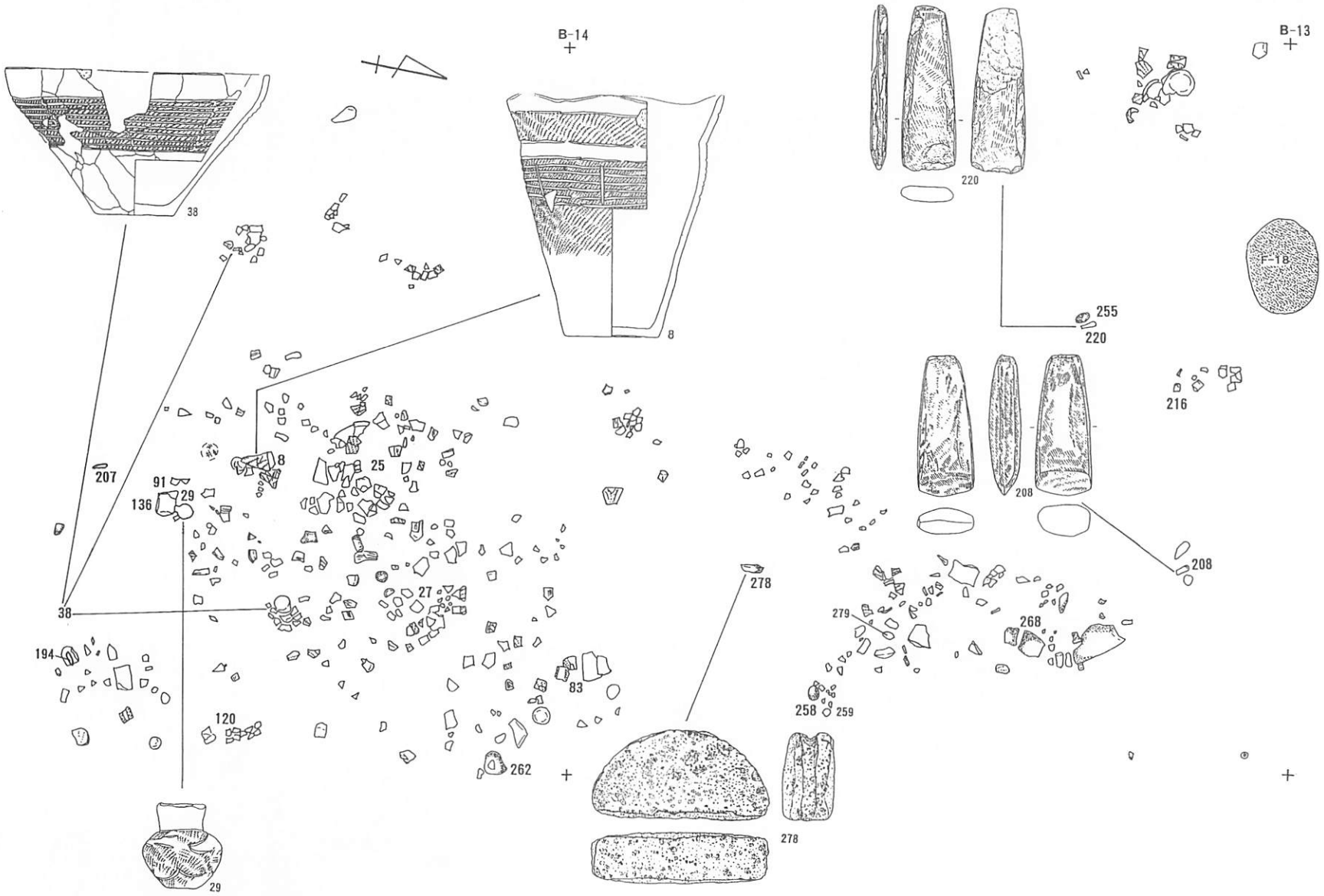
第47図　遺構外出土の石器（15）



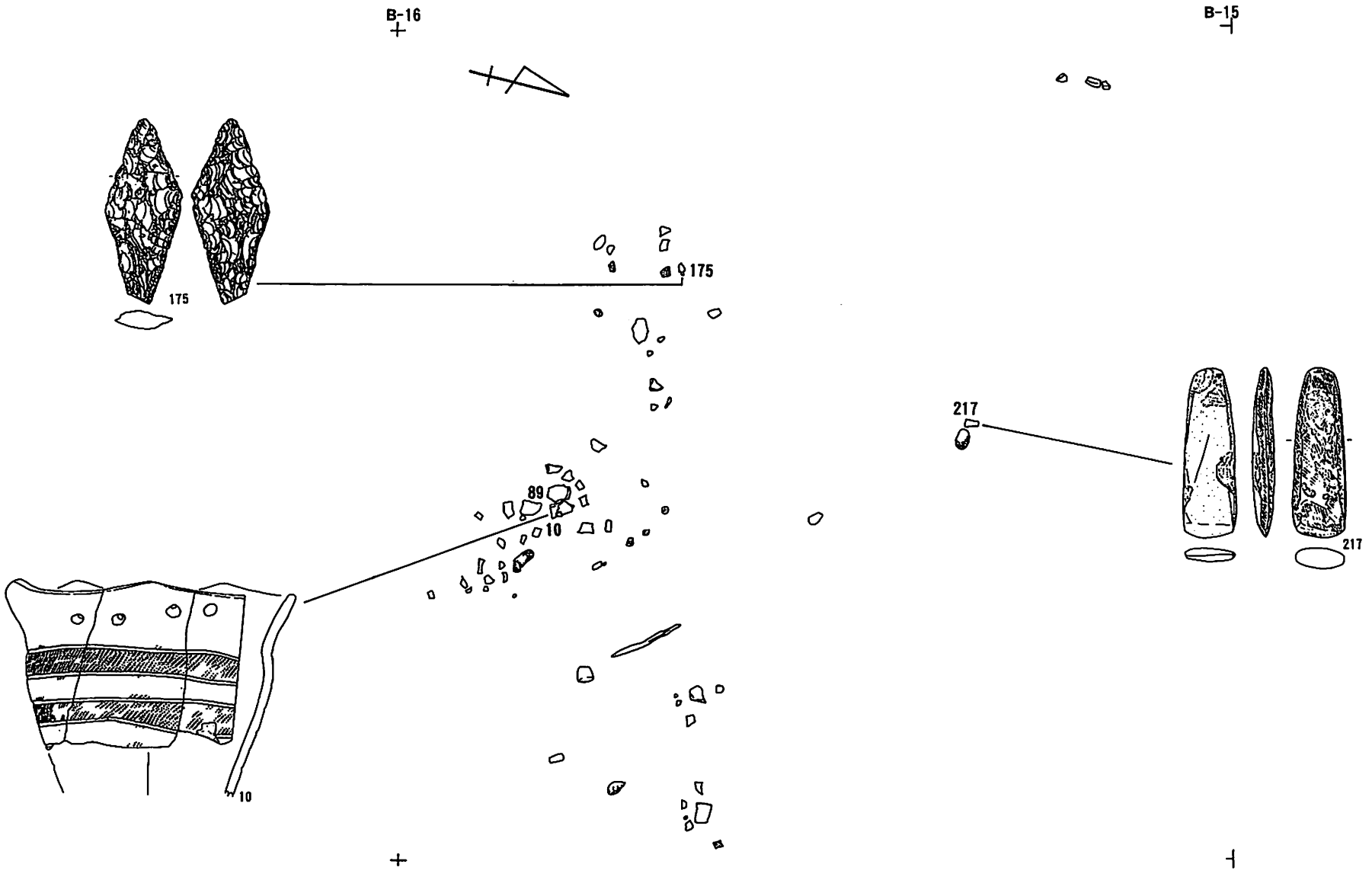
第48図　遺構外出土の石器、石製品、自然礫



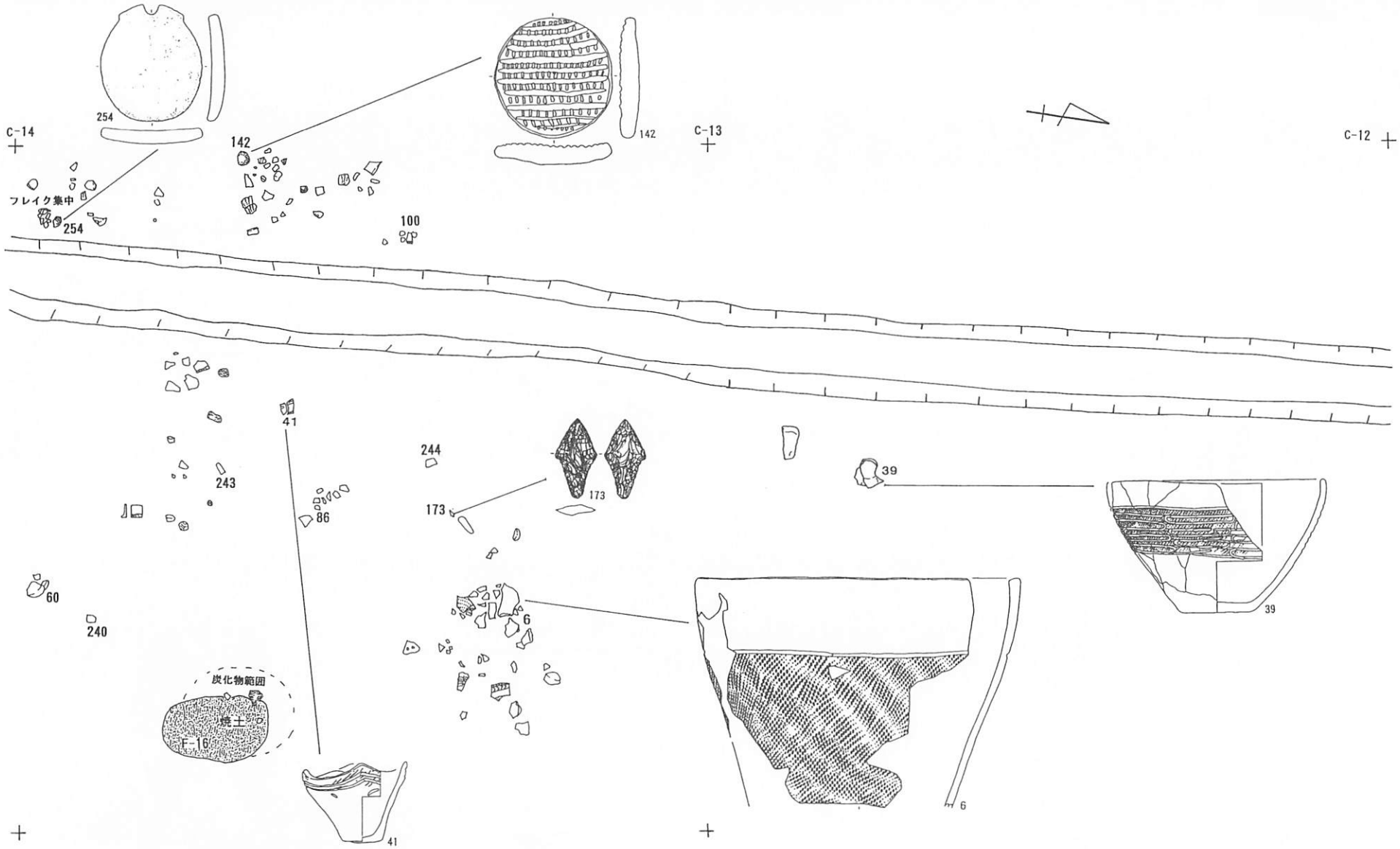
第49図　遺物出土状況（B-12グリッド）



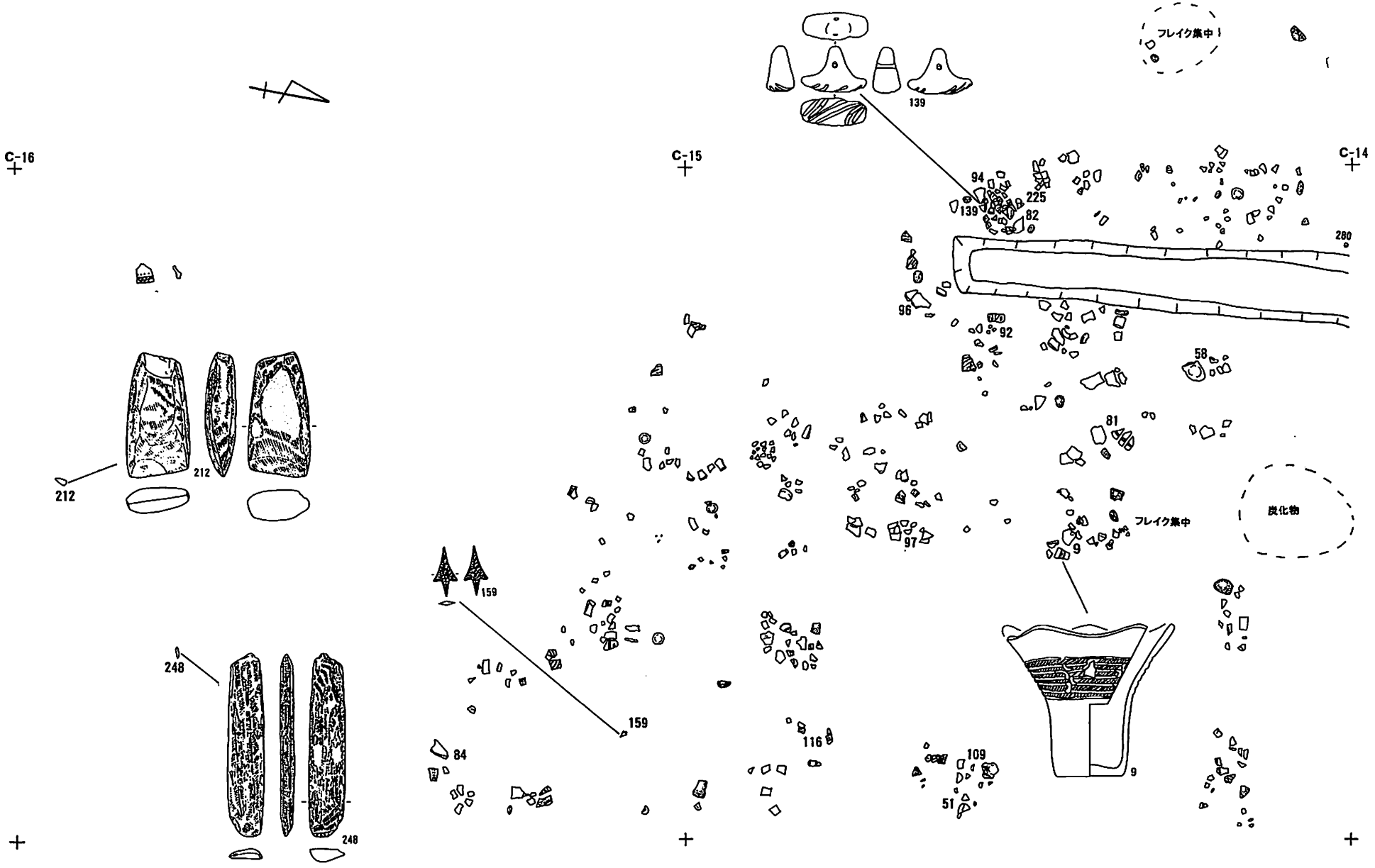
第50図　遺物出土状況（B-13・14グリッド）



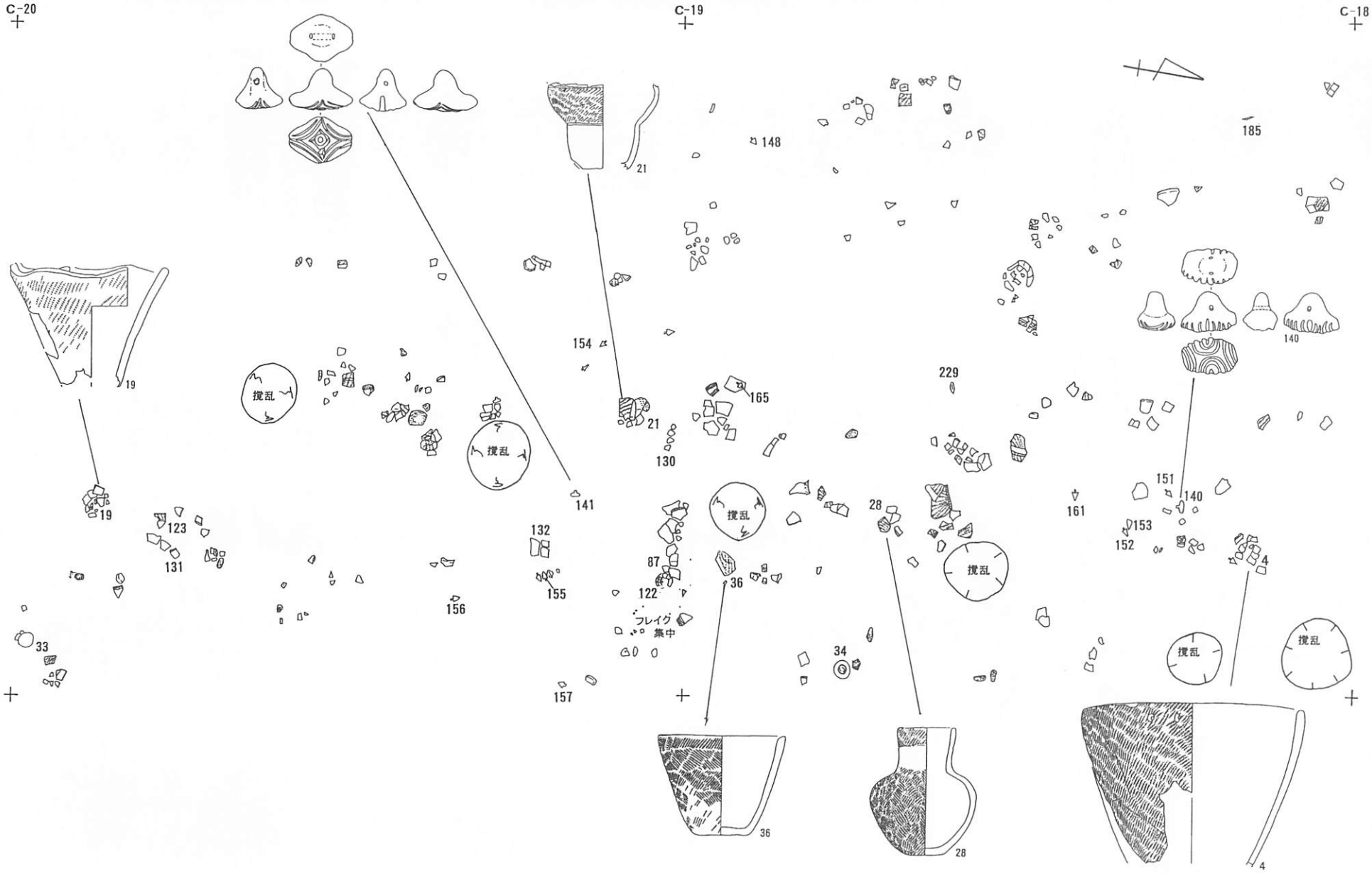
第51図　遺物出土状況（B-15グリッド）



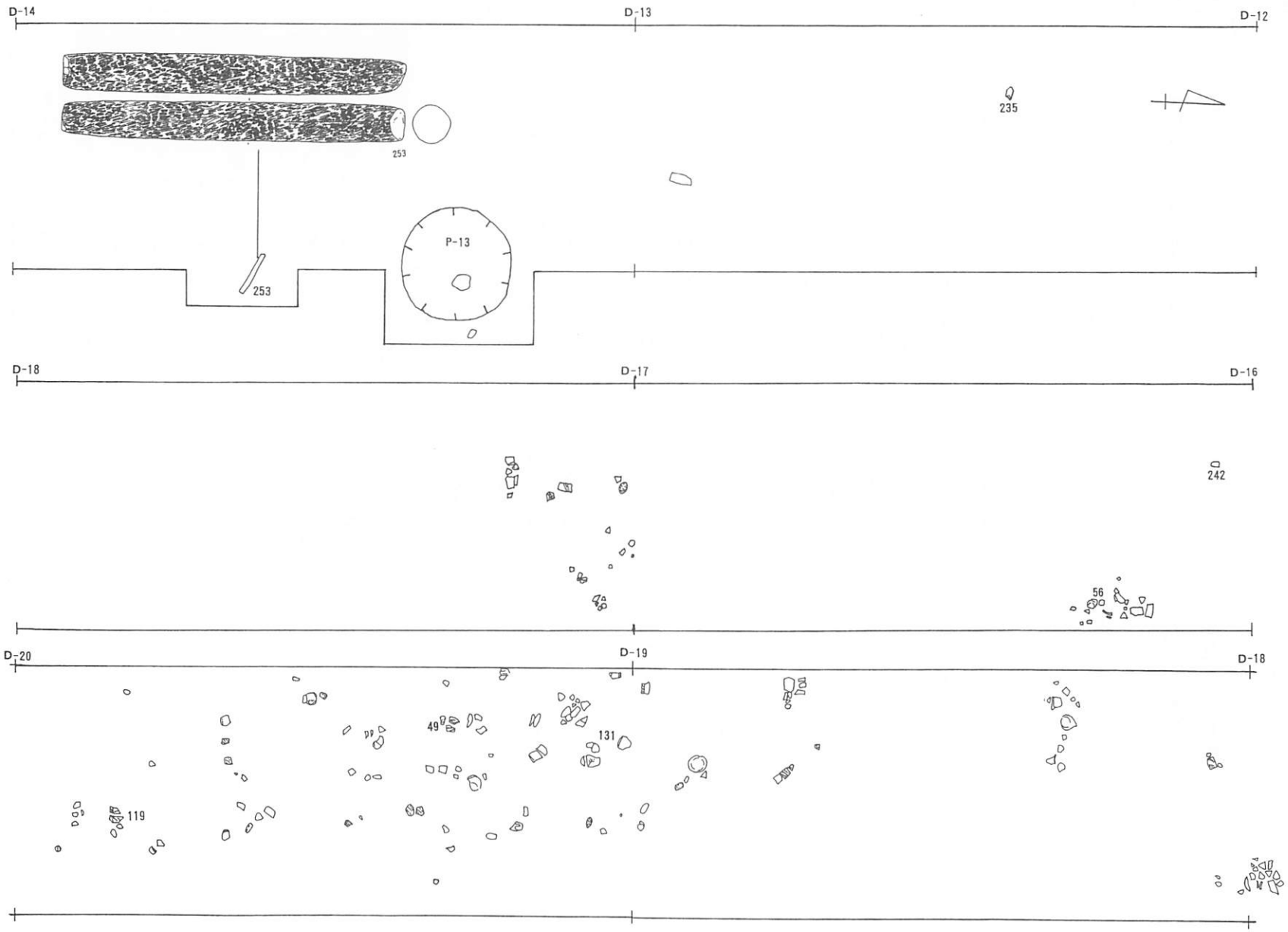
第52図　遺物出土状況（C-12, 13）



第53図　遺物出土状況（C-14, 15）



第54図　遺物出土状況（C-18・19グリッド）



第55図　遺物出土状況（Dトレンチ-13・14・16・17・18・19グリッド）

第4章　まとめ

余市町内には現在63ヵ所の遺跡が確認されており、立地として海岸に発達する大川砂丘には縄文時代中期～近世、内陸の黒川砂丘には縄文時代中期～後期、丘陵に縄文時代前期～後期の遺跡が分布する傾向がある。

安芸遺跡は市街地から東方約1.5km の位置にあり、登川左岸の標高4mほどの黒川砂丘上に立地している。かつて周辺では土地改良のため土砂採取工事をした際に円形状に石を放射状に並べた遺構が発見されているが詳細は不明である。

層序は基本的に４層でⅠ層は表土、Ⅱ層は黒色土、Ⅲ層は暗褐色土、Ⅳ層は黄褐色砂となっている。遺物包含層はⅡ・Ⅲ層であり縄文時代中期から後期にかけての遺物が出土しており、Ⅳ層下部は浸水状況にある。当時の環境としては海岸に沿って細長い大川砂丘の形成が始まり、遺跡の北側は鹹水、または湿地となっていたことが推測される。

遺構では住居跡２軒、土坑13基、焼土19ヶ所が確認された。遺物は約46,000点が出土しており、スタンプ状土製品、オロシガネ状土製品などの縄文時代後期を特徴づけるものが多く出土している。

現在までこの遺跡の周辺はほとんど調査されたことがなく、この黒川砂丘上における遺跡の状況は不明であったが、この発掘調査により住居跡や土坑群が発見されたことから、この砂丘縁辺には縄文時代の集落が点在して分布していた可能性が考えられるようになった。

主体となるのは第Ⅳ群土器であり、形態と文様から分類をしているが遺跡からまとまって廃棄された状態で出土しており層位的な土器細分は確認できなかった。第Ⅳ群土器は船泊上層式、手稲式、ホッケマ式と称される縄文時代後期の型式を包含しているがその実態は不明な部分が多い。近年、小樽市忍路土場遺跡の発掘調査によりこの土器群の層位的変遷が確認されているが器形によって漸移的様式となっており遺構での伴出はともかく包含層としての平面的な出土では的確な型式分離と時間差の把握は困難となりうる場合が多い。このようなことを考慮して当遺跡を見た場合、小樽市忍路土場遺跡のⅢ期からⅦ期に相当するものと考えられる。しかし時期に分かれたとしてもどのくらいの時間差であるのか検討を要することと考える。

他の遺物については、まとまって廃棄された土器の中に混じってスタンプ状土製品、オロシガネ状土製品、石鏃、石斧、擦石、オロシガネ状石製品などが完形品の状態で出土している。特徴的な遺物としてスタンプ状土製品、オロシガネ状土製品、オロシガネ状石製品などがあり、これらの伴出時期についても忍路土場遺跡で層位的に確認されており縄文時代後期中葉頃に発達しており、当遺跡でも第Ⅳ群土器に伴出すると考えられる。さて、スタンプ状土製品の用途であるが深い沈線で模様が施され、つまみ状であることからスタンプとして使用されていたものと思われ、渡辺誠氏によれば民俗事例、遺物としてのクッキー状炭化物などから、トチやドングリの粉で作った餅にスタンプを押し、神聖な祭りの

場や成人式・結婚式などに食したのではないかと推定している。遺跡に即してみると完全な形で出土しており、第Ⅳ群土器とともに混在していることから、儀礼やある年数を経ると土器とともに一括して廃棄された可能性もある。

オロシガネ状土製品・石製品についてもスタンプ状土製品とともに出土することから、儀礼的な使用方法が考えられる。

遺跡の性格として縄文時代後期前半から後半にかけて存続し、焼土や貯蔵坑が見られることから集落の付近に隣接し、屋外における活動の場として利用していたものと考えられる。

周辺の遺跡では南東約500mにある標高約30mの舌状台地には縄文時代後期と推定される八幡山ストーンサークルがある。

小樽市忍路環状列石（ストーンサークル）の周辺では忍路土場遺跡が調査され当時の土器、石器をはじめ多量の木製品が出土し近郊に集落の存在が想定されるところである。

安芸遺跡を例とした場合、低地に形成された集落は八幡山ストーンサークルのある高台から見下ろす位置にあることから関連性が考えられる。このような状況は千歳市美沢川流域における周堤墓と集落の関係に類似している。

東方約３㎞では丘陵上に縄文時代後期の道指定史跡の西崎山環状列石（ストーンサークル）群がある。

平成12年度には北海道立埋蔵文化財センターによる重要遺跡確認調査が実施され尾根上に４ヵ所の環状列石が確認されたが住居跡などは発見されないことから、安芸遺跡と同様に低地に集落が存在していた可能性がある。

東方約１㎞の登川右岸には縄文時代中期後半の北筒式土器を主体とした登川右岸遺跡、中期後半から後期前半にかけての北筒・余市式土器を主体とした国指定史跡の大谷地貝塚が知られているが、後期前半から後半の遺跡分布はほとんど知られていない。恐らく、中期には黒川砂丘上には集落が密集していたが、後期になると集落が点在する傾向になったものと思われる。その要因はよくわからないが、環状列石（ストーンサークル）の出現、儀礼的遺物の流行と関連していることは予測されるところである。

今後は黒川砂丘における遺跡の分布調査を実施しながら、安芸遺跡のあり方について検討していきたいと思う。

2000年　安芸遺跡　遺構外出土遺物計測表

図版No.	グリッド名・遺物No.	層　位	口　径 cm	器　高 cm	底　径 cm	胴　径 cm	分　類	備　　考
17－1	B－8－No.1	Ⅱ	(25.5)	(19.1)			Ⅱ群	口縁部　一括
17－2	B－12－No.4	Ⅱ	(13.1)	(16.0)	6.0×5.5		Ⅱ群	ほぼ完形　一括
17－3	A－7	Ⅱ	(13.8)	12.4	(7.6)		Ⅱ群	ほぼ完形　一括
17－4	C－18－No.1	Ⅱ	(24.8)	(17.9)			Ⅱ群	口縁部
17－5	D－8	Ⅱ	13.9	15.1	6.0		Ⅱ群	ほぼ完形　一括
17－6	C－13－No.1	Ⅱ	34.6	(25.4)			Ⅳ群a	口縁部
18－7	A－3－No.1	Ⅱ	(27.0)	(22.4)			Ⅳ群a	口縁部　一括
18－8	B－14－No.7	Ⅱ	22.2	25.5	9.5		Ⅳ群a	ほぼ完形
18－9	C－14－No.8	Ⅱ	(19.2)	16.9	7.3		Ⅳ群a	ほぼ完形
18－10	B－15－No.1	Ⅱ	(26.0)	(19.3)			Ⅳ群a	口縁部
18－11	D－1	Ⅱ	(15.1)	(13.1)	(7.2)		Ⅳ群a	口縁部
18－12	C－7－No.3	Ⅱ	(20.6)	(11.1)			Ⅳ群a	口縁部　一括
19－13	C－8－No.1	Ⅱ	(23.6)	27.1	(9.5)		Ⅳ群a	ほぼ完形　一括
19－14	B－14	Ⅱ	(17.6)	(9.5)			Ⅳ群a	口縁部
19－15	C－4	Ⅱ	(10.0)	(8.7)			Ⅳ群a	口縁部
19－16	C－7－No.1	Ⅱ	(19.1)	29.7			Ⅳ群a	口縁部
19－17	B－17	Ⅱ	(18.5)	(15.6)	(4.3)		Ⅳ群a	口縁部＋胴部
19－18	B－12－No.4	Ⅱ	(28.8)	(24.1)			Ⅳ群a	口縁部＋胴部
20－19	C－19－No.1	Ⅱ	(13.8)	17.8	(6.5)		Ⅳ群a	口縁部＋胴部
20－20	D－1	Ⅱ	11.8	(13.7)	5.6		Ⅳ群e	ほぼ完形
20－21	C－19－No.19	Ⅱ		(9.7)	(5.5)		Ⅳ群a	胴部＋底部
20－22	C－4－No.5	Ⅱ	(13.0)	(11.4)	4.6		Ⅳ群a	口縁部＋胴部
20－23	C－17－No.1	Ⅱ	(37.3)	(20.6)			Ⅳ群b	口縁部＋胴部
20－24	D－2	Ⅱ		(11.4)			Ⅳ群	胴部
21－25	B－14－No.2	Ⅱ	(54.0)	(27.4)			Ⅳ群b	口縁部＋胴部
21－26	C－19	Ⅱ	(35.5)	(28.6)			Ⅳ群b	口縁部＋胴部
21－27	B－14－No.9	Ⅱ	(23.6)	13.4			Ⅳ群b	底部
22－28	C－18－No.16	Ⅱ	6.5	3.6	4.4	11.6	Ⅳ群d	ほぼ完形
22－29	B－14－No.3	Ⅱ	5.9	8.9	3.5	8.2	Ⅳ群d	ほぼ完形
22－30	C－10	Ⅱ	(11.3)	(10.4)	6.1		Ⅳ群d	胴部＋底部
22－31	C－10	Ⅱ	(12.4)	(9.6)			Ⅳ群d	口縁部
22－32	A－3－No.2，3	Ⅱ		(17.5)		(25.6)	Ⅳ群d	胴部
22－33	C－19－No.3，C－19	Ⅱ		(9.8)		(20.8)	Ⅳ群d	胴部
22－34	C－18－No.14	Ⅱ	7.5	(4.8)			Ⅳ群d	口縁部
22－35	B－6－No.4	Ⅱ		(17.4)		(20.6)	Ⅳ群d	注口　一括
23－36	C－18－No.15	Ⅲ	(14.2)	10.9	(6.0)		Ⅳ群e	ほぼ完形
23－37	B－17	Ⅱ	18.5	(9.6)			Ⅳ群e	ほぼ完形
23－38	B－14－No.8，9，13	Ⅱ	(27.7)	(14.6)	8.1		Ⅳ群a	ほぼ完形
23－39	C－12－No.2	Ⅲ	(24.2)	(14.2)	7.6		Ⅳ群a	ほぼ完形
23－40	D－1	Ⅱ	(22.2)	(11.5)	(6.4)		Ⅳ群a	口縁部＋胴部
23－41	C－13－No.3	Ⅱ	11.4	8.8	4.2		Ⅳ群a	ほぼ完形　一括
23－42	D－14－No.3	Ⅱ	(9.7)		(6.8)		Ⅱ群	底部
23－43	C－4－No.2	Ⅱ	(15.5)		7.3		Ⅱ群	底部
23－44	A－8	Ⅱ			7.2		Ⅰ群	底部
23－45	A－8	Ⅱ			(7.4)		Ⅱ群	穿孔底部
24－46	C－7－No.2	Ⅱ			(7.2)		Ⅱ群	底部
24－47	C－7	Ⅱ			7.3		Ⅱ群	底部
24－48	D－6－No.1	Ⅱ			6.6		Ⅱ群	底部
24－49	D－19－No.2	Ⅱ			(8.4)		Ⅳ群	底部
24－50	B－15	Ⅱ		(4.6)	(7.6)		Ⅳ群	底部
24－51	C－14－No.2	Ⅱ		(5.7)	6.4		Ⅳ群	底部
24－52	B－6－No.2	Ⅱ		(6.9)	5.5		Ⅳ群	底部
24－53	B－15	Ⅱ		(8.5)	4.5		Ⅳ群	底部
24－54	C－7	Ⅱ		(5.7)	7.6		Ⅳ群	底部
24－55	D－1	Ⅱ		(6.0)	8.2		Ⅳ群	底部
24－56	D－16－No.2	Ⅱ		(6.7)	8.2		Ⅳ群	底部
24－57	D－19－No.2	Ⅱ		(6.0)	7.0		Ⅳ群	底部
24－58	C－14－No.9	Ⅱ		(5.8)	12.4		Ⅳ群	底部
24－59	B－18	Ⅱ		(5.6)	9.8		Ⅳ群	底部
24－60	C－13－No.4	Ⅱ		(4.8)	(11.5)		Ⅳ群	底部
24－61	B－14	Ⅱ		(4.8)	(11.0)		Ⅳ群	底部
24－62	B－14	Ⅱ		(3.9)	10.0		Ⅳ群	底部
25－63	A－4－No.1	Ⅱ					Ⅰ群	口縁部＋胴部
25－64	C－14	Ⅱ					Ⅰ群	胴部
25－65	A－16－No.2，A－16	Ⅱ					Ⅰ群	口縁部
25－66	D－1	Ⅱ					Ⅰ群	口縁部
25－67	C－12	Ⅱ					Ⅲ群	口縁部
25－68	C－13	Ⅱ					Ⅰ群	胴部
25－69	C－16	Ⅱ					Ⅱ群	口縁部
25－70	B－14	Ⅱ					Ⅱ群	口縁部
25－71	C－7－No.6	Ⅱ					Ⅱ群	口縁部＋胴部
26－72	C－6－No.1	Ⅱ					Ⅱ群	口縁部
26－73	C－9	Ⅱ					Ⅱ群	胴部
26－74	B－8	Ⅱ					Ⅱ群	口縁部

図版No.	グリッド名・遺物No.	層　位	口　径 cm	器　高 cm	底　径 cm	胴　径 cm	分　類	備　　考
26－75	C－7－No.2	Ⅱ					Ⅱ群	口縁部＋胴部
26－76	C－6－No.1	Ⅱ					Ⅱ群	口縁部＋胴部
26－77	B－8	Ⅱ					Ⅱ群	口縁部
26－78	C－7	Ⅱ					Ⅱ群	口縁部
26－79	B－12	Ⅱ					Ⅳ群	口縁部
27－80	B－19	Ⅱ					Ⅳ群a	口縁部
27－81	C－14－No.10	Ⅱ					Ⅳ群a	口縁部
27－82	C－14－No.18	Ⅱ					Ⅳ群a	口縁部
27－83	B－14－No.1	Ⅱ					Ⅳ群a	口縁部＋胴部
27－84	C－15－No.3	Ⅱ					Ⅳ群a	口縁部＋胴部
27－85	B－15	Ⅱ					Ⅳ群a	口縁部
27－86	C－13－No.2	Ⅱ					Ⅳ群a	口縁部
27－87	C－19－No.13	Ⅱ					Ⅳ群a	口縁部
27－88	A－16	Ⅱ					Ⅳ群a	口縁部
27－89	B－15－No.1	Ⅱ					Ⅳ群a	口縁部
27－90	A－6	Ⅱ					Ⅳ群a	口縁部
27－91	B－14－No.4	Ⅱ					Ⅳ群a	口縁部
28－92	C－14－No.22	Ⅱ					Ⅳ群a	口縁部＋胴部
28－93	B－15	Ⅱ					Ⅳ群a	口縁部
28－94	C－14－No.8	Ⅱ					Ⅳ群a	口縁部＋胴部
28－95	A－16	Ⅱ					Ⅳ群a	口縁部
28－96	C－14－No.19	Ⅱ					Ⅳ群a	胴部
28－97	C－14－No.11	Ⅱ					Ⅳ群a	口縁部
28－98	C－12	Ⅱ					Ⅳ群a	口縁部
28－99	A－16	Ⅱ					Ⅳ群b	口縁部
28－100	C－13－No.13	Ⅱ					Ⅳ群b	口縁部
28－101	D－1	Ⅱ					Ⅳ群b	口縁部
28－102	A－16－No.1	Ⅱ					Ⅳ群b	口縁部＋胴部
29－103	D－19－No.2	Ⅱ					Ⅳ群b	口縁部＋胴部
29－104	C－14	Ⅱ					Ⅳ群b	胴部
29－105	D－2	Ⅱ					Ⅳ群b	口縁部
29－106	A－17	Ⅱ					Ⅳ群c	口縁部
29－107	A－16	Ⅱ					Ⅳ群c	口縁部
29－108	C－8－No.12	Ⅱ					Ⅳ群c	口縁部
29－109	C－14－No.2	Ⅱ					Ⅳ群c	胴部
29－110	C－20	Ⅱ					Ⅳ群c	口縁部
29－111	D－3	Ⅱ					Ⅳ群c	胴部
30－112	C－19	Ⅱ					Ⅳ群c	口縁部
30－113	B－14	Ⅱ					Ⅳ群c	口縁部
30－114	B－14	Ⅱ					Ⅳ群c	胴部
30－115	B－17	Ⅱ					Ⅳ群c	口縁部＋胴部
30－116	C－14－No.3	Ⅱ					Ⅳ群c	口縁部
30－117	B－2，B－No.3	Ⅱ					Ⅳ群c	口縁部
30－118	D－6－No.2	Ⅱ					Ⅳ群c	口縁部＋胴部
30－119	D－19－No.4	Ⅱ					Ⅳ群c	口縁部
30－120	B－14－No.5	Ⅱ					Ⅳ群	口縁部
30－121	B－14	Ⅱ					Ⅳ群	口縁部
31－122	C－19－No.10	Ⅱ					Ⅳ群	胴部
31－123	C－19－No.2	Ⅱ					Ⅳ群e	口縁部
31－124	A－16	Ⅱ					Ⅳ群e	口縁部
31－125	A－15－No.3	Ⅱ					Ⅳ群e	口縁部
31－126	D－18	Ⅱ					Ⅳ群e	口縁部
31－127	A－17	Ⅱ					Ⅳ群e	口縁部
31－128	B－19	Ⅱ					Ⅳ群e	口縁部
31－129	B－14	Ⅱ					Ⅳ群e	口縁部
31－130	C－19－No.19	Ⅱ					Ⅳ群e	口縁部
31－131	D－19－No.1	Ⅱ					Ⅳ群e	口縁部
31－132	C－19－No.2	Ⅱ					Ⅳ群e	口縁部＋胴部
32－133	C－13	Ⅱ					Ⅳ群e	口縁部
32－134	C－19	Ⅱ					Ⅳ群e	口縁部
32－135	C－13	Ⅱ					Ⅳ群e	口縁部
32－136	B－14－No.4	Ⅱ					Ⅳ群e	胴部
32－137	A－15－No.3	Ⅱ					Ⅳ群e	胴部
32－138	B－8	Ⅱ					Ⅳ群	胴部
32－139	C－14－No.18	Ⅱ	長さ 3.4	幅 4.7	厚さ 1.95		土製品	スタンプ状
32－140	C－18－No.6	Ⅱ	長さ 3.0	幅 4.1	厚さ 2.7		土製品	スタンプ状
32－141	C－19－No.7	Ⅱ	長さ 3.05	幅 4.6	厚さ 3.4		土製品	スタンプ状
32－142	C－13－No.14	Ⅱ	径 8.4	厚さ 1.55			土製品	オロシガネ状
33－143	C－4	Ⅲ	長さ 3.3	幅 1.4	厚さ 0.7	重さ 2.2g	石鏃	黒曜石
33－144	C－17－No.1	Ⅲ	3.8	1.5	0.5	2.0g	石鏃	黒曜石
33－145	C－9	Ⅲ	4.2	1.3	0.5	1.8g	石鏃	黒曜石
33－146	B－4	Ⅱ	3.3	1.0	0.5	1.4g	石鏃	頁岩
33－147	A－4	Ⅱ	3.2	1.5	0.5	1.6g	石鏃	黒曜石
33－148	C－18－No.10	Ⅱ	2.3	1.0	0.4	0.4g	石鏃	黒曜石

図版No.	グリッド名・遺物No.	層　位	長　さ cm	幅 cm	厚　さ cm	重　さ g	分　類	備　　考
33－149	C－14	Ⅱ	3.1	(1.5)	0.4	(1.0)	石鏃	黒曜石
33－150	A－3	Ⅱ	2.1	1.9	0.4	1.0	石鏃	黒曜石
33－151	C－18－No.14	Ⅱ	(2.7)	1.7	0.3	(0.8)	石鏃	黒曜石
33－152	C－18－No.5	Ⅱ	2.6	1.7	0.4	0.6	石鏃	黒曜石
33－153	C－18－No.5	Ⅱ	2.1	1.2	0.4	0.4	石鏃	黒曜石
33－154	C－19－No.21	Ⅲ	2.0	1.2	0.4	0.4	石鏃	黒曜石
33－155	C－19－No.16	Ⅱ	(1.8)	2.0	0.3	(0.4)	石鏃	黒曜石
33－156	C－19－No.18	Ⅲ	(1.5)	1.3	0.3	(0.4)	石鏃	黒曜石
33－157	C－19－No.25	Ⅲ	1.9	1.5	0.5	0.7	石鏃	黒曜石
33－158	C－17－No.1	Ⅲ	2.2	1.2	0.4	0.7	石鏃	黒曜石
33－159	C－15－No.6	Ⅱ	3.7	1.8	0.3	0.8	石鏃	頁岩
33－160	B－17	Ⅲ	3.6	(1.9)	0.4	(1.5)	石鏃	黒曜石
33－161	C－18－No.7	Ⅱ	(2.6)	1.3	0.4	(0.6)	石鏃	黒曜石
33－162	C－19－No.9	Ⅱ	(2.5)	1.6	0.4	(0.8)	石鏃	黒曜石
33－163	B－15	Ⅱ	(2.8)	1.8	0.6	(1.6)	石鏃	黒曜石
33－164	C－18	Ⅱ	2.7	1.6	0.5	1.0	石鏃	黒曜石
33－165	C－18－No.8	Ⅱ	(2.0)	1.4	0.5	(0.6)	石鏃	黒曜石
33－166	B－14	Ⅱ	2.8	1.6	0.4	0.9	石鏃	黒曜石
33－167	C－13	Ⅱ	4.4	2.2	0.7	3.6	石鏃	黒曜石
33－168	C－9	Ⅱ	5.3	1.7	0.5	3.7	石槍	黒曜石
33－169	D－11	Ⅱ	5.3	2.1	0.8	5.8	石槍	黒曜石
33－170	C－3	Ⅲ	5.0	2.0	0.7	4.7	石槍	黒曜石
33－171	C－7	Ⅱ	5.3	2.1	0.8	7.5	石槍	黒曜石
33－172	A－9－No.3	Ⅱ	7.1	3.2	1.0	13.8	石槍	黒曜石
33－173	C－13－No.6	Ⅱ	5.8	3.0	0.9	9.8	石槍	黒曜石
33－174	B－15	Ⅲ	(6.0)	3.0	0.7	(9.3)	石槍	黒曜石
34－175	B－15－No.12	Ⅱ	11.2	4.6	1.1	42.0	石槍	黒曜石
34－176	C－9－No.9	Ⅱ	7.0	3.1	0.8	14.6	石槍	黒曜石
34－177	B－13	Ⅱ	6.6	2.9	0.9	10.0	石槍	黒曜石
34－178	A－9－No.4	Ⅱ	6.9	4.1	1.1	21.0	石槍	黒曜石
34－179	C－9	Ⅱ	5.9	3.0	1.2	14.4	石槍	黒曜石　未製品
34－180	D－14－No.4	Ⅱ	8.3	2.0	1.0	13.0	石槍	黒曜石
34－181	D－9－No.1	Ⅱ	(9.7)	3.9	1.1	(37.0)	石槍	黒曜石
34－182	C－16	Ⅱ	9.5	3.2	1.0	25.2	石槍	黒曜石
34－183	B－12－No.7	Ⅱ	3.8	(1.1)	0.6	(1.9)	ドリル	メノウ
34－184	C－14	Ⅱ	3.7	1.0	0.9	2.6	ドリル	頁岩
34－185	C－18－No.13	Ⅱ	3.5	2.1	0.8	3.7	ドリル	頁岩
34－186	A－14	Ⅱ	4.4	3.9	0.7	3.6	異形石器	黒曜石
34－187	C－18	Ⅲ	6.3	3.0	1.1	15.0	スクレイパー	黒曜石
34－188	B－12	Ⅱ	6.2	2.3	1.3	13.4	スクレイパー	黒曜石
34－189	A－15－No.3	Ⅱ	5.9	2.9	1.2	16.4	スクレイパー	石英
34－190	C－19	Ⅱ	(5.6)	3.4	1.2	(25.6)	スクレイパー	黒曜石
34－191	B－6	Ⅲ	(5.6)	3.5	1.0	(18.0)	スクレイパー	黒曜石
35－192	B－17	Ⅱ	(8.9)	2.3	1.0	(18.0)	石匙	頁岩
35－193	A－7	Ⅱ	10.4	2.4	1.8	31.6	石匙	頁岩
35－194	B－14－No.104	Ⅱ	8.5	3.7	1.2	16.4	石匙	頁岩
35－195	B－14	Ⅱ	7.0	2.1	1.0	10.8	石匙	黒曜石
35－196	B－14	Ⅱ	8.8	2.8	0.9	14.4	石匙	頁岩
35－197	B－18	Ⅱ	7.9	4.1	1.0	23.6	石匙	頁岩
35－198	B－3	Ⅱ	12.5	3.5	1.9	68.0	石匙	頁岩
35－199	C－13	Ⅱ	7.0	5.0	1.1	21.2	石匙	黒曜石
35－200	B－6	Ⅱ	(6.6)	(2.8)	(1.5)	(20.0)	石匙	頁岩
35－201	A－12	Ⅱ	5.1	2.9	0.7	8.3	石匙	黒曜石
35－202	D－19	Ⅱ	6.1	3.0	0.8	10.6	石匙	緑色片岩
35－203	B－15	Ⅱ	6.6	4.9	1.0	12.4	石匙	頁岩
35－204	B－13	Ⅱ	6.9	3.8	1.0	19.8	石匙	メノウ
36－205	B－3	Ⅱ	(9.4)	3.5	1.8	104.0	石斧	緑色泥岩
36－206	C－6	Ⅱ	8.2	3.6	1.7	83.0	石斧	緑色泥岩
36－207	B－14－No.103	Ⅲ	8.4	2.3	1.0	36.0	両頭石斧	
36－208	B－13－No.10	Ⅱ	9.8	3.8	2.2	143.0	石斧	緑色泥岩
36－209	C－17	Ⅱ	5.1	2.5	1.0	26.0	石斧	緑色泥岩
36－210	C－13	Ⅱ	2.6	1.4	0.6	2.4	石斧	
36－211	B－16	Ⅱ	8.8	3.5	1.5	77.0	石斧	
36－212	C－15－No.8	Ⅱ	9.3	4.6	2.2	170.0	石斧	緑色泥岩
36－213	B－3	Ⅱ	11.0	4.5	3.3	260.0	石斧	緑色泥岩
37－314	B－12	Ⅱ	10.4	5.7	2.7	295.0	石斧	緑色泥岩
37－215	B－14	Ⅱ	(3.9)	3.0	1.7	30.0	石斧	緑色泥岩
37－216	B－13－No.11	Ⅱ	(5.1)	4.3	1.2	49.0	石斧	緑色泥岩
37－217	B－15－No.3	Ⅱ	10.3	3.2	1.2	71.0	石斧	緑色泥岩
37－218	B－13	Ⅱ	(8.4)	4.4	1.6	104.0	石斧	緑色泥岩
37－219	表採	Ⅱ	10.4	4.5	2.6	220.0	石斧	
37－220	B－13－No.12	Ⅱ	11.4	3.8	1.1	74.0	石斧	
38－221	C－18	Ⅱ	7.4	3.5	1.8	72.0	石斧	緑色泥岩
38－222	B－13	Ⅲ	(6.1)	5.0	1.7	75.0	石斧	泥岩

図版No.	グリッド名・No.	層　位	長　さ cm	幅 cm	厚　さ cm	重　さ g	分　類	備　　考
38－223	C－17	Ⅱ	(9.1)	4.5	2.1	145.0	石斧	緑色泥岩
38－224	D－18	Ⅱ	(6.3)	4.5	1.9	91.0	石斧	緑色泥岩
38－225	C－14－No.17	Ⅱ	6.3	4.0	2.1	9.1	石斧	緑色泥岩
38－226	B－7	Ⅱ	(8.7)	5.2	1.9	120.0	石斧	
38－227	D－10	Ⅱ	(6.5)	3.3	1.6	66.0	石斧	
39－228	D－16	Ⅱ	(8.5)	(3.5)	2.3	101.0	石斧	緑色泥岩
39－229	C－18－No.8	Ⅱ	(6.9)	5.8	3.0	200.0	石斧	緑色泥岩
39－230	B－7	Ⅱ	(9.9)	(4.8)	1.7	98.0	石斧	緑色泥岩　未製品
39－231	C－18	Ⅱ	(6.6)	(3.3)	2.2	65.0	石斧	緑色泥岩
39－232	B－7	Ⅱ	(6.3)	3.7	1.3	48.0	石斧	緑色泥岩
39－233	C－6	Ⅱ	10.3	5.3	2.7	245.0	石斧	
39－234	A－2	Ⅱ	(3.5)	3.8	2.0	44.0	石斧	緑色泥岩
40－235	D－12－No.1	Ⅱ	(11.3)	5.4	1.8	132.0	石斧	
40－236	C－17－No.3	Ⅱ	(10.0)	5.2	1.9	158.0	石斧	ハンレイ岩
40－237	B－12	Ⅱ	(8.3)	3.2	1.0	50.0	石斧	ハンレイ岩
40－238	C－11	Ⅱ	13.2	4.6	2.2	190.0	石斧	
40－239	C－14	Ⅱ	(11.7)	4.5	1.5	106.0	石斧	ハンレイ岩
40－240	C－13－No.17	Ⅱ	(6.9)	4.0	1.0	45.0	石斧	ハンレイ岩
41－241	A－17	Ⅱ	15.2	5.1	2.3	256.0	石斧	ハンレイ岩
41－242	B－16－No.1	Ⅱ	(8.7)	5.4	1.9	156.0	石斧	ハンレイ岩
41－243	C－13－No.18	Ⅱ	(10.1)	4.0	2.0	110.0	石斧	ハンレイ岩
41－244	C－13－No.5	Ⅱ	(11.6)	5.4	2.8	288.0	石斧	ハンレイ岩
42－245	C－16－No.3	Ⅱ	(12.4)	5.1	2.8	305.0	石斧	緑色片岩
42－246	B－10	Ⅱ	7.7	4.3	2.2	110.0	石斧	緑色片岩
42－247	B－7	Ⅱ	11.5	4.8	1.0	94.0	打製石斧	片麻岩
42－248	C－15－No.7	Ⅲ	13.6	2.7	1.0	68.0	石斧	黒色片岩
42－249	C－9－No.7	Ⅱ	(9.7)	5.6	2.3	220.0	石斧	変成岩
43－250	C－13	Ⅱ	(16.7)	4.5	2.6	365.0	石斧	
43－251	D－1	Ⅱ	(9.1)	(3.8)	(2.3)	(125.0)	石斧	泥岩
43－252	C－13	Ⅱ	(16.3)	5.8	2.7	416.0	石斧	
43－253	D－13－No.1	Ⅱ	42.0	4.7	4.8	1640.0	石棒	
44－254	C－13－No.18	Ⅲ	12.8	11.1	1.7	315.0	擦石	
44－255	B－13－No.1	Ⅱ	16.9	12.2	2.3	344.0	擦石	
44－256	A－9－No.6	Ⅱ	20.0	10.8	2.0	572.0	砥石	凝灰岩
44－257	B－8	Ⅱ	18.6	10.3	4.2	672.0	砥石	
44－258	B－13－No.4	Ⅱ	7.8	7.5	6.3	567.0	擦石	凝灰岩
44－259	B－13－No.4	Ⅱ	10.4	8.0	6.3	705.0	擦石	凝灰岩
44－260	B－7	Ⅱ	10.7	8.7	3.7	430.0	擦石	凝灰岩(軽石状)
45－261	B－2	Ⅱ	21.7	9.9	2.1	465.0	擦石	砂岩
45－262	B－14－No.101	Ⅲ	(17.6)	12.5	2.8	616.0	砥石	
45－263	B－7	Ⅱ	11.6	8.4	3.0	375.0	擦石・凹石	
45－264	B－4	Ⅱ	11.6	9.0	6.7	1082.0	擦石	礫岩
45－265	B－7	Ⅱ	5.9	5.2	3.4	148.0	擦石	凝灰岩
45－266	B－3	Ⅱ	8.7	7.4	4.1	377.0	擦石	
45－267	B－7	Ⅱ	11.3	7.6	3.5	410.0	擦石	
46－268	B－13－No.2	Ⅱ	27.1	15.0	3.0	2375.0	擦石	
46－269	B－12－No.3	Ⅱ	18.0	14.2	8.0	3090.0	擦石	安山岩
46－270	B－7	Ⅱ	9.1	7.9	5.4	577.0	擦石	凝灰岩
46－271	B－7	Ⅱ	12.2	6.3	3.2	340.0	擦石	
46－272	B－4	Ⅱ	11.3	8.2	6.3	915.0	擦石	
47－273	C－6－No.7	Ⅱ	29.8	26.4	10.7	12.0kg	擦石	安山岩
47－274	C－4－No.7	Ⅱ	28.3	17.2	10.1	6.0kg	擦石	
47－275	C－16	Ⅱ	32.4	20.2	16.6	11.5kg	台石	
47－276	B－12－No.4	Ⅱ	9.0	8.1	2.7	228.0	砥石・凹石	砂岩
48－277	B－17	Ⅲ	(6.6)	4.5	4.6	197.0	多面体砥石	砂岩
48－278	B－13－No.19	Ⅱ	7.6	14.8	4.3	535.0	擦石	軽石
48－279	B－13－No.4	Ⅱ	11.3	6.7	5.9	393.0	擦石	安山岩
48－280	C－14－No.15	Ⅱ	径 (1.0)	長さ (0.6)		(0.5)	石製玉	
48－281	A－9－No.1, 2	Ⅱ	5.3	3.3	0.6	15.0	垂飾	接合　蛇紋岩
48－282	C－19－No.9	Ⅱ	1.4	0.9	0.8	1.3	自然礫	石英　一括
48－283	C－19－No.9	Ⅱ	1.6	0.9	0.6	1.1	自然礫	石英　一括
48－284	C－19－No.9	Ⅱ	1.4	1.1	1.0	1.3	自然礫	石英　一括
48－285	C－19－No.9	Ⅱ	1.5	1.0	0.7	1.2	自然礫	石英　一括
48－286	C－19－No.9	Ⅱ	1.6	1.0	0.7	1.1	自然礫	石英　一括
48－287	C－19－No.9	Ⅱ	1.8	0.9	0.8	1.4	自然礫	石英　一括
48－288	C－19－No.9	Ⅱ	1.3	0.9	0.7	0.9	自然礫	石英　一括
48－289	C－19－No.9	Ⅱ	1.9	1.1	0.8	1.6	自然礫	石英　一括
48－290	C－19－No.9	Ⅱ	1.7	1.2	1.0	1.9	自然礫	石英　一括
48－291	C－19－No.9	Ⅱ	1.6	1.5	1.1	3.0	自然礫	石英　一括

【引用・参考文献】 50音順

乾　芳宏　2000「八幡山ストーンサークルについて」『余市水産博物館研究報告』3

大沼忠春　1981「北海道中央部における縄文時代中期から後期初頭の編年について」『考古学雑誌』66-4

大沼忠春　1989「北筒式土器様式」『縄文土器大成』4

加藤邦雄　1976「縄文時代後期・晩期」『北海道考古学講座』

桑原　護　1966「北筒式土器」『考古学雑誌』51－4

桑原　護　1968「余市式土器」『考古学雑誌』54－1

児玉作左衛門他　1952「禮文島船泊砂丘遺跡の発掘に就いて」『北方文化研究報告』7

駒井和愛　1959『音　江』

札幌郡手稲町教育委員会　1956『手稲遺跡』

鈴木克彦　1999「北海道渡島・檜山地域の後期前～中葉の編年」『国学院大学考古学資料館紀要』15

鷹野光行　1978「北海道における縄文時代後期中葉の土器の編年について」『考古学雑誌』63-4

当別町教育委員会　1970『伊達山遺跡』

名取武光他　1969「縄文後期文化」『新版考古学講座』

北海道教育委員会　1976『美沢川流域の遺跡群』Ⅰ

北海道教育委員会　1977『美沢川流域の遺跡群』Ⅱ

北海道埋蔵文化財センター　1978『美沢川流域の遺跡群』Ⅲ

北海道埋蔵文化財センター　1981『美沢川流域の遺跡群』Ⅳ

北海道埋蔵文化財センター　1989『忍路土場遺跡・忍路５遺跡』

北海道立埋蔵文化財センター　2001『西崎山ストーンサークル』

松前町教育委員会　1974『大津遺跡発掘調査報告書』

宮　宏明　1988「スタンプ状土製品に関する若干の問題」『北海道考古学』24

森田知忠　1981「北海道縄文後期の土器」『縄文土器大成』3

八雲町教育委員会　1992『コタン温泉遺跡』

余市町教育委員会　1965『西崎山』

余市町教育委員会　1988『大谷地貝塚』

余市町教育委員会　1988『登川右岸遺跡』

余市町教育委員会　2000『大川遺跡における考古学的調査』Ⅱ

余市町教育委員会　2001『大川遺跡における考古学的調査』Ⅲ

吉崎昌一　1965「北海道　縄文文化の発展と地域性」『日本の考古学』Ⅱ

礼文町教育委員会　2000『船泊遺跡発掘調査報告書』

渡辺　誠　1984『縄文時代の植物食』

渡辺　誠　1988「スタンプ形土製品について」『Shell　Mound』3

安芸遺跡　遺物出土点数

項目 / グリット	土器		石器類			土製品	石製品	小計
	Ⅱ層	Ⅲ層	剥片石器	礫石器	剥片			
A－1	0	1	0	0	0	0	0	1
A－2	151	0	1	2	209	0	0	363
A－3	116	72	1	10	142	0	0	341
A－4	177	0	1	3	122	0	0	303
A－5	69	8	0	0	40	0	0	117
A－6	134	0	0	5	42	0	0	181
A－7	196	12	3	12	79	0	0	302
A－8	205	26	1	8	81	0	0	321
A－9	227	27	7	11	109	0	1	382
A－10	0	0	0	0	0	0	0	0
A－11	80	0	3	5	26	0	0	114
A－12	231	0	1	3	39	0	0	274
A－13	110	0	2	0	23	0	0	135
A－14	163	5	5	0	32	0	0	205
A－15	541	0	0	2	98	0	0	641
A－16	614	0	3	3	96	0	0	716
A－17	113	0	1	0	9	0	0	123
A－18	14	0	0	0	0	0	0	14
A－19	0	0	0	0	0	0	0	0
A－20	0	0	0	0	0	0	0	0
A－21	0	0	0	0	0	0	0	0
A－22	0	0	0	0	0	0	0	0
A－23	0	0	0	0	0	0	0	0
A－24	0	0	0	0	0	0	0	0
A－25	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	3,141	151	29	64	1,147	0	1	4,533

安芸遺跡　遺物出土点数

項目 / グリット	土器		石器類			土製品	石製品	小計
	Ⅱ層	Ⅲ層	剥片石器	礫石器	剥片			
B－1	0	7	0	0	1	0	0	8
B－2	93	0	2	10	53	0	0	158
B－3	299	7	4	38	230	0	0	578
B－4	244	0	1	13	182	0	0	440
B－5	135	43	1	68	85	0	0	332
B－6	460	34	2	14	102	0	0	612
B－7	490	0	6	26	135	0	0	657
B－8	445	76	5	10	99	0	0	635
B－9	98	46	0	3	37	0	0	184
B－10	138	35	1	0	27	0	0	201
B－11	8	105	0	0	33	0	0	146
B－12	1,101	285	12	44	352	0	0	1,794
B－13	2,951	60	14	53	630	0	0	3,708
B－14	3,231	414	9	102	552	0	0	4,308
B－15	1,582	249	6	44	254	0	0	2,135
B－16	441	146	8	18	146	0	0	759
B－17	776	86	6	13	300	0	0	1,181
B－18	1,133	0	4	15	235	0	0	1,387
B－19	98	0	0	2	12	0	0	112
B－20	0	0	0	0	0	0	0	0
B－21	0	0	0	0	0	0	0	0
B－22	0	0	0	0	0	0	0	0
B－23	0	0	0	0	0	0	0	0
B－24	0	0	0	0	0	0	0	0
B－25	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	13,723	1,593	81	473	3,465	0	0	19,335

安芸遺跡　遺物出土点数

項目 / グリット	土器		石器類			土製品	石製品	小計
	Ⅱ層	Ⅲ層	剥片石器	礫石器	剥片			
C－1	0	0	0	0	0	0	0	0
C－2	3	0	0	0	36	0	0	39
C－3	179	2	1	4	49	0	0	235
C－4	250	142	1	28	228	0	0	649
C－5	44	0	0	11	53	0	0	108
C－6	377	11	3	43	144	0	0	578
C－7	852	8	5	39	154	0	0	1,058
C－8	289	24	2	15	27	0	0	357
C－9	269	18	7	16	110	0	0	420
C－10	242	9	0	20	48	0	0	319
C－11	110	11	1	5	47	0	0	174
C－12	252	22	0	9	53	0	0	336
C－13	1,066	14	13	6	364	1	0	1,464
C－14	3,419	142	10	120	517	1	1	4,210
C－15	1,075	35	4	29	174	0	0	1,317
C－16	574	0	4	20	108	1	0	707
C－17	594	154	8	12	125	0	0	893
C－18	1,875	328	14	60	620	0	0	2,897
C－19	1,002	290	13	47	763	1	0	2,116
C－20	22	0	0	2	9	0	0	33
C－21	0	0	0	0	0	0	0	0
C－22	0	0	0	0	0	0	0	0
C－23	0	0	0	0	0	0	0	0
C－24	0	0	0	0	0	0	0	0
C－25	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	12,494	1,210	86	486	3,629	4	1	17,910

安芸遺跡　遺物出土点数

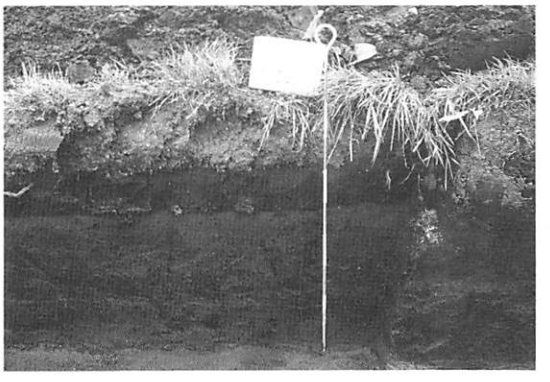
項目 / グリット	土器		石器類			土製品	石製品	小計
	Ⅱ層	Ⅲ層	剥片石器	礫石器	剥片			
D－1	98	0	1	16	36	0	0	151
D－2	185	0	0	19	37	0	0	241
D－3	22	0	0	0	1	0	0	23
D－4	4	0	0	3	7	0	0	14
D－5	25	0	0	3	15	0	0	43
D－6	47	0	0	3	5	0	0	55
D－7	140	0	1	0	7	0	0	148
D－8	50	0	0	1	6	0	0	57
D－9	25	0	0	0	16	0	0	41
D－10	56	0	2	12	36	0	0	106
D－11	148	0	1	25	7	0	0	181
D－12	134	0	2	1	43	0	0	180
D－13	93	79	0	9	33	0	0	214
D－14	95	330	3	3	29	0	0	460
D－15	4	366	1	1	22	0	0	394
D－16	291	0	2	3	11	0	0	307
D－17	264	0	0	2	29	0	0	295
D－18	298	0	1	41	59	0	0	399
D－19	797	0	9	6	217	0	0	1,029
D－20	0	79	0	1	15	0	0	95
D－21	0	12	0	0	1	0	0	13
D－22	0	0	0	0	0	0	0	0
D－23	0	0	0	0	0	0	0	0
D－24	0	0	0	0	0	0	0	0
D－25	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	2,776	866	23	149	632	0	0	4,446
総合計	32,134	3,820	219	1,172	8,873	4	2	46,224

写 真 図 版

発掘風景

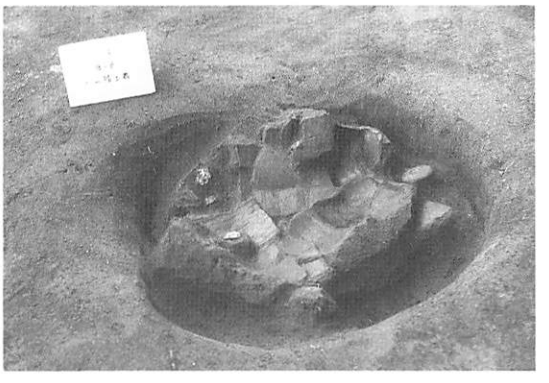
H-1

Dトレンチ



H-1

完掘状況

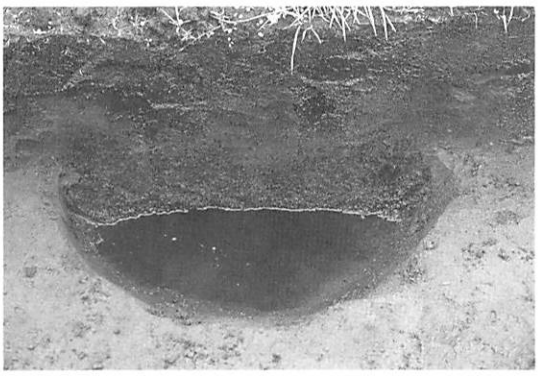


P-8　一括土器

P-2　一括土器

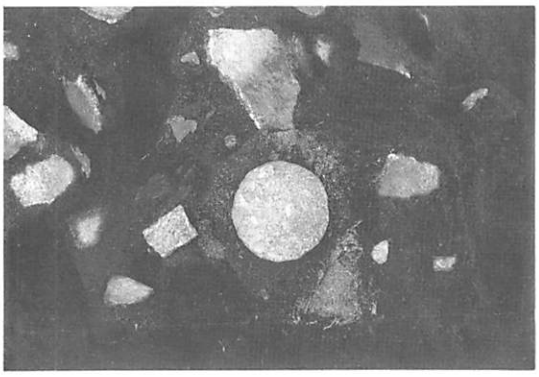
P-7

写真1　発掘風景・完掘状況・遺構遺物出土状況（P-2・7・8，H-1）

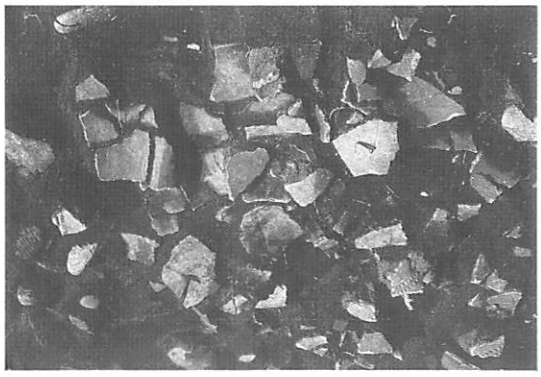


P-13

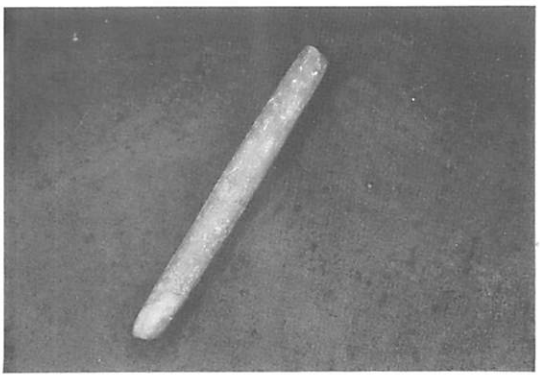
遺物出土状況



オロシガネ状土製品



土器出土状況



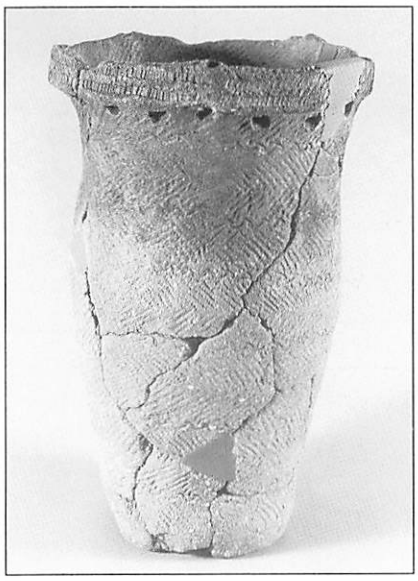
石棒

小石(石英)集中

オロシガネ状石製品

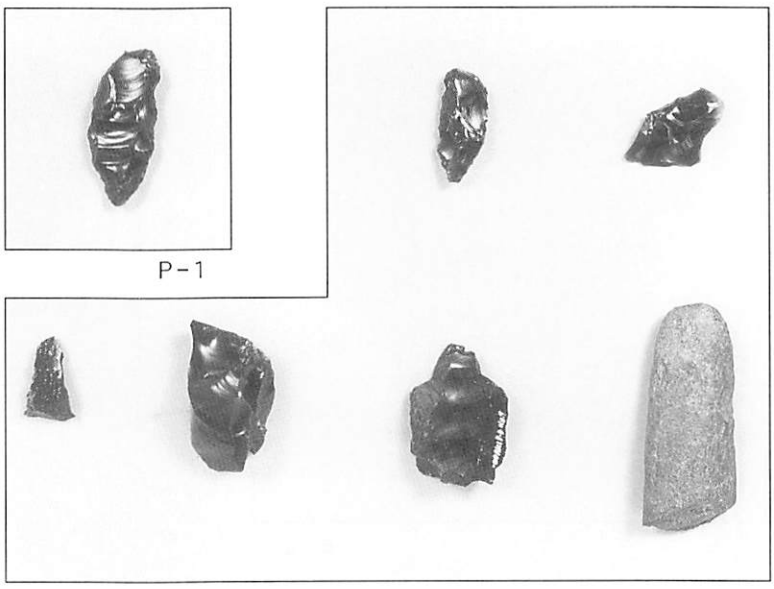
スタンプ状土製品

写真２　遺構(P-13)遺物出土状況



P－2

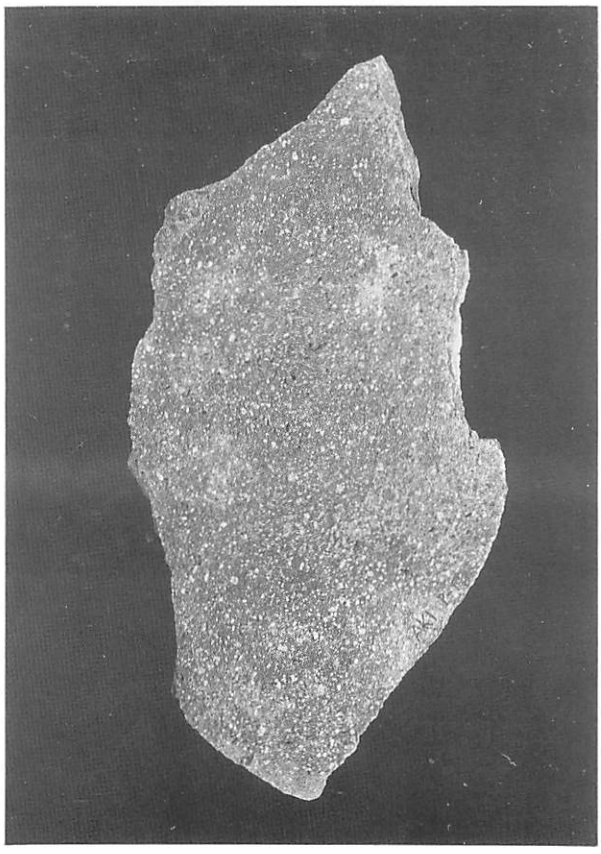
P－1



P－3

P－2

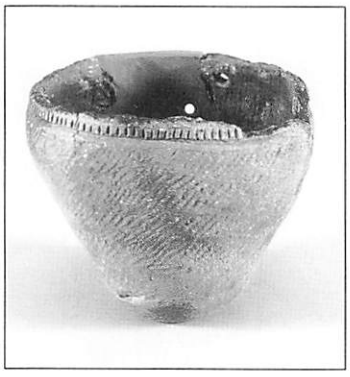
P－3



P－7

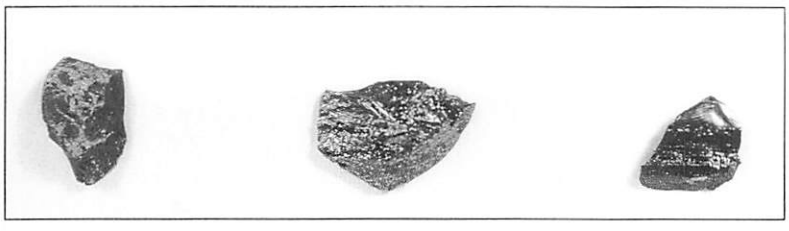
写真３　遺構出土遺物（P－1・2・3・7）

P－8



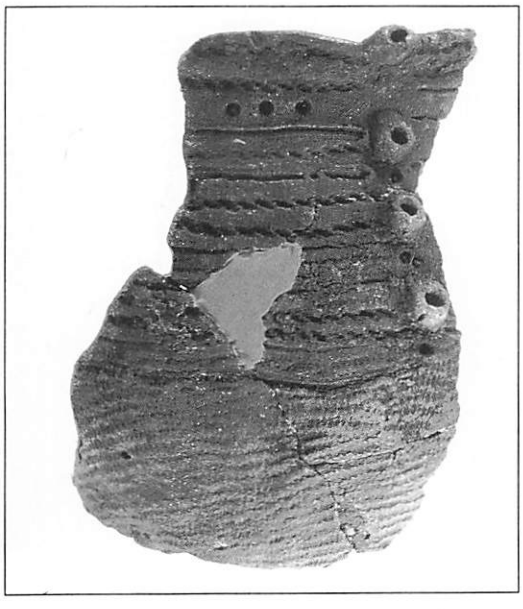
P－6

P－6

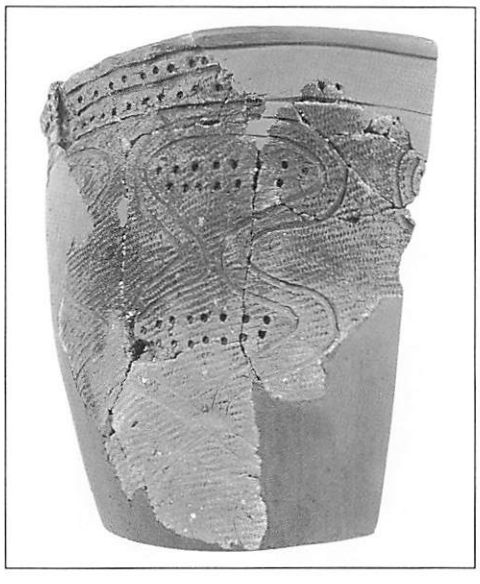


P－8

H－2

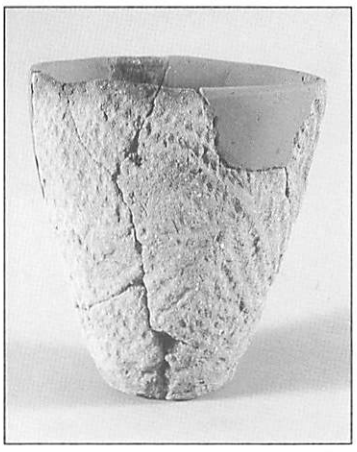


H－2



H－2

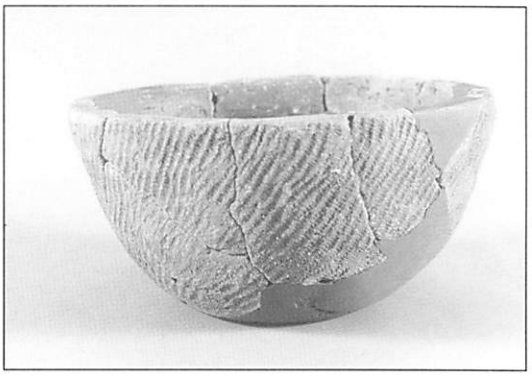
写真４　遺構出土遺物（P－6・8，H－2）

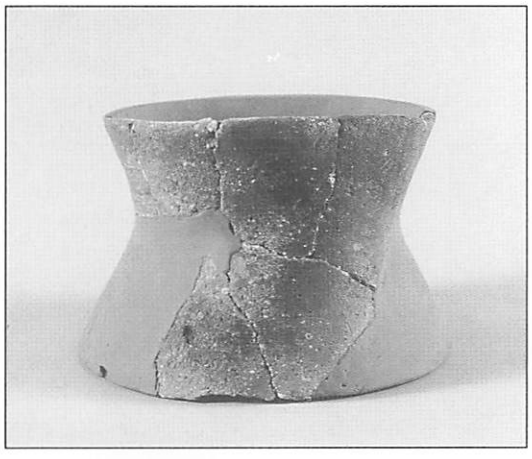


Ⅱ群

Ⅱ群

Ⅱ群





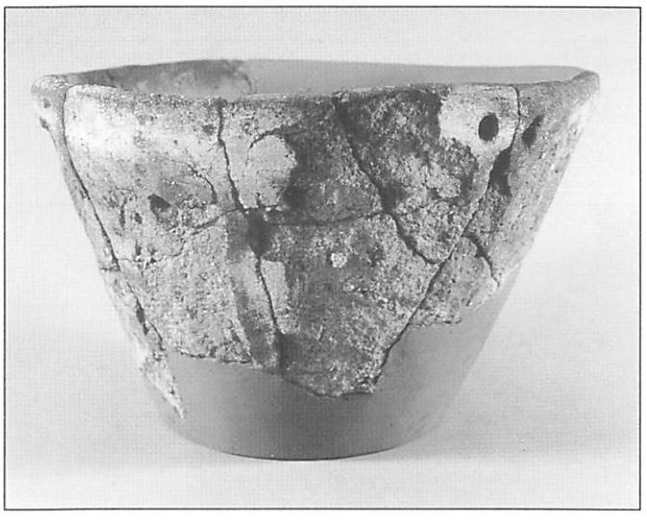
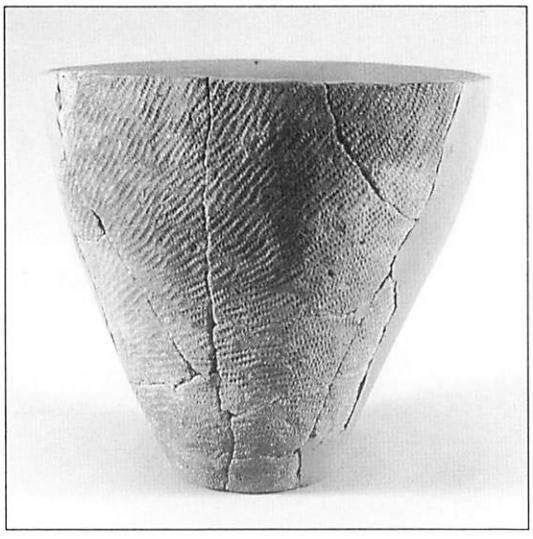
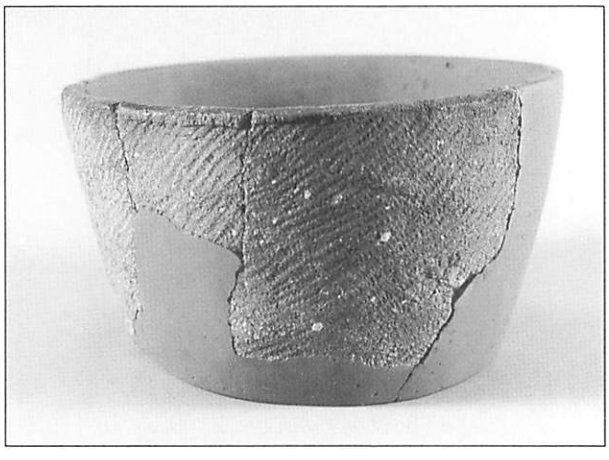
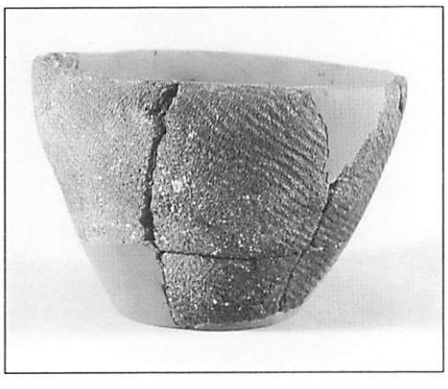


写真５　遺構外出土の土器（Ⅱ・Ⅳ群）







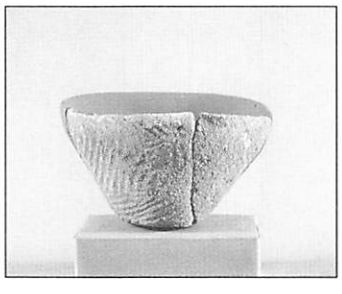
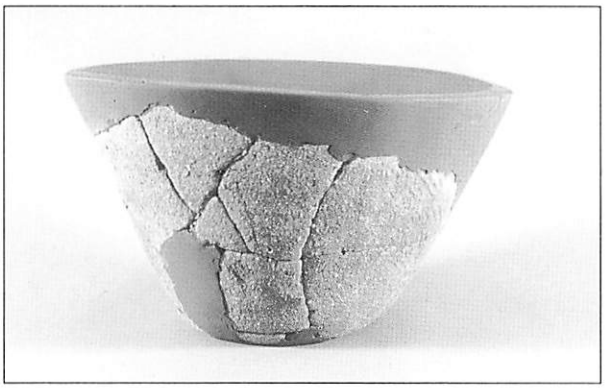
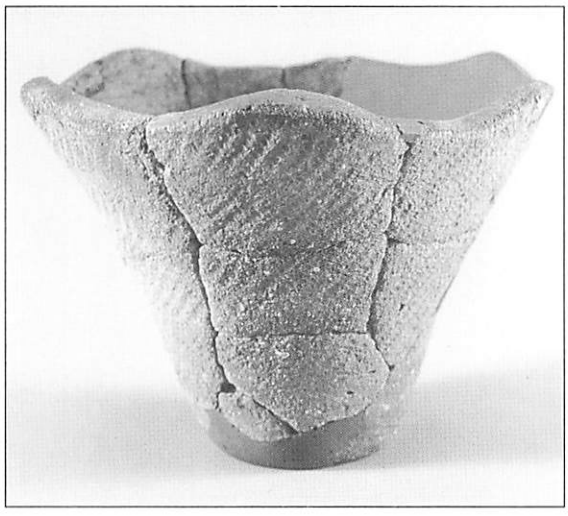
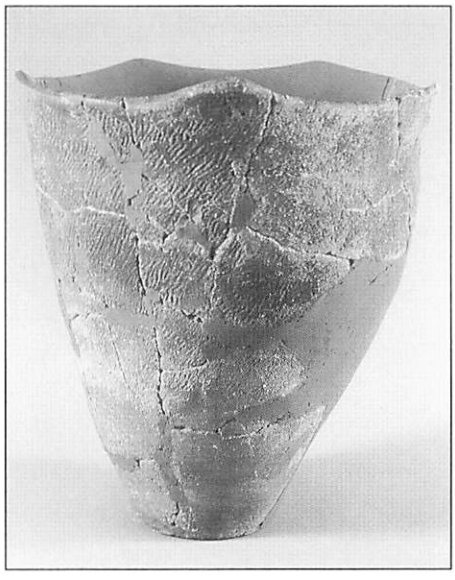


写真６　遺構外出土の土器（第Ⅳ群）







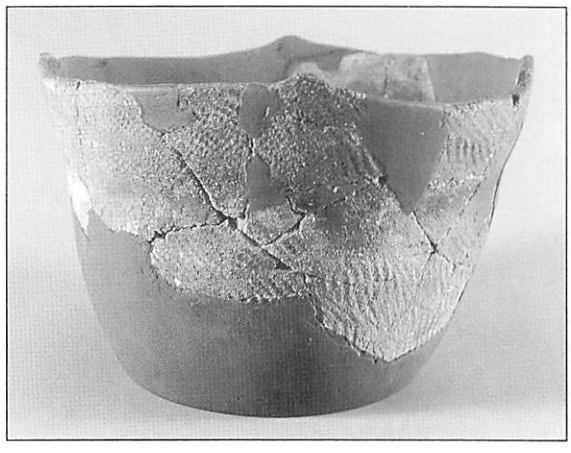
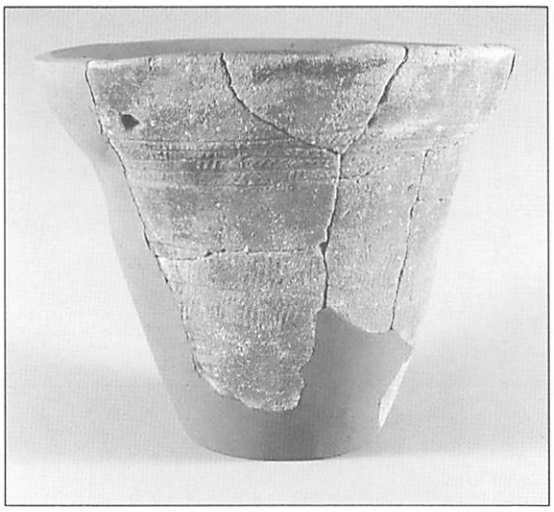
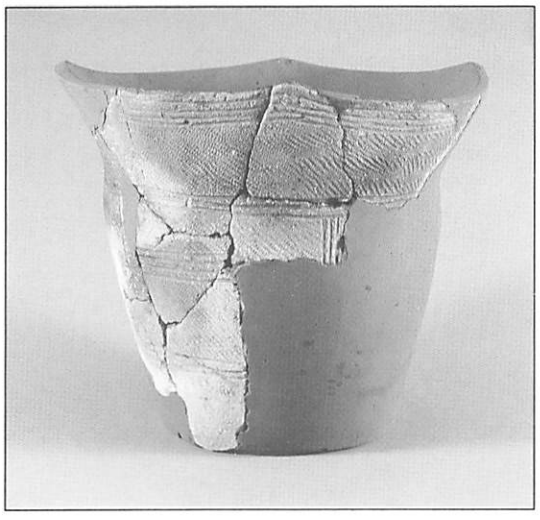


写真７　遺構外出土の土器（第Ⅳ群）





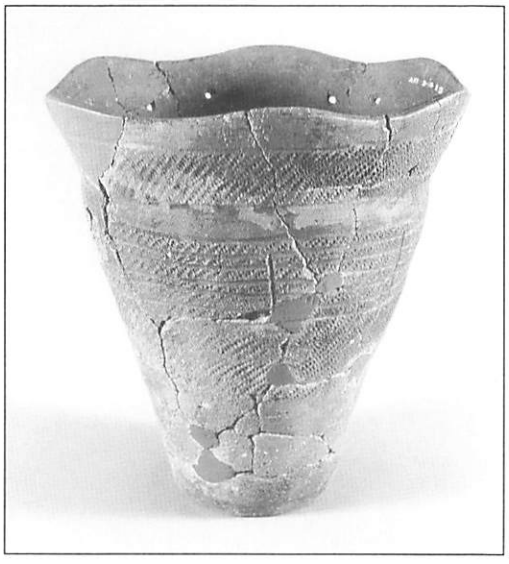


写真８　遺構外出土の土器（第Ⅳ群）

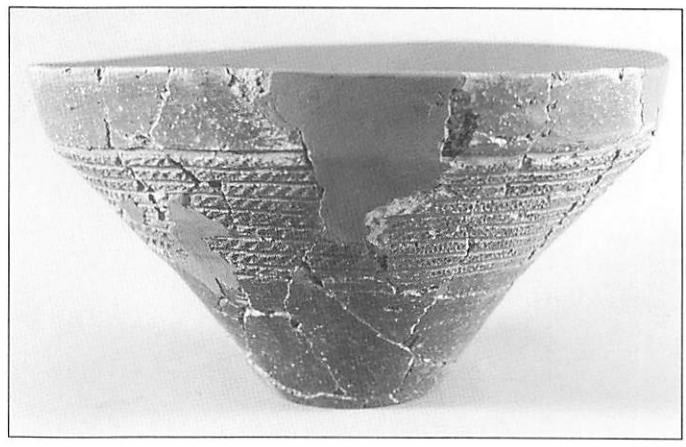
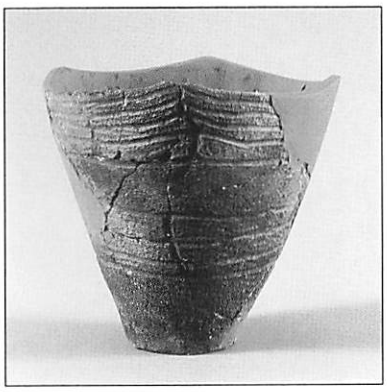


写真９　遺構外出土の土器（第Ⅳ群）



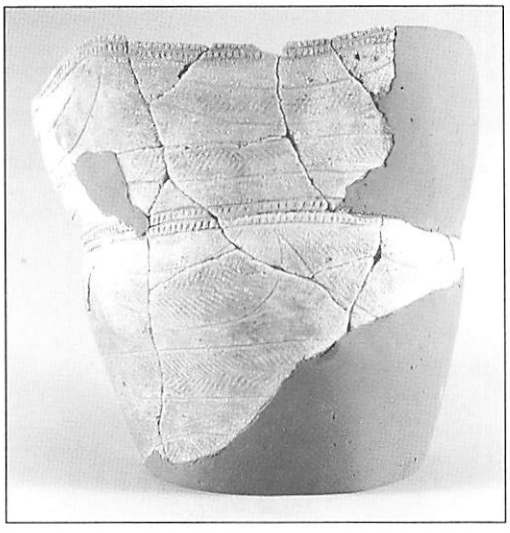
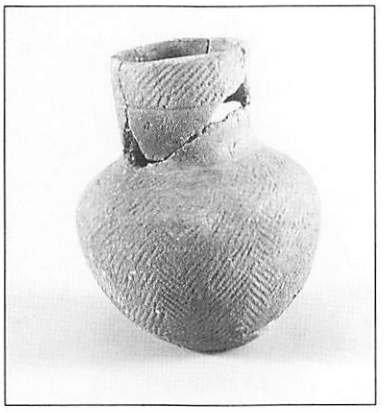


写真10　遺構外出土の土器(第Ⅳ群)



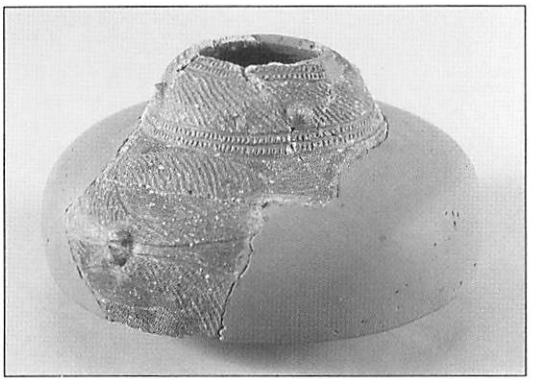
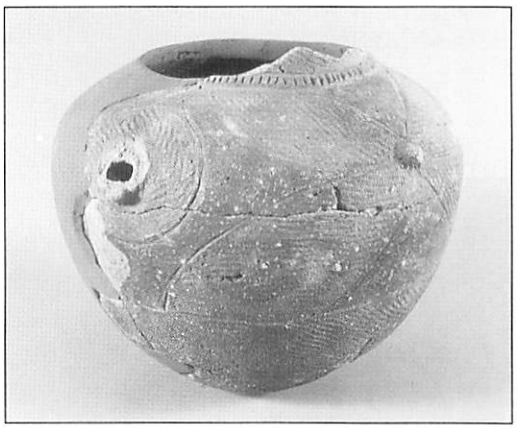
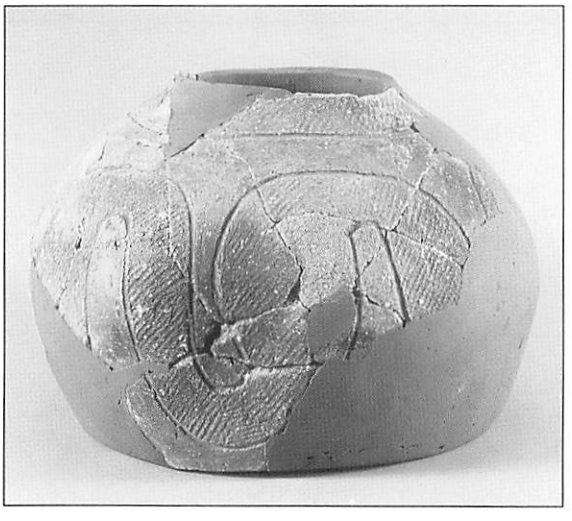
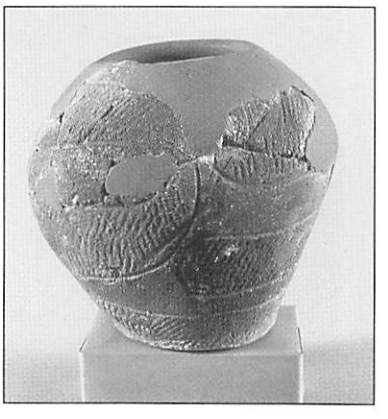
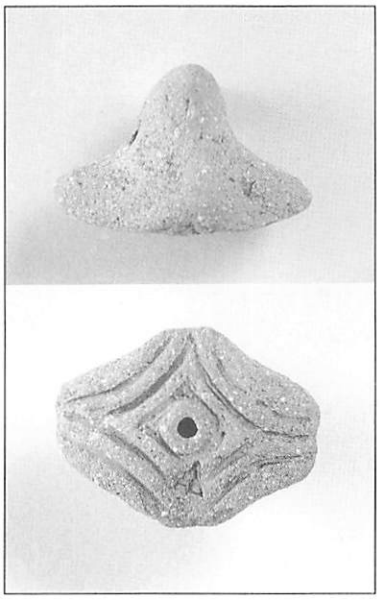
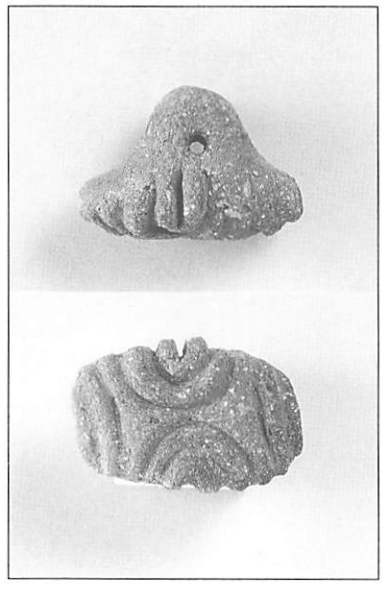
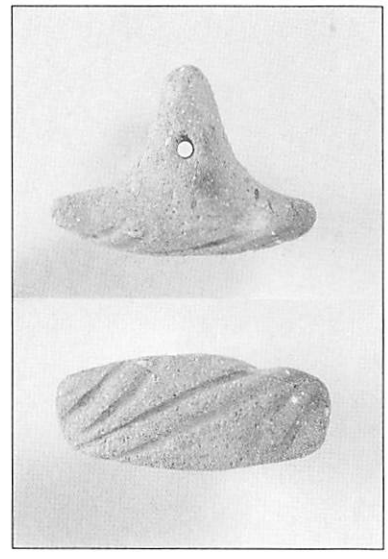





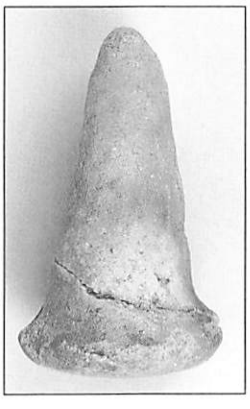
写真11　遺構外出土の土器（第Ⅳ群）



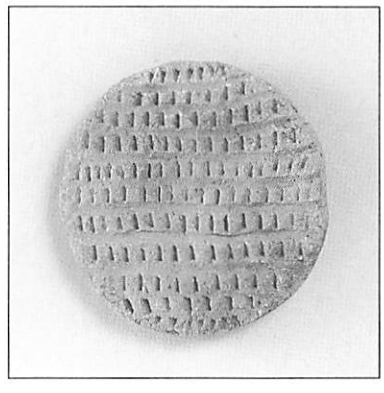




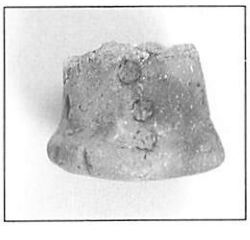
スタンプ状土製品



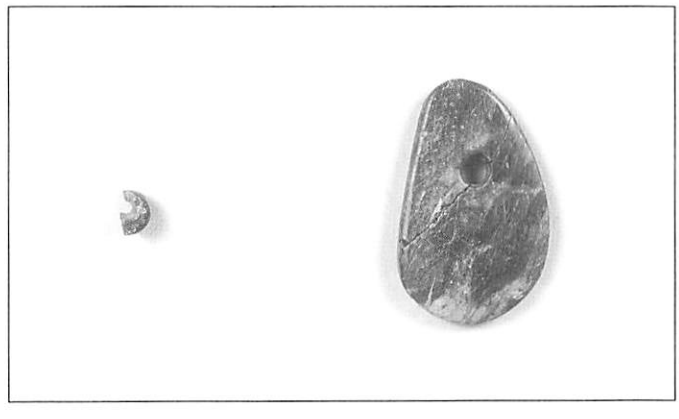
P－1



オロシガネ状
土製品

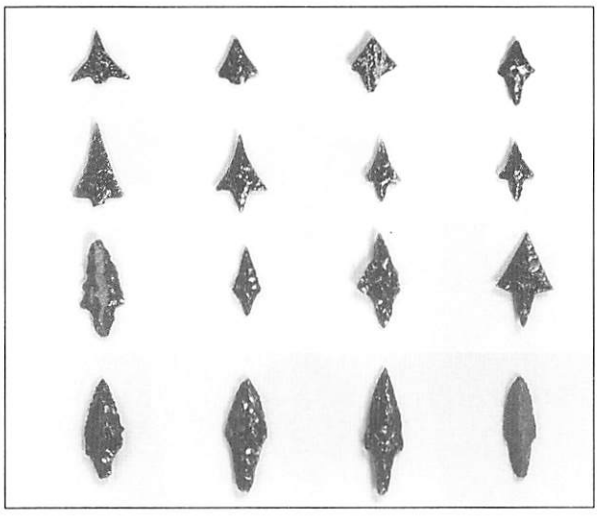


H－2

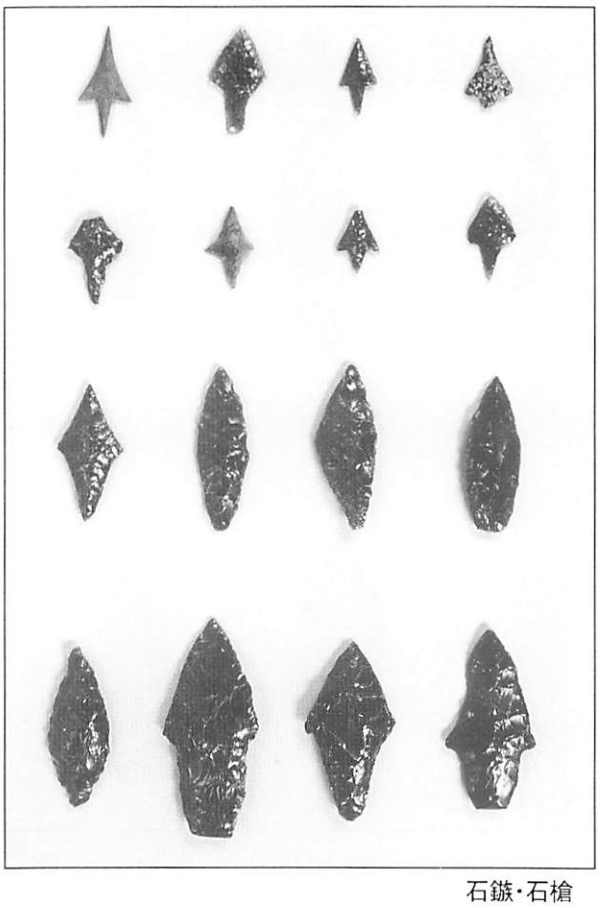


石製玉と垂飾

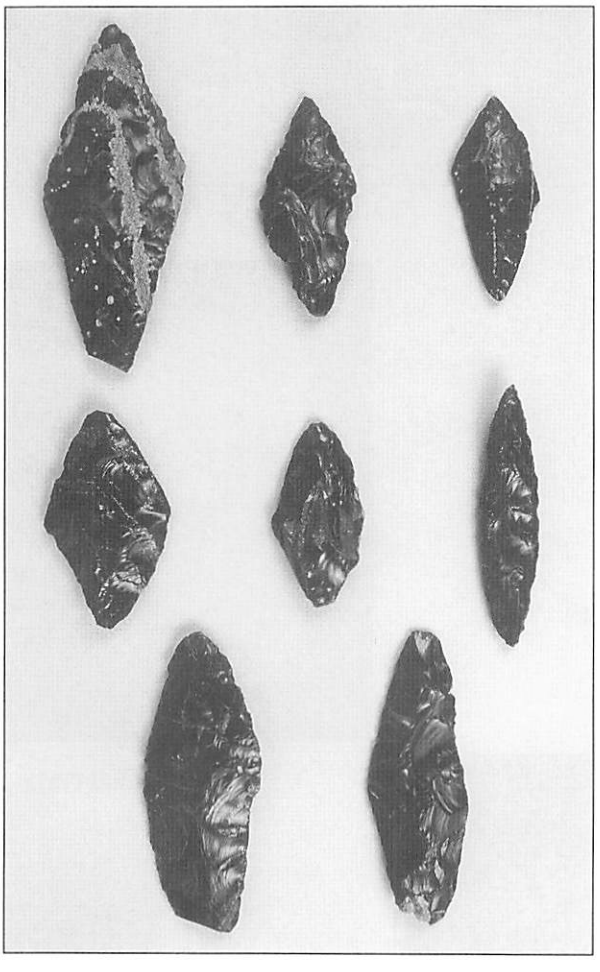
写真12　遺構外出土の土器



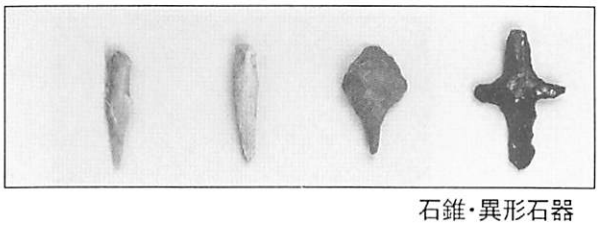
石　鏃



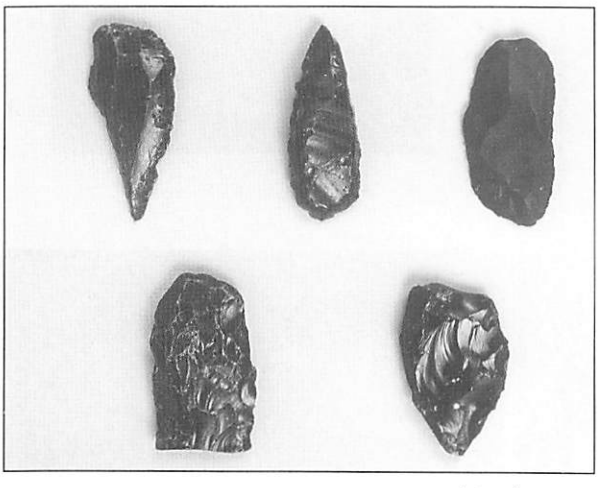
石鏃・石槍



石槍・スクレイパー

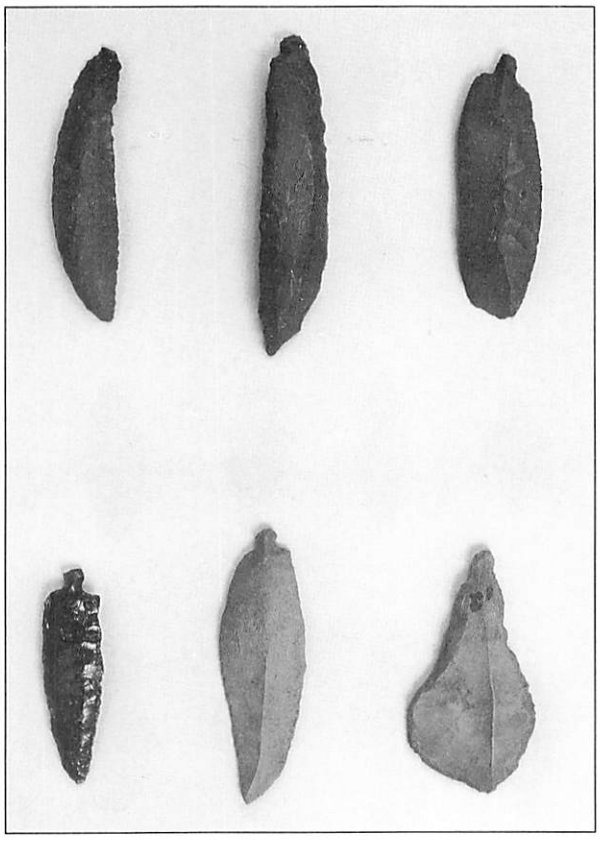


石錐・異形石器

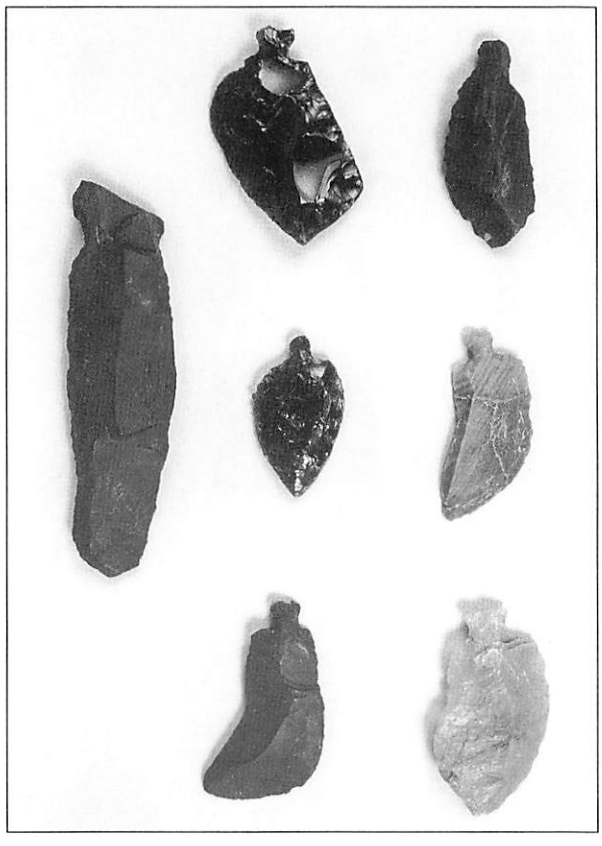


スクレイパー

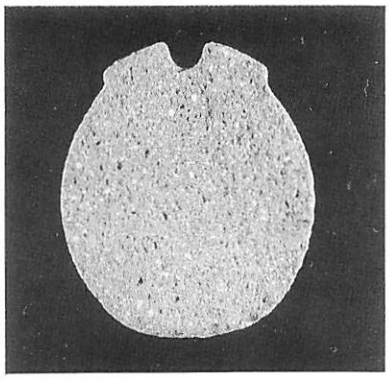
写真13　遺構外出土の石器



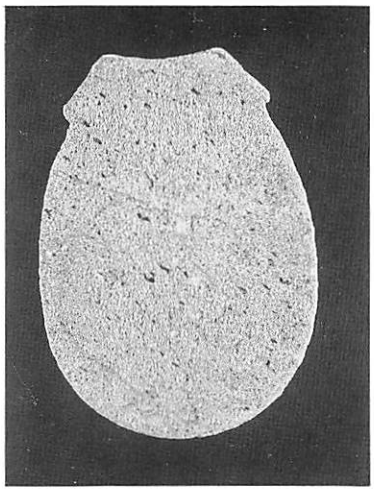
つまみ付ナイフ



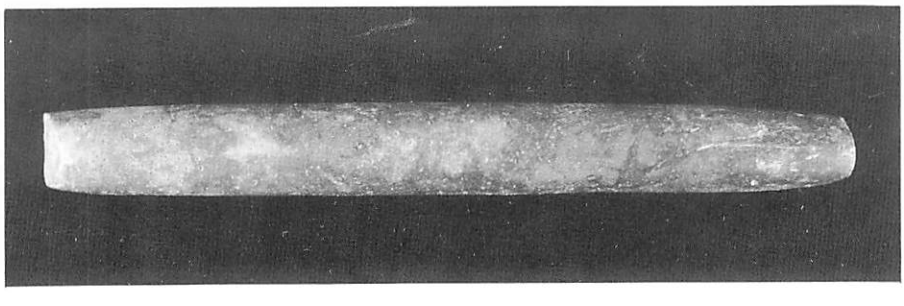
つまみ付ナイフ



オロシガネ状
石製品

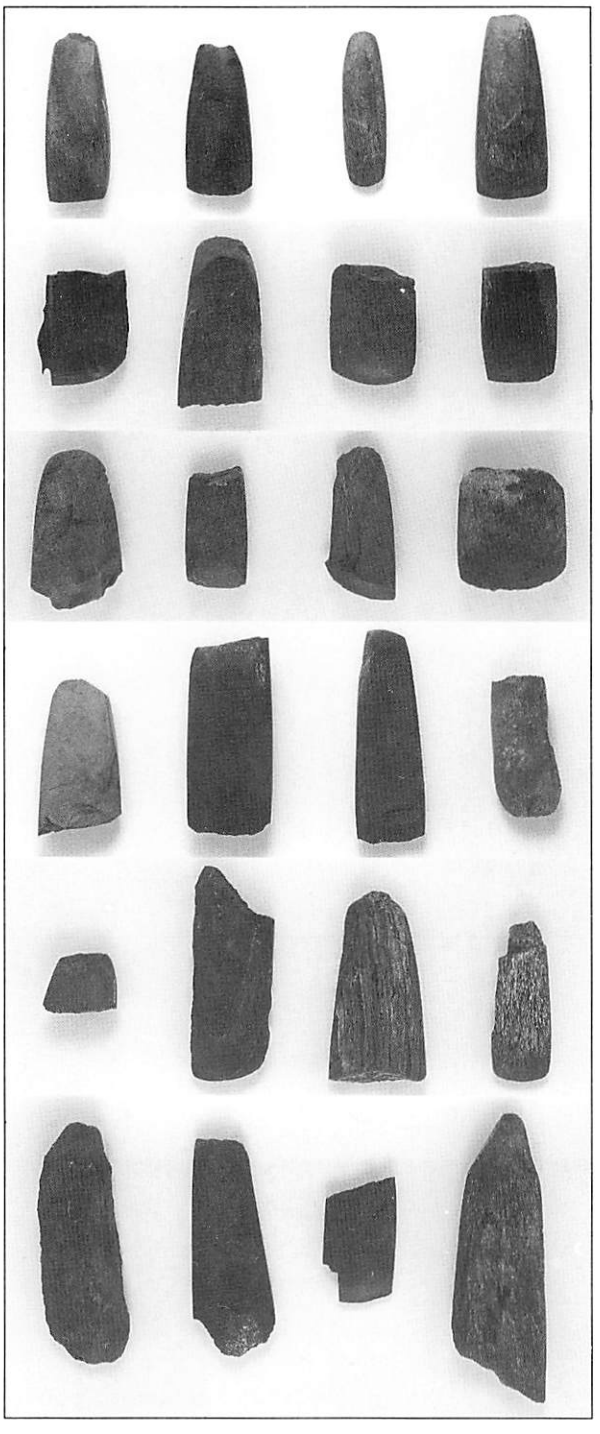


オロシガネ状石製品

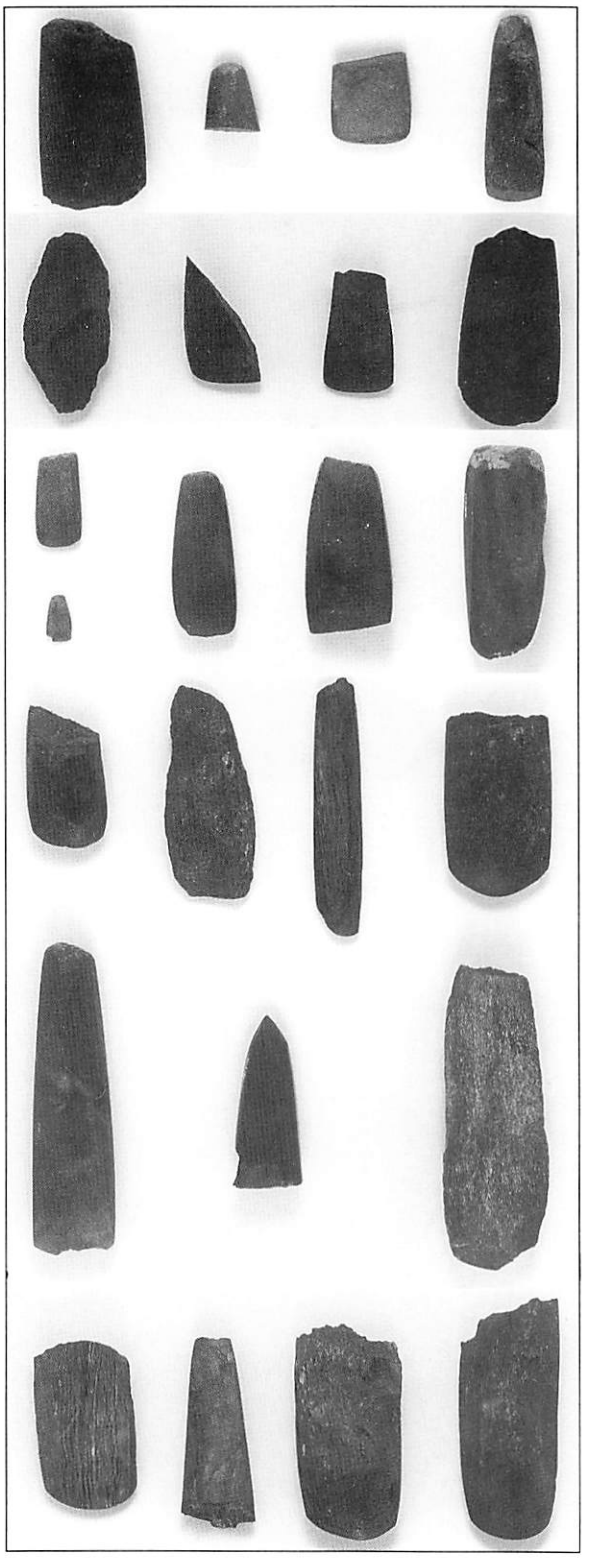


石棒

写真14　遺構外出土の石器

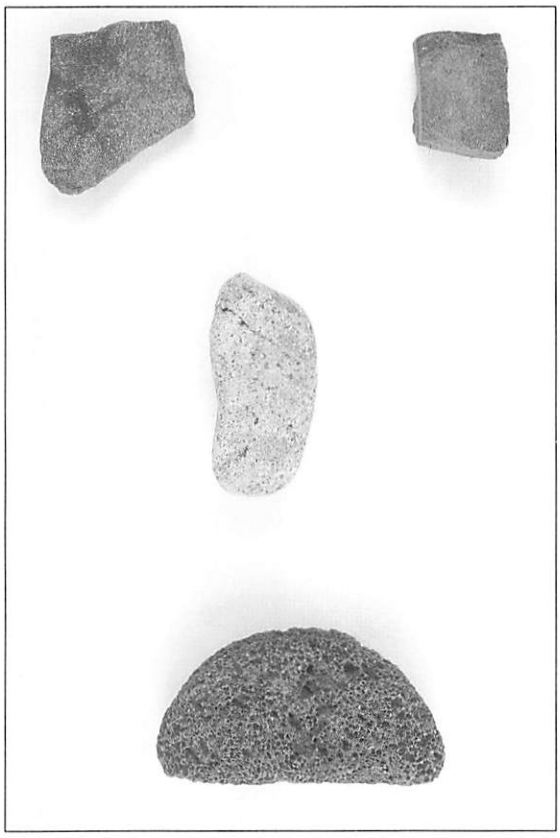


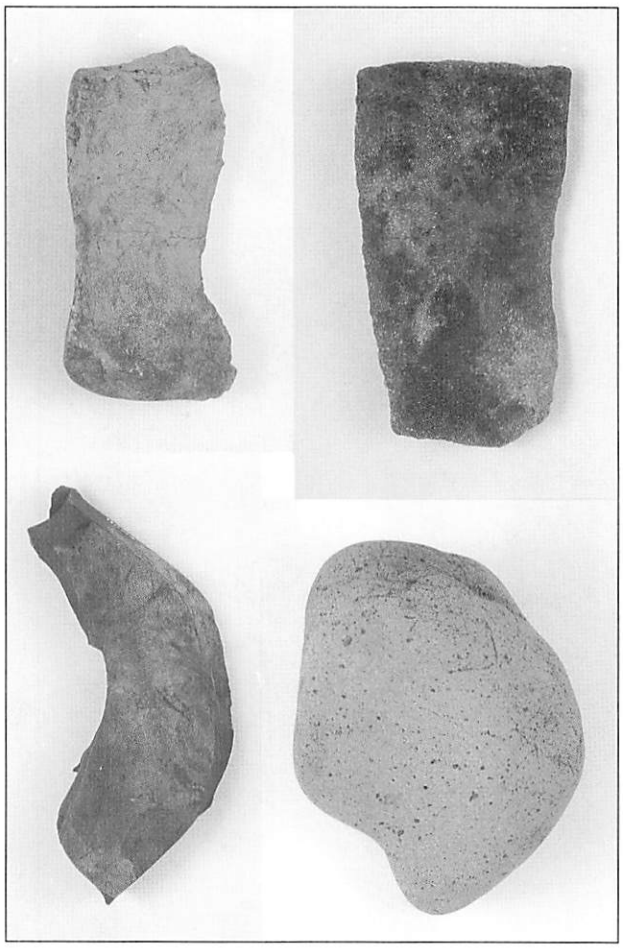
石　斧

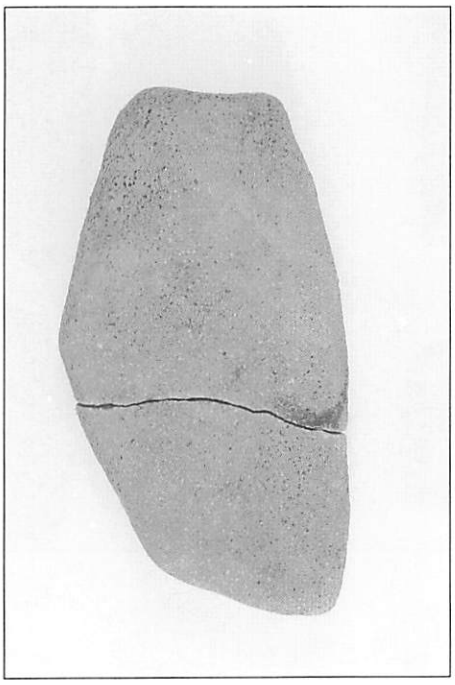


石　斧

写真15　遺構外出土の石器







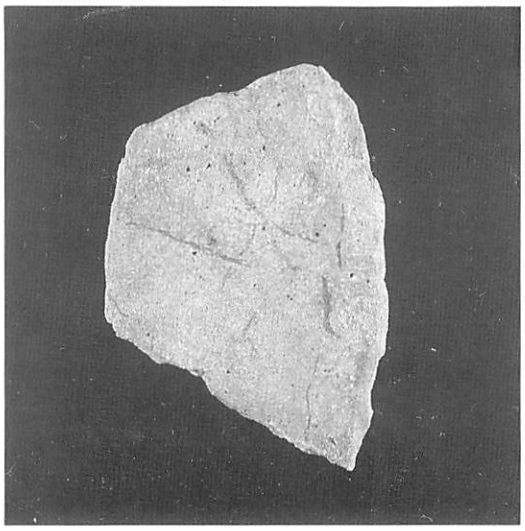


写真16　遺構外出土の石器(擦石)

報告書抄録

ふりがな	あ き いせき
書　　名	安 芸 遺 跡
副 書 名	余市町黒川第一土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	乾　芳宏
編集機関	北海道余市郡余市町教育委員会
所 在 地	〒046-0015　北海道余市郡余市町朝日町26番地　Tel 0135-21-2111
発行年月日	西暦２００２年９月３０日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査 期間	調査 面積	調査 原因
あ き い せ き 安芸遺跡	ほっかいどう 北海道 よいちぐん 余市郡 よいちちょう 余市町 くろかわちょう 黒川町	０１４８	D-19-19	43° 11′	140° 49′	2000.8.13 ～ 10.20	1,764 ㎡	土地区画整理事業

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
安芸遺跡	包蔵地	縄文時代	住居跡 炉跡	土器 石器	縄文時代後期の貯蔵土坑が発見された。

安芸遺跡発掘調査報告書

余市町黒川第一土地区画整理事業に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行　平成14年９月30日

編集・発行　余市町教育委員会
〒046-0015
北海道余市郡余市町朝日町26番地

印刷　株式会社　毛利印刷
余市郡余市町大川町１丁目26番地